

Yanaginogosho Site

The 73th Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12th Century



2013

Iwate Board of Education , JAPAN

岩手県文化財調査報告書第137集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

岩手県教育委員会

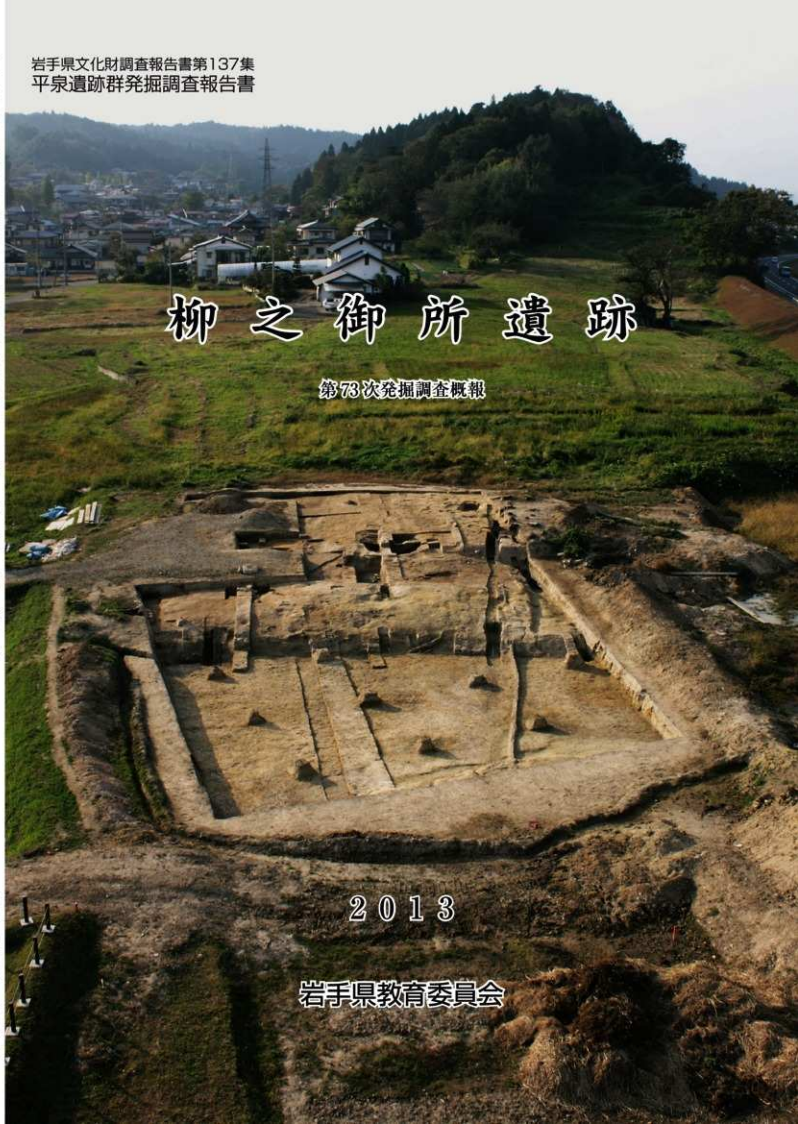
岩手県文化財調査報告書第137集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第73次発掘調査概報

2013

岩手県教育委員会



岩手県文化財調査報告書第137集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第73次発掘調査概報

2013

岩手県教育委員会

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡で、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡などの文化財と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。本遺跡は、昭和63年から(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一貫治水事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・圍池跡・堀跡などが確認され、また、膨大な量のかわけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土いたしました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が「吾妻鏡」に記された「平泉館」であることが指摘されています。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のご理解により、平成5年には遺跡の保存が決定し、平成9年3月に「柳之御所遺跡」として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、史跡公園として整備して後世に伝えるとともに、広く活用していきたいと考え、平成10年度から史跡整備に向けた発掘調査を実施してきました。史跡公園の公開も進み、これまで多くの方々にご来園いただいております。

また、平成23年に「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されました。残念ながら柳之御所遺跡は登録からは漏れてしまいましたが、その後平成24年に改めて暫定リストに登録されています。今後は本遺跡をはじめ未登録の遺跡についても、その価値評価にむけて活動を展開していく所存であります。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方、文化庁記念物課、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

平成25年3月

岩手県教育委員会
教育長 岩野洋樹

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成23年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成23年6月1日から10月31日である。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。
3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。
SA：堀・柱列 SB：擁立柱建物 SC：道路状遺構 SD：溝・堀
SE：井戸・井戸状遺構 SG：園池 SK：土坑・柱穴の一部 SX：その他
SI：竪穴住居 P：柱穴
例：73SK1 第73次調査の第1号土坑
4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて縮尺を1/3を基準にし、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 本書の編集・執筆は生涯学習文化課柳之御所担当で協議の上、村田 淳・櫻井友幹が行った。執筆分担は、各項目の文末に記載している。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察に際しては、『新版標準土色帖』を参考にした。
8. 自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。
相原康二 安達訓仁 伊藤博幸 井上雅孝 及川 司 及川真紀 鳥原弘征 鈴木弘太
高橋千晶 西野 修 羽柴直人 古川 明 本澤慎輔 前川佳代 八重樫忠郎 八木光則
(50音順：敬称略)
岩手県立博物館 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平泉町文化遺産センター
文化庁記念物課
10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

I 序 論	1
1 遺跡の位置と調査経緯	1
2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会	1
3 今年度の調査	4
II 調査内容	8
1 本調査区	8
(1) 調査の概要	8
(2) 検出遺構	10
(3) 出土遺物	28
2 試掘調査区	39
III 自然科学分析	45
I 放射炭素年代測定	45
II 樹種同定	46
IV 総 括	49
V 付章 柳之御所遺跡出土資料の再整理 (中間報告1)	64

図 版 目 次

図版1 遺構 調査区全景	図版14 遺構 試掘調査区
図版2 遺構 72SD1	図版15 遺物 かわらけ①
図版3 遺構 72SD2①	図版16 遺物 かわらけ②
図版4 遺構 72SD2②	図版17 遺物 かわらけ③
図版5 遺構 72SD2③	図版18 遺物 かわらけ④
図版6 遺構 51-43トレンチ	図版19 遺物 かわらけ⑤
図版7 遺構 73P1-3	図版20 遺物 かわらけ⑥・輸入陶磁器
図版8 遺構 73SK1・2	図版21 遺物 国産陶器①
図版9 遺構 73SK2・6、P4	図版22 遺物 国産陶器②
図版10 遺構 73SX1①	図版23 遺物 国産陶器③
図版11 遺構 73SX1②、73SD3-5	図版24 遺物 国産陶器④
図版12 遺構 73SD3-5・7	図版25 遺物 国産陶器⑤
図版13 遺構 73SD1・7	図版26 遺物 国産陶器⑥・瓦

挿 図 目 次

図1	遺跡位置図	図21	72SD2出土土器類実測図2	33
図2	調査区位置図	図22	72SD2出土土器類実測図3	34
図3	遺構配置図	図23	72SD2出土土器類実測図4	35
図4	調査区西側遺物取り上げ区割図	図24	72SD2出土土器類実測図5	36
図5	72SD1平面図	図25	72SD2出土土器類実測図6	37
図6	72SD1・2遺物取り上げ区割図	図26	72SD2・その他遺構出土土器類実測図	38
図7	72SD2平面図	図27	遺構外出土土器類実測図1	40
図8	72SD2断面図	図28	遺構外出土土器類実測図2	41
図9	51-43トレンチ平面・断面図	図29	遺構外出土土器類実測図3	42
図10	73P1・2平面・断面図	図30	遺構外出土土器類実測図4	43
図11	72SD2遺物出土状況図	図31	遺構外出土土器類実測図5	44
図12	73SK1・2平面・断面図	図32	試掘調査区平面図・出土土器実測図	44
図13	73SK6・P4平面・断面図	図33	木材断面図	48
図14	73SX1平面・断面図	図34	道路遺構分布図	51
図15	73SX1断面図	図35	文字資料出土遺構分布図	65
図16	73SD1・3～5・7平面図	図36	文字資料出土遺構図1	74
図17	73SD1・3～5・7断面図	図37	文字資料出土遺構図2	75
図18	72SD1出土土器類実測図1	図38	文字資料出土遺構図3	76
図19	72SD1出土土器類実測図2	図39	文字資料出土遺構図4	77
図20	72SD2出土土器類実測図1			

挿 表 目 次

表1	発掘調査年次計画	表8	遺物観察表(かわらけ)	53
表2	平泉遺跡群調査整備指導委員名簿	表9	遺物観察表(同窓陶器)	57
表3	平成23年度指導委員会協議事項	表10	遺物観察表(輸入陶磁器)	62
表4	73次調査出土遺物数量表	表11	遺物観察表(瓦)	62
表5	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果	表12	遺物観察表(土製品)	63
表6	樹種同定結果	表13	文字資料出土遺構一覧	73
表7	柳之御所遺跡道路遺構一覧			

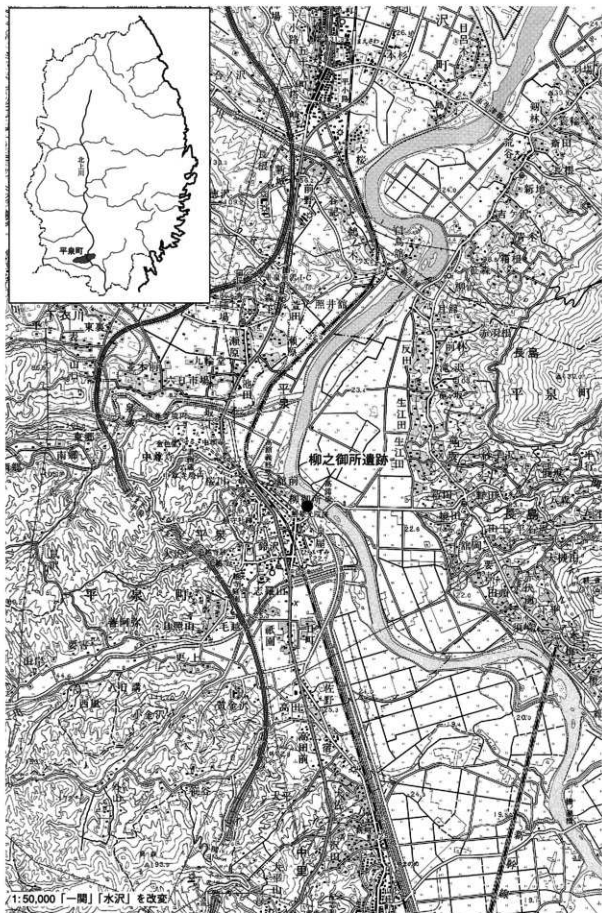


図1 遺跡位置図

I 序 論

1 遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、緯度・経度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（日本測地系）である（図1）。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵、東に北上川、西から南にかけて窪間が淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北西側が高く、南東側に傾斜している。北上川に接しているため遺跡の一部は浸食されたと考えられるが、本来の形状は不明である。遺跡の範囲は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後に岩手県による公有地化が行われている。

遺跡は一箇遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、大規模な発掘調査が行われ、内容が明らかになるにつれその価値が高く評価されることとなった（岩手県埋蔵文化財センター1995）。それを受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省（現在の国土交通省）や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。その後、平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。岩手県教育委員会では遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。調査は堀内部地区を中心に行ってきた。これらにより、堀内部地区の大部分が調査され、性格が明らかになりつつあるほか、遺構や遺物の両面から研究が深化している。なお、柳之御所遺跡堀内部地区は、平成22年より史跡公園として公開を行い、現在も史跡整備工事を継続している。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して窪間が淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも異なる伽藍の内容が確認されている。伽羅御所跡は地名から『吾妻鏡』に記載される伽羅御所に比定される見解もある。これまで複数の地点で調査が行われ、貴重な遺物も出土しているが、小規模の発掘調査にとどまり明確に示すものは確認されていない。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の街並みに関連する遺跡が調査されている。北上川を挟んだ東岸城や衣川を挟んで北側の奥州市接待館遺跡、白鳥館遺跡などの調査も行われており、当時の平泉やその周辺域を視野に入れた検討が行われてきている。

2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査を3カ年ずつ計画を立て進めている（表1）。平成23年度調査（73次）は第5次3カ年計画の2年目にあたる。第5次3カ年計画は堀跡を中心に行発掘調査を行い、堀跡や堀内部地区への導入施設などの検討と整備に関わるデータ収集を主な目的とした。なお、平成24年度も堀内部地区北端部周辺の調査を行っており、堀跡を中心として遺構や導入施設の有無や標相の確認を主な目的としている。第5次3カ年計画では北端部周辺の堀跡を中心に行調査を行い、第6次3カ年計画では遺跡の南側を含む堀跡周辺の調査へと進めていく予定である。これまでの計画と今後の計画については表2に示した。調査整備にあたっては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに追加登録されたことから、会

表1 発掘調査年次計画

	年 次	調査次数	調査内容等	調査面積	調査期間	備 考
第1次ニギギ調査	平成10年度	第40次	・堀内地区内の中心集落群、特に最大集落である市北棟4回9期4S8H1(2S8H4)と一部近郊の常陸地区の探明。 ・2S8A1埋跡の2S8A1埋跡の延長確認。 ・2S8A1埋跡の、2S8A1埋跡の延長確認。 ・4S8H1埋跡の延長確認と市東埋跡の検討。 ・道路及び中心集落群を囲む2S8A1埋跡の追跡。 ・4S8H1埋跡の埋跡の状況及び埋跡状況記録。 ・30次、40次の内容確認調査に確認されていた溝・埋跡の調査及び埋跡状況の記録。	300㎡	5月15日 ～10月31日	国庫補助
	平成11年度	第50次	・堀内地区、中心集落群の探明及び市東埋跡の探明。 ・2S8A1埋跡の探明。 ・堀内地区との埋跡の埋跡の埋跡。 ・堀内地区からの埋跡と推定される道路遺構の埋跡。 ・中心集落群の埋跡の埋跡の埋跡。	1,800㎡	5月15日 ～10月31日	国庫補助
	平成12年度	第52次	・堀内地区、中心集落群の探明及び市東埋跡の探明。 ・2S8A1埋跡の探明。 ・堀内地区との埋跡の埋跡の埋跡。 ・堀内地区からの埋跡と推定される道路遺構の埋跡。 ・中心集落群の埋跡の埋跡の埋跡。	2,300㎡	5月15日 ～11月17日	国庫補助
第2次ニギギ調査	平成13年度	第55次	・中心集落群を囲むと推定される埋跡の埋跡。 ・堀内地区からの埋跡と推定される道路遺構の埋跡。 ・現在する調査区域の高まりの調査記録。 ・北上川埋跡の埋跡の埋跡。	3,100㎡	5月11日 ～11月13日	国庫補助
	平成14年度	第56次	・第2次発掘調査の際に埋跡された人規模な溝(1回)と東西集落を伴う埋跡の埋跡。 ・北上川埋跡の埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡を二分する埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。	4,000㎡	5月12日 ～11月29日	国庫補助
	平成15年度	第57次	・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。	4,000㎡	4月14日 ～10月31日	国庫補助
第3次ニギギ調査	平成16年度	第58次	・堀内地区の埋跡及び堀内と近郊埋跡の埋跡。 ・堀内地区からの埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。	3,300㎡	5月10日 ～10月31日	国庫補助
	平成17年度	第61次	・堀内地区の埋跡及び堀内と近郊埋跡の埋跡。 ・堀内地区からの埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。	2,300㎡	4月16日 ～9月30日	国庫補助
	平成18年度	第65次	・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。	1,300㎡	5月8日 ～10月21日	国庫補助
第4次ニギギ調査	平成19年度	第68次	・埋跡の埋跡(2S8A1)及び堀内(2S8A1)の埋跡確認。 ・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。 ・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。 ・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。	1,200㎡	5月7日 ～10月15日	国庫補助
	平成20年度	第69次	・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。 ・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。 ・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。 ・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。	1,100㎡	5月7日 ～12月10日	国庫補助
	平成21年度	第70次	・堀内地区の埋跡の埋跡の埋跡。 ・堀内地区からの埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。	1,300㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助
第5次ニギギ調査	平成22年度	第72次	・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。 ・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。 ・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。 ・埋跡の埋跡(2S8A1)の埋跡確認。	1,100㎡	5月11日 ～9月30日	国庫補助
	平成23年度	第73次	・堀内地区の埋跡の埋跡の埋跡。 ・堀内地区からの埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助
	平成24年度	第74次	・堀内地区の埋跡の埋跡の埋跡。 ・堀内地区からの埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。 ・埋跡の埋跡と埋跡の埋跡の埋跡。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助

※ 53次・53次・53次・53次・60～63次・66次・71次調査は宇都宮教育委員会が実施。

の名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、平成15年度は世界遺産本登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した(表2)。平成23年度の委員会・専門部会は表3の通り開催した。

表2 平泉遺跡群調査整備指導委員名簿

(平成23年4月現在、役職は当時)

氏名	役職	専門部会
入間田宣夫	東北芸術工科大学教授	整備
遠藤セツ子	メビウスの会事務局長	整備
○岡田 茂弘	独立行政法人国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小野 正敏	独立行政法人人間文化研究機構理事	遺構
坂井 秀弥	奈良大学教授	遺構
斎藤 利男	弘前大学教授	遺構
佐藤 信	東京大学教授	保存・整備
清水 操	東京工芸大学名誉教授	遺構
清水 真一	徳島文理大学教授	遺構
関宮 治良	前半泉町商工会事務局長	整備
田中 哲雄	元東北芸術工科大学教授	保存・整備
◎田辺 征夫	独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所長	遺構
玉井 哲雄	独立行政法人国立歴史民俗博物館教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存

※ ◎委員長 ◎副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理調査検討部会、整備：整備検討部会

表3 平成23年度指導委員会協議事項

回	日時	内容
遺構・整備部会	23.7.20	東日本大震災による調査整備計画の修正について 今年度の調査整備の内容について 平泉遺跡群の調査整備について（無量光院跡の整備）
第1回委員会	23.9.15～16	今年度の調査について 今年度の整備について（植栽、看板等について） 平成24年度柳之御所史跡公園の整備について 平泉遺跡群の調査整備について（無量光院跡の整備）
遺構・整備部会	23.12.22	今年度の整備工事について 来年度以降の整備計画について 橋跡の整備検討について 看板等の整備について 汚物廃棄穴の整備について 無量光院跡の調査状況、整備計画について
保存管理部会	23.12.22	世界遺産に係る資産影響評価
第2回委員会	24.2.16～17	今年度の整備について 今後の柳之御所遺跡の整備計画について 汚物廃棄穴の整備について 無量光院跡の調査状況、整備計画について 平泉遺跡群の今年度の調査成果について 世界遺産に係る資産影響評価

3 今年度の調査 (図2)

(1) 調査体制

〈岩手県教育委員会事務局〉

生涯学習文化課総括課長	錦 泰司 (H24.3.31まで)
生涯学習文化課総括課長	西村 文彦 (H24.4.1から)
文化財・世界遺産課長	中村 英俊 (H24.3.31まで)
世界遺産担当課長	菊池 修一 (H24.4.1から)
主任主査(柳之御所担当)	鎌田 勉
文化財専門員(柳之御所担当)	戸根 貴之 (H24.3.31まで)
文化財調査員(柳之御所担当)	佐藤 郁哉 (H24.4.1から)
文化財調査員(柳之御所担当)	櫻井 友梓

〈(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

所 長	渡邊 和男
文化財調査員	村田 淳

(2) 調査区の位置と調査目的

平成23年度調査(73次)は遺跡北端部の未調査範囲を主な対象とした(図2)。この範囲はこれまで未調査の範囲で遺構の分布状況等に不明な点が多い。72次調査(平成22年度)で岩手県教育委員会が調査した範囲と隣接し、その南側に位置する。72次調査では内側と外側の2条の堀跡(それぞれ72SD1、72SD2)や掘立柱建物跡、櫓列を確認した。72SD1と72SD2が平行して南北方向に走り、72SD2は地形の改変を受けて上面が削られたと考えられる。堆積の様相には差が大きく、出土遺物の特徴からも2条の堀跡の差が目立つ。

今回の調査区はこれらの堀跡が続くことが予想されることから、その規模や走向を確認することを目的とする。2条の堀跡については遺跡南側での調査が先行して進捗してきており、北端部周辺の様相に不明確な点が多いことから、72次調査と連続した範囲を対象に時期的な検討の材料を得ることや平面及び断面形状を確認することなどを目的としている。

また、今回の調査範囲は未調査範囲が多いものの、地形的に高窪方向から伸びる丘陵部の延長にあたることが注目されてきた。あわせて堀外部で確認されている中尊寺方向へと向かう道路跡の延長方向に当たり、その延長部分の確認が課題となっていた。これらから、この周辺に堀の内部と外部との結節点を想定する見解もあった。一方で、堀内部と外部で確認されている道路跡の延長では不整合が存在し、その関連が課題となっていた。今回の調査では、これらを含めた周辺の様相の確認を目的としている。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等を把握することを目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。なお、調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で調査以前の地形と合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

(3) 調査の方法

グリッド

柳之御所遺跡の調査に際しては、遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準としてグリッドを設定している。このグリッドは(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである(岩手県埋蔵文化財センター1995)。平面直角座標第X系(日本測地系)をもとにした5×5mグリッドで、南北方向の基準線に對し真北は、西に0°11′振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点(0, 0)となる。

なお、49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を採用し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばX軸方向が70、Y軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げも、近現代の変更による耕作土の出上遺物等を一部除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。

表土掘削・遺構検出

今回の調査では、昨年度の調査で表土の厚さを確認していた範囲については、バックホーを使い、表土を除去した。また、表土が薄いことが想定された以前の宅地部分の範囲については人力で表土除去を行った。表土の除去後は遺構の検出を、鋤簾などの道具を使用して確認調査(検出作業)を行った。

遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構については遺構の年代把握や遺物検討のために、半截等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は5mグリッドを分割した1m×1mのメッシュを使用して手作業で行った。今回の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構についても、検出したものについてはあらかじめ平面図の作成を行っている。写真については6×7版カメラ(モノクロ)を中心に、デジタルカメラを併用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

遺構名称

今次調査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査次数である73を付して既述の遺構略号を使用した(例、73SK○○)、72次調査で確認された遺構と同じであることが想定できる遺構については旧番号(既調査で命名)を本書においても使用している。

整理作業

野外調査終了後の平成23年11月1日から平成24年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原図を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容

この報告では、今次の調査で検出した遺構と既知の遺構でも精査の際に平載した遺構について記載している。また、新たに精査した柱穴が含まれる建物跡や新たな知見が得られた遺構についても記載している。

普及活動

普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった10月1日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

(櫻井)



図2 調査区位置図

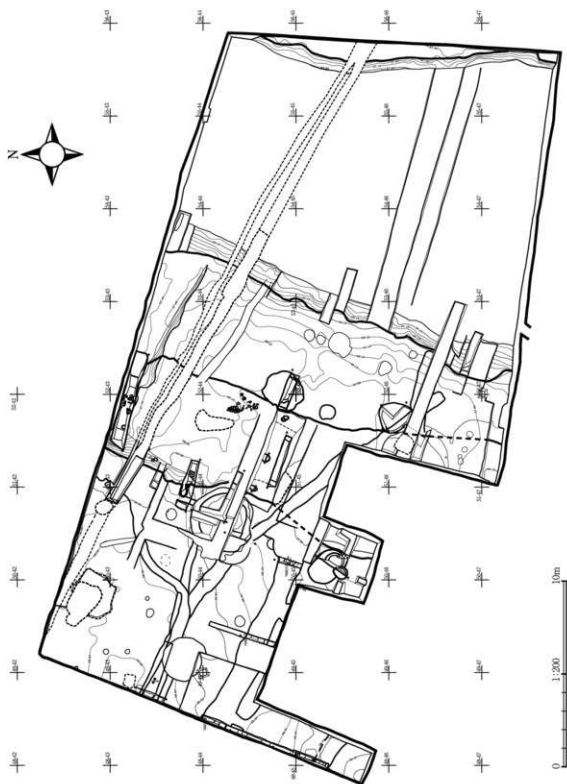


図3 遺構配置図

Ⅱ 調査内容

1 本調査区

(1) 調査の概要

今回の調査区は平成22年度に実施した72次調査区の南側に隣接する。49-42グリッドから55-47グリッドにかけて設定した調査区で、調査対象面積は1,100㎡である。公有地化以前の状況は宅地及び畑地である。現況地形は西側が高く、調査区中央付近から東側に向かって緩やかに傾斜している。

今回の調査は、72次調査区で検出された2条の堀跡72SD1・72SD2の延長上にあたると思われることから、その規模と走行方向の確認を第一の目的とする。また、堀内部地区と外部地区の結節点にあたることから、堀外部地区から内部地区へ至る導入施設である道路や橋等の検出を第二の目的としている。

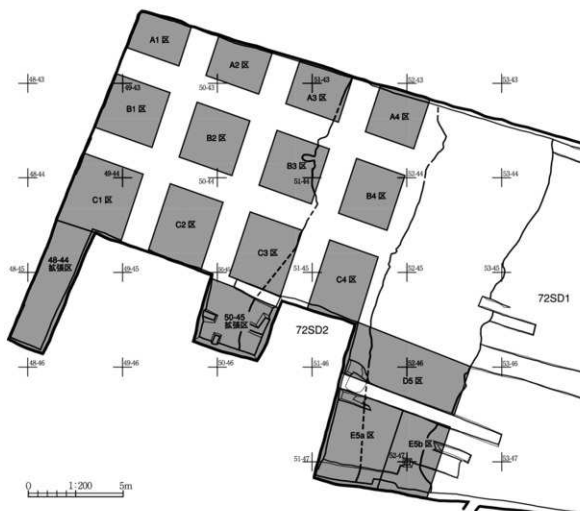


図4 調査区西側遺物取り上げ区割図

調査区内は、宅地であったこともあり造成による攪乱と削平が著しい。検出面までの層序は、調査区中央から東側（72SD1 直上）にかけては表土（Ⅰ層）と近現代の盛土の直下で黄色粘土・砂の地山となるが、調査区西側はⅠ層の直下に近世以降の堆積と考えられる暗褐色土（Ⅱ層）が確認されており（図17 73SD3～5断面図参照）、Ⅱ層の直下で地山となる。そのため、調査区中央から西側についてはグリッド杭敷設前には調査区と地形に沿って区画を設定してⅡ層から人力で掘り下げを行っている（図4）。遺構はほとんどが地山向で検出されているが、73SD1等の一部の遺構はⅡ層中で検出している。また、調査途中に、道路側溝と考えられる73SD4に対応する溝の有無を確認するために48-44グリッド内に、橋脚の可能性のある柱穴の有無を確認するために50-44グリッド内に拡張区を設けて調査を行っている。

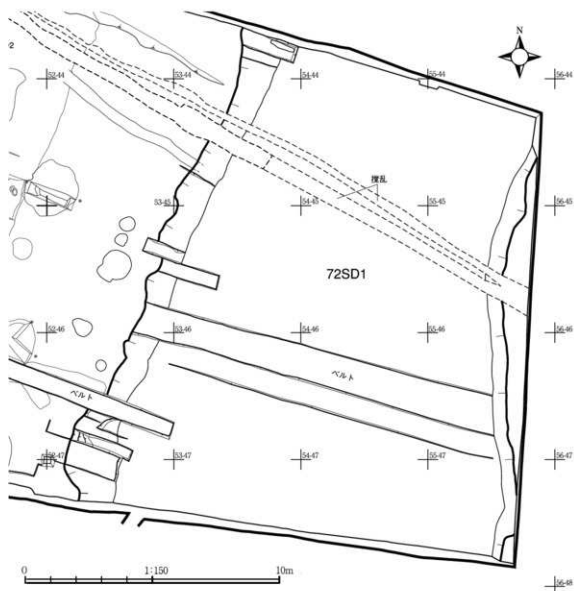


図5 72SD1平面図

今回の調査における検出遺構は以下の通りである。次節では精査を行った遺構を中心に記述する。

堀 跡	2条
土 坑	7基
道路状遺構	1箇所（溝2条）
溝 跡	7条（道路状遺構の溝含む）
柱 穴	10個

(2) 検 出 遺 構

【堀 跡】

72SD1（図5）

調査区東側53-43～55-47グリッドに位置する。過去に調査された内側の堀（21SD1・41SD2・72SD1等）と一連のものと考えられる。72次調査区から連続している状況が確認できたため、今回は昨年度と同じ72SD1の遺構名を付した。調査区内では約19mの延長を検出している。

今回は走行方向及び陶連施設の確認を目的としたため、上位の近世以降の盛土層を約1m分掘り下げたのみであり、断面形と深さは確認していない。検出面での上面規模は12～13mと、72次調査検出分とはほぼ同規模である。北東～南西方向にはほぼ直線的に走っており、主軸方位はN-18°-Eである。なお、盛土層を除去しながら壁面に陶連施設が無いか確認したが、西壁で雨裂状の抉れ等が確認されたのみで遺構は検出されなかった。

遺物は、基本的に盛土層からの出土であり、取り上げは南北3m幅で区画を設定して行った（図6）。かわらけが5,692.6g、国産陶器が2,461.7g、輸入陶磁器が69.3g、瓦が1点、羽口が1点、壁土が17.8g出土しており、このうちかわらけ5点、国産陶器46点、輸入陶磁器7点、瓦1点を掲載した（1～59）。

72SD2（図7～11）

調査区中央52-43～51-47グリッドに位置する。過去に調査された外側の堀（21SD2・56SD39・72SD2等）と一連のものと考えられる。72次調査区から連続している状況が確認できたため、今回は昨年度と同じ72SD2の遺構名を付した。調査区内では約21mの延長を検出している。

北東～南西方向に直線的に走る堀で、主軸方位はN-20°-Eである。近世以降の溝である73SD1～3と重畳関係にあるが、いずれにも一部を壊されている。その他、73SX1、73SK1・2・6とは接する位置にあるが、上面の削平が著しいことから切り合い関係を確認することはできなかった。

Ⅱ層直下で検出しており、上面幅は4.2～7.0mである。ただし、51-46グリッド以南については東側のみの検出であるため、この部分の規模は不明である。全体的には暗褐色土のプランとして検出されているが、51-44・45グリッド内には後述する南トレンチ1層に対応する黄褐色土、2層に対応する砂層が広がっている。なお、本遺構では上端を確認するために上面を全体的に5～10cm掘り下げており、遺物は南北約2m幅の区画を設定して取り上げている（図6）。

平面検出の後、断面形と深さを確認するためのトレンチを2本設定して掘り下げを行った。また、51-43グリッド内にもトレンチを設定した（図9）。以下、トレンチ毎に所見を記載する。

南トレンチは、中央にあたる51-44グリッド内に設定した。検出規模は、上面幅4.7m、底面幅2.5m、深さ約1.5mである。地山を掘り込んで形成されており、断面形は逆台形状で、幅の広い底面から緩

やかに外方に向かって立ち上がる。なお、トレンチ内では西壁面で73P1、底面中央で73P2、東壁面で73P3と3個の柱穴を検出している。これらについては本遺構に架かる橋の橋脚である可能性を考慮して精査を行っており、精査状況については後述する。堆積土は28層に分層した。最上位にはⅡ層に対応すると考えられる黄褐色土（1層）があり、それを除去すると砂層（2層）の堆積が確認された。この砂層は周辺からの流れ込みによるものであるが、今回検出した範囲では本トレンチ内と取り上げ区画の1・2区でのみ確認されている。層厚が0.4～0.5mと厚く、堆積する直前までこの範囲が大きく窪んでいたものと考えられる。2層の堆積時期については明確ではないが、12世紀以降と考えられる。4層以下は12世紀中の堆積と考えられる。ほとんどが灰褐色土または地山由来の黄色系粘土で構成されており、人為的な堆積であると考えられる。堆積状況も複雑で、きれいにレンズ状に堆積する部分のみられないことも人為堆積であることを示しているといえる。ただし、底面付近は自然堆積層である。なお、28層の上面では柱穴（73P2）を検出している。そのため、28層については全域を掘り下げず、底面の確認は南壁側にサブトレンチを設定して行っている。

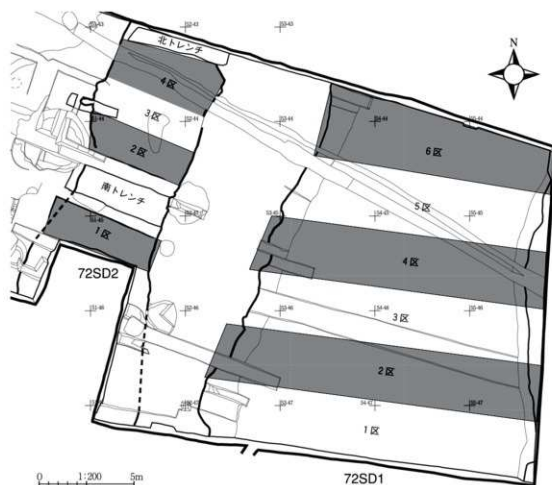


図6 72SD1・2遺物取り上げ区割図

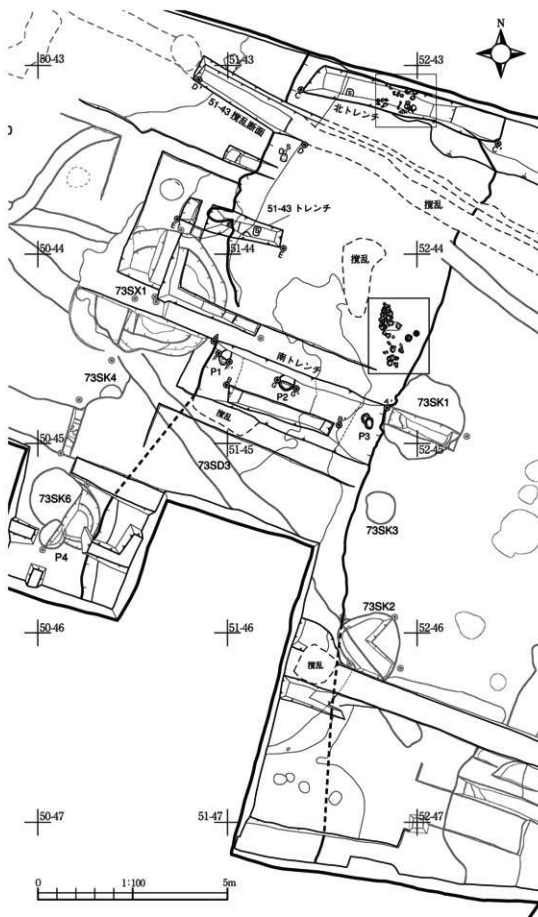


図7 72SD2平面図

北トレンチは、調査区北端51-43グリッド内に設定した。本トレンチから北側に向かって造成の際に削平されている為、南トレンチよりも遺存状況は悪い。検出規模は、上面幅4.2m、底面幅3.0m、深さ約0.75mである。壁面の立ち上がりは南トレンチよりも緩やかで、特に東壁面は底面から明確な傾斜変換点を形成しないで緩やかに外方に立ち上がっていく。底面はグライ化しており若干波打っている。堆積土は18層に分層した。1層は51-43グリッド内にあるケーブル埋設時の攪乱で観察した断面の1層に対応するもの(図10)、2層は水道管理設後の人為堆積土であり、いずれも新しい時代の堆積である。また、15・16層は後述する73SX1のB3区東トレンチで確認された壁面の水平堆積層に対応すると思われ、壁面を形成する人為堆積土の可能性もある。したがって、これらを除くと本遺構の堆積土は3-14層となる。灰褐色土主体の人為堆積で、底面付近が自然堆積である点は南トレンチと類似した状況である。なお、5層は中間に薄い砂層も確認されるため細分できる可能性もあるが、地山ブロック等混和物の割合が少なく今回は大まかな分層に留めた。遺物は南トレンチより多いが、ほとんどが2層と5層の境界付近からの出土である(図20・21)。

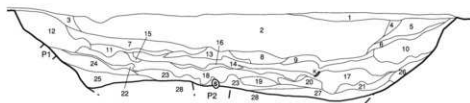
51-43トレンチは、西壁上端付近に暗褐色の不整形のプランが確認されたため、その内容確認のために設定したトレンチである。掘り下げの結果、72SD2堆積土を切るように掘削されている土坑状のプランを確認した。堆積土は13層に細分した。このうち上面で検出した不整形のプランに伴う堆積は4層である。この層は51-43グリッドの攪乱断面2層に対応すると考えられ、これらから南北に長い不整形なプランの遺構であると考えられる。1-3層は72SD2堆積土の上位の人為堆積土に対応するもので、南トレンチでは3層あるいは12層がこれに対応すると考えられる。5-7層は下位の土坑状プラン埋没後の堆積である。72SD2上位堆積土の1-3層より下位にあることから、12世紀中の堆積と考えられる。10-12層は土坑状プランに伴う堆積土であり、72SD2堆積土下層に対応する堆積土である13層を切って掘削されている。底面には板状の木材が横向きに設置されていた。なお、今回の調査ではこの土坑状プランの堆積は72SD2堆積土との関係から12世紀中のものである可能性が考えられたが、次年度調査(第74次調査)で本トレンチを北側に拡張した際に5-7層を切っている状況が改めて確認されたことから12世紀以降に掘削された土坑であると判断された。これに関しては次年度調査の報告の際に詳しく記すこととする。本トレンチ内からは遺物は出土していない。

遺物はかわらけ43,441.7g、国産陶器2,889.6g、輸入陶磁器1.3gが出土しており、かわらけ191点、国産陶器36点、輸入陶磁器1点を掲載した(60-288)。遺物は堆積土最上位の暗褐色土から多量に出土しており、特にかわらけは2区の東側と北トレンチでまとまって出土している(図11)。一方、南トレンチからの出土は少なく、柱穴を検出した28層上面付近や上位の灰褐色土から出土している程度である。

以上が本遺構の精査状況である。北側に隣接する72次調査区で検出した範囲よりも遺存状況が良く、規模や堆積状況が良好に観察された。逆台形状の断面形と人為堆積層が主体である点は72次調査区と同様の状況である。一方、北トレンチや後述する73SX1のB3区東トレンチでは西壁で堀堆積土とは異なる水平な人為堆積層を確認している。これは他の調査地点では確認されていないもので、壁面を補修するために積み上げたものである可能性がある。ただし、南トレンチや51-43トレンチでは確認されていないことから、一部分でのみ行われたものと考えられる。

南トレンチ

L=28.500m



南トレンチ (A-A')

- 1 25Y8/8 黄色土 10YR4/2 灰黄褐色の混合土 締りやややや・粘性弱 近世以降の堆積土で11層に対応
 - 2 10YR7/3 に近い黄褐色砂 締り・粘性共に無 緩びた砂のラインが数条 堆積の単位か 自然堆積
 - 3 10YR6/2 灰黄褐色土 締りやややや・粘性やややや
 - 4 10YR4/3 に近い黄褐色土 締りやややや・粘性やややや
 - 5 25Y8/4 淡黄色土 締り密、粘性やや強 酸化鉄少量含む
 - 6 10YR6/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 酸化鉄含む
 - 7 10YR5/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 $\phi 1 \sim 5$ mmの炭5%、小礫少量含む
 - 8 10YR4/1 $\sim 5/1$ 褐灰色粘土 締り密、粘性強 25Y8/6黄色土ブロック25%含む
 - 9 10YR4/1 $\sim 5/1$ 褐灰色粘土 25Y8/6黄色土ブロック15%含む
 - 10 10YR5/1 褐灰色と25Y8/6黄色の混合土 酸化鉄多く含む 人為堆積
 - 11 10YR6/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 酸化鉄含む
 - 12 10YR5/1 褐灰色と25Y8/6黄色土の混合土 酸化鉄多く含む 人為堆積
 - 13 10YR4/1 $\sim 5/1$ 褐灰色粘土 25Y8/6黄色土ブロック15%含む
 - 14 25Y8/4 淡黄色粘土 締り密、粘性強 地山由来の人為堆積 $\phi 2 \sim 5$ mmの炭2%、褐灰色粘土20%含む、酸化鉄多い
 - 15 10YR6/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 25Y8/4 淡黄色土ブロック20%含む
 - 16 10YR5/1 褐灰色粘土 15層とはほぼ同じ
 - 17 10YR5/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 $\phi 1 \sim 3$ mmの炭2%、25Y8/6黄色土ブロック10%含む 人為堆積
 - 18 25Y8/4 淡黄色粘土 締り密、粘性強 16層に似るが酸化鉄多く含むため赤みがかる(10YR6/6黄褐色に近い) やや砂質
 - 19 10YR5/1 褐灰色粘土と25Y8/6黄色土の混合土 締り密、粘性強 黄色土は地山由来のやや砂質 人為堆積
 - 20 10YR5/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 酸化鉄多く含む
 - 21 25Y8/4 淡黄色粘土 締り密、粘性強 地山由来 10YR5/1 褐灰色土25%含む
 - 22 25Y7/2 淡黄色粘土 締り密、粘性強 $\phi 20$ mm前後の炭2%、酸化鉄含む 人為堆積
 - 23 10YR4/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 25Y8/6黄色土5%含む 自然堆積か
 - 24 25Y7/4 淡黄色土 締り密、粘性やや強 $\phi 3 \sim 5$ mmの炭10%含む 酸化鉄多く含む赤みがかる
 - 25 25Y7/4 淡黄色土 締り密、粘性やや強 24層に似るが酸化鉄は少ない
 - 26 25Y7/3 淡黄色土 締り密、粘性強 $\phi 2 \sim 3$ mmの炭3%含む 豊前崩落土か
 - 27 N4/1 灰粘土 締り密、粘性強 酸化鉄少量含む 自然堆積
 - 28 N3/1 褐灰色土・黒色粘土 締り密、粘性非常に強 $\phi 2 \sim 10$ mmの炭10%含む
- ※ 11・12層は13区東トレンチ断面図の7・8層に対応するが、11・12層の堆積順序逆か

底面サブトレンチ

L=27.500m

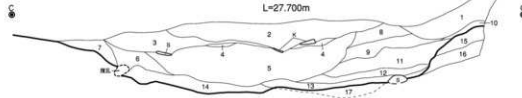


底面サブトレンチ (B-B')

- 1 75Y6/1 灰白色土 粘性強 炭化物を少量含む 自然堆積
- 2 5Y8/2 灰白色土 粘性強 自然堆積
- 3 南トレンチ28層と同じ

北トレンチ

L=27.700m

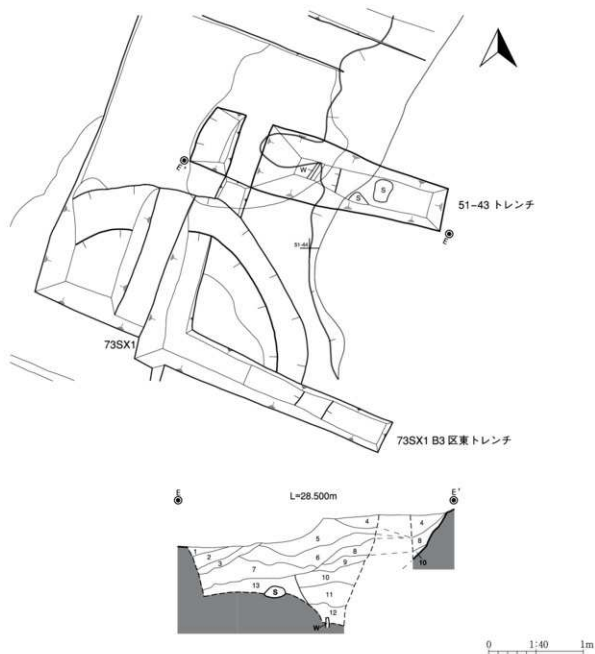


北トレンチ (C-C')

- 1 10YR6/3 淡黄褐色土 締りやややや・粘性やや強 75Y8/2 灰白色が斑状に混じる $\phi 1 \sim 3$ mmの炭3%含む
- 2 10YR6/1 褐灰色粘土 締り密、粘性非常に強 $\phi 2 \sim 10$ mmの炭5%含む かわらけ片含む
- 3 10YR5/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 $\phi 1 \sim 2$ mmの炭3%含む
- 4 10YR5/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 $\phi 2 \sim 30$ mmの炭25%、かわらけ片含む
- 5 10YR3/1 黒褐色粘土 締り密、粘性非常に強 $\phi 1 \sim 5$ mmの炭3%、地山ブロック10%含む 上位にからけ含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐色土 締り密、粘性強 やや砂質 $\phi 1 \sim 3$ mmの炭15%含む 人為堆積
- 7 10YR6/2 灰黄褐色土 締り密、粘性有 $\phi 2 \sim 5$ mmの炭5%、 $\phi 10$ mmの小礫少量含む
- 8 10YR6/2 灰黄褐色土 締り密、粘性有 $\phi 2 \sim 5$ mmの炭5%含む
- 9 10YR6/1 褐灰色土 締り密、粘性強 $\phi 2 \sim 10$ mmの炭5%、地山ブロック20%含む 人為堆積
- 10 10YR6/1 褐灰色土 締り密、粘性強 粘土質 $\phi 2 \sim 5$ mmの炭5%含む
- 11 10YR3/1 黒褐色と5B06/1青灰色地山ブロックとの混合土 締り密、粘性強 人為堆積
- 12 10YR2/1 黒色粘土 締り密、粘性強 部分的に移り少量含む 自然堆積か
- 13 10YR1/7/1 藍色粘土 締り密、粘性強 $\phi 1 \sim 5$ mmの炭と木質炭屑を含む
- 14 5B06/1 青灰色砂質土 締りやややや・粘性強 $\phi 1 \sim 3$ mmの炭5%、 $\phi 30$ mm前後の黒色土ブロック15%含む
- 15 75Y8/2 灰白色粘土と10YR6/1 灰白色砂質土の混合土 締り密、粘性強 人為堆積か
- 16 10YR5/1 褐灰色砂質土 締りやややや・粘性強 $\phi 2 \sim 5$ mmの炭3%、青灰色地山土少量含む 人為堆積か
- 17 5B05/1 青灰色粘土 締り密、粘性強 地山

0 1:40 1m

図8 72SD2断面図

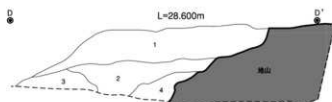


51-43 トレンチ

- 1 2SY6/2 灰黄色土 締り強、粘性無 かわらけ含む
- 2 2SY5/2 暗灰黄色砂質土 締り強、粘性無 かわらけ片・酸化鉄を含む
- 3 2SY4/2 暗灰黄色砂質土 締り強、粘性無 炭化物・酸化鉄を含む
- 4 2SY6/2 灰黄色土 締り強、粘性無 土坑埋土
- 5 2SY5/3 黄褐色土 締りやや弱、粘性無 ϕ 1~3mmの2SY8/2灰白色ブロック多く含む 酸化鉄を多く含む
- 6 5層と同質だが、灰白色ブロックをより多く含むブロックの層度が濃い
- 7 2SY6/3 に近い黄色土 締りやや弱、粘性無 10YR8/6黄褐色地山ブロック・2SY8/2灰白色ブロックを多く含む
- 8 5Y6/1 灰色土 締り弱、粘性無 10YR8/6黄褐色ブロックを多く含む
- 9 8層と同質だが、黄褐色ブロックを多く含むブロックの層度が濃い
- 10 10YR5/1 暗灰色粘質土 締りやや弱、粘性有 炭化物を含む 10YR8/3浅黄褐色ブロックを多く含む
- 11 10YR5/1 暗灰色土 締り有、粘性有 炭化物含む 10YR8/3浅黄褐色ブロックを含む
- 12 10YR6/1 暗灰色 締りやや弱、粘性有 10・11層と色調は同質だがブロックが少ない
- 13 73SX1 B3区東トレンチ南断面24・25層に対応 埋土上下層の人為堆積

図9 51-43トレンチ平面・断面図

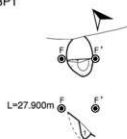
51-43 グリッド攪乱断面



攪乱断面

- 1 10YR3/3 暗褐色土 締り密、粘性やや弱 かわれけ片 10%含む 近世以降の埋積土
- 2 7.5YR6/8 棕色土 10YR5/1 褐灰色粘土が炭化灰の混入により棕色化したもの φ1-2mmの赤色粒子3%含む
- 3 10YR6/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 φ30mmの炭2%、炭化物含む
- 4 2.5Y7/2 灰黄色砂質粘土 締り密、粘性強 地山表面崩落土か 砂質であること以外は地山と類似

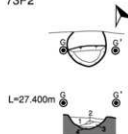
73P1



73P1

- 1 炭化物を多く含む締りは弱い 粘性無

73P2



73P2

- 1 10YR4/1 褐灰色土 締り有、粘性強
- 2 2.5Y6/2 灰黄色土 締り有、粘性強 炭化物少量含む
- 3 5Y4/1 灰色土 締り有、粘性強 炭化物が集中する部分がある
- 4 黒色砂

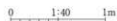
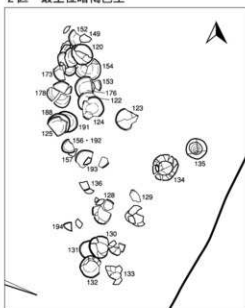


図10 73P1・2平面・断面図

2区 最上位暗褐色土



北トレンチ 2~5層上面

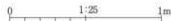
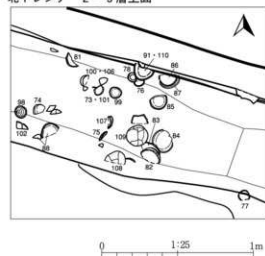


図11 72SD2遺物出土状況図

【72SD2南トレンチ内柱穴】

73P1 (図10)

72SD2南トレンチの西壁面中位で検出した。平面形が楕円形の柱穴で、上面規模は0.42×0.26mである。断面形は半円形で、西上端からの深さは0.3mである。柱痕跡は確認できないが、柱穴であるとするば打ち込みによるものと考えられる。堆積土は締りの弱い灰褐色土の単層で、遺物は出土していない。

73P2 (図10)

72SD2南トレンチの中央部、28層上面で検出した。北端はベルトの下にあるため全体を検出していないが、平面形はほぼ正円形であり、上面規模は直径0.4mと考えられる。断面形は半円形で、深さは0.17mである。柱痕跡は確認されなかった。堆積土は自然堆積と考えられ、4層に分層した。黒褐色の粘質土が主体で、間に薄い砂層が混入する。遺物は出土していない。

73P3

72SD2南トレンチの東壁面中位で検出した。検出のみで留めているため深さ・断面形状は不明である。平面プランとしては柱穴が2個連結したような形状で、上面の堆積土は灰褐色土である。上面の規模は0.45×0.3mである。検出状況では柱痕跡は確認できなかった。

【土 坑】

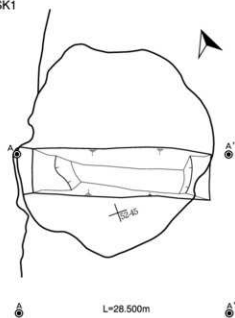
73SK1 (図12)

52-44グリッドに位置する。西壁が72SD2の東壁と接しているが、削平が著しいため両者の新旧関係については判断できなかった。

平面形は円形で、上面規模は2.15×2.1mである。断面形は箱形で、深さは0.82mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がるが、上部は崩落により広がっている。堆積土はいずれも地山土を使用した人為堆積土であり、泥和物や粘性の相違により6層に細分した。遺物は堆積土の上位からかわらけが11.7g出土しているが、細片のため図示していない。

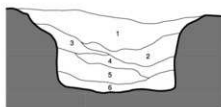
本遺構は、72SD2に隣接していることからこれに伴う橋の橋脚である可能性が考えられた。しかし、精査の結果、人為的に埋め戻されたものであることは確認できたが、柱痕跡等の柱穴であることを示す情報を得ることはできなかったため、今回は土坑とした。

73SK1

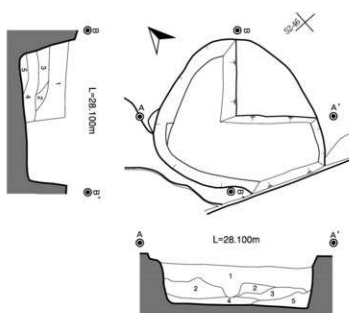


73SK1

- 1 10YR8/4 浅黄褐色粘土質シルト 締り有、粘性強 ϕ 5-10cmの地山ブロックを含む。人為堆積
- 2 10YR8/2 灰白色砂質シルト 締り密、粘性やや弱 砂質土を基本とする ϕ 10cmからより大きな地山ブロックを多く含む。人為堆積
- 3 10YR7/3 灰黄褐色粘土質シルト 締り有、粘性強 1・2層と同じ ϕ 10cmの黄褐色地山ブロックを含む。褐褐色土ブロックも含む。人為堆積
- 4 10YR8/6 黄褐色粘土質シルト 締りやや弱、粘性強 粘質土を基本とするが黄褐色地山ブロック・砂質シルトを多く含む。人為堆積
- 5 10YR8/3 浅黄褐色粘土 締り密、粘性強 ϕ 10-15cmのブロックで形成される硬質粘土のブロックを含む。人為堆積
- 6 10YR8/2 灰白色砂質シルト 締りやや有、粘性弱 地山ブロックを含む。底面に一部炭化物があるが少量含むのみである。底面の中央がやや凹むが堆積に変化は無い。人為堆積



73SK2



73SK2

- 1 10YR8-6 黄褐色土 締り密、粘性非常に強 灰白色-褐灰色粘土が塊状に混じる 粘土質かつ砂質 地山由来
- 2 10YR8-4 浅黄褐色土 締り密、粘性強 やや砂質 酸化鉄含む 地山由来
- 3 10YR8-3 浅黄褐色土 締り密、粘性強 粘土質土中に砂質少量部分的に褐灰色土含む ϕ 1-3mmの炭化物微量含む 地山由来
- 4 10YR8-4 黄褐色土 締り密、粘性強 砂質で1-3層に比べると締り、粘性共に弱い 地山由来
- 5 10YR8-4 黄褐色土 4層に似るが、より黄色がかり ϕ 1-3mmの炭化物微量含む 粒子細かい 地山由来

0 1:40 1m

図12 73SK1・2平面・断面図

73SK2 (図12)

51-46グリッドに位置する。西壁がわずかに72SD2の東壁と接しているが、削平が著しいため両者の新旧関係は判断できなかった。

平面形は不整な円形で、上面規模は1.8×1.56mである。断面形は箱形で、深さは0.55mである。堆積土は6層に分層した。いずれも地山由来と考えられ、非常に粘性が強い。遺物は検出面からかわらけが50.0g出土しており、1点を掲載した(289)。

本遺構も73SK1同様72SD2に隣接していること、72SD2の対岸に同規模の土坑(73SK6)が存在することから橋脚の可能性が考えられた。しかし、柱痕跡を確認することはできなかったため、今回は土坑とした。

73SK6・P4 (図13)

50-45グリッドに位置する。P4と重複関係にあり、P4のほうが新しい。73SK6の東端が72SD2西壁と隣接するが、直接的な重複関係には無い。

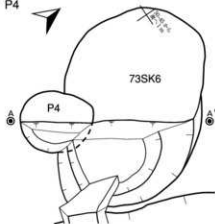
73SK6は楕円形プランの土坑で、上面規模は2.1×1.45mである。断面形は逆台形で、北東側は外方に崩きながら立ち上がる。深さは0.65mである。堆積土は4層に分層した(6~9層)。いずれも地山由来の人為堆積土と考えられるが、地山土に酷似しているため判別が困難であった。

73P4は円形プランの柱穴で、上面規模は0.8×0.66mである。断面形は箱形で、深さは0.42mである。堆積土は5層に分層した(1~5層)。いずれも地山由来の人為堆積土と考えられ、地山土及び73SK6堆積土に酷似している。

遺物は73SK6堆積土の上位からかわらけが3.9g出土しているが、細片の為図示していない。

本遺構も72SD2に隣接し、72SD2の対岸に同規模の土坑(73SK2)が存在することから橋脚の可能性が考えられた。しかし、柱痕跡を確認することはできなかったため、今回は土坑とした。

73SK6・P4



73SK6・P4

- 1 10YR6/6 明黄褐色土 織り有、粘性強 炭化物粒を少量含む
 - 2 10YR8/6 黄褐色土と10YR8/3 浅黄褐色土(粘性強)が見じる 織り強
 - 3 10YR8/4 浅黄褐色土を主体とし、10YR6/6 明黄褐色土が見じる 織りやや弱
 - 4 10YR8/3 浅黄褐色土を主体に、10YR6/6 明黄褐色土がブロック状に見じる 織り有
 - 5 4層と同様の土質に黒色の粘性強い土が見じる
 - 6 10YR6/6 明黄褐色土 織り有、粘性強 10YR8/3 浅黄褐色土が織状に入る
 - 7 10YR8/4 浅黄褐色土を主体に、10YR8/8 黄褐色の粘性強い土がブロック状に入る 10YR6/1 黒灰色の粘土が少量入る
 - 8 2.5Y7/4 浅黄色土 織り有、粘性強 10YR6/1 黒灰色の粘土が入る
 - 9 10YR8/3 浅黄褐色砂質土 地山の砂質土が入るか
- ※1~5層がP4、6~9層が73SK6の堆積土

図13 73SK6・P4平面・断面図

73SX1 (図14・15)

50-44グリッドに位置する。73SD3と重複関係にあり、これに壊されている。平面形は不整な円形で、検出時の上面規模は3.9×3.5mである。本来は土坑状のプランであったと考えられるが、中央部に近世以降と考えられる掘り込みがあり、これによって本遺構の大部分が失われている。この掘り込みは深さが約1.6mあり、本遺構底面よりも深く掘り込まれている。この部分を除いて本遺構の残存部分は、北東側 (B3区東) の一部と考えられる。残存部の観察では、平面形は円形プランであり、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がるようである。

断面観察は十字にベルトを設定して各ベルト面で行った。最も状況が明瞭に確認できたのは北ベルト東面とB3区の72SD2隣接部分に設定したサブトレンチ (B3区東トレンチ) であり、これらの所見を中心に述べていく。

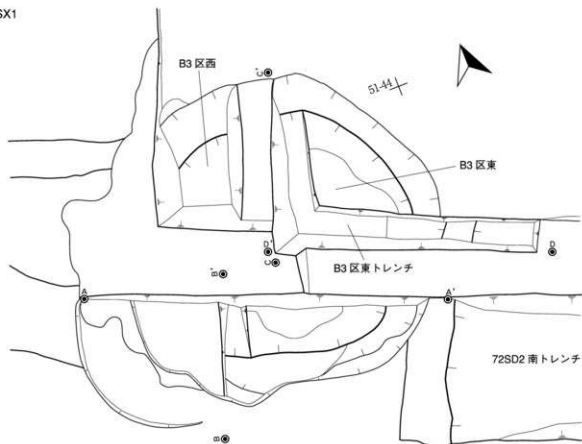
北ベルトでは近世以降の掘り込みに伴う堆積土は1～3層である。白色粘土を主体としており、かわらけや国産陶器とともに近世陶磁器が出土している。この掘り込みにより大部分が失われているが、本遺構に伴う堆積土の残存状況は非常に悪く、北壁付近で4～7層が確認できるのみである。いずれも水平な堆積であり、6層はB3区東トレンチ26層に対応するものと考えられる。

B3区東トレンチでも1～3層は掘り込み内の堆積土である。このトレンチでは本遺構の堆積土としては26層が確認されるのみであるが、それより上位には72SD2堆積土とそれとは異なる人為堆積層が確認できる。5～11層は72SD2上位の堆積土である。砂層である5層は南トレンチ2層、人為堆積土である7層は12層、8層は11層に対応するものと考えられる。12～23層は地山由来のブロックを主体とする人為堆積土で、全体的に締りが強い。いずれも水平方向に積み上げられており、人為的なものであるが72SD2の埋め戻し土とは意図が異なるものと考えられる。これらの下位に堆積するのが72SD2下位の自然堆積層に対応する24・25層と本遺構に伴う堆積と考えられる26層である。この上部に19・21・23層が本遺構の堆積土をまたいで堆積している。

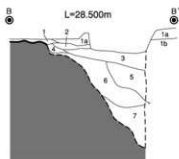
遺物は2・3層からの出土がほとんどで、後世に混入したものと考えられる。かわらけ757.6g、国産陶器238.5gが出土しており、このうち国産陶器7点を図示した (290～296)。

以上が本遺構の精査状況である。位置関係から73SX1と同じく橋に関わる可能性があるものと考えられたが、後世の掘り込みに大部分を壊されていたため性格を明らかにすることはできなかった。なお、水平な人為堆積層である12～23層は、底面付近に自然堆積層が形成されたのちに積み上げられたものであり、崩壊時に崩落した壁面を補修したものである可能性がある。このような状況はこれまでの調査では確認されておらず、今回の調査でも72SD2北トレンチで確認されているのみであることから、部分的な補修の痕跡と考えられる。本遺構の年代については、72SD2下位の堆積層と26層の上部に水平堆積層である19・21・23層が両者を跨ぐ形で堆積していることから、両者は同一時期であり72SD2が完全に埋め戻される以前の遺構であると考えられる。

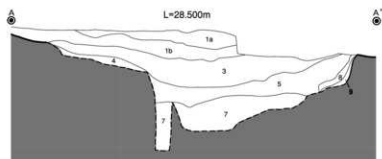
73SX1



南ベルト



東西ベルト



東西・南ベルト (A-A'・B-B')

1 基本層序2層 a・bは炭化物の割合で分層しているが基本的には同一層

2 白色粘土と黄褐色土の混合土 粘性やや強

3 北ベルト断面2層と同じ

4 10YR4/2 灰青褐色 綿りやや密、粘性やや弱 φ3-5mmの炭化物と赤色粒子(かわかけ片?)を極微量含む

5 北ベルト断面3層の上段と対応

6 10YR5/2 灰黄褐色土 綿り密、粘性強 φ10-50mmの地山ブロック30%含む

7 北ベルト断面3層の下段と対応

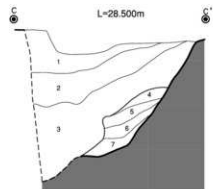
8 10YR5/3 に近い黄褐色土 綿り密、粘性やや弱 φ1-2mmの炭化炭少量含む

9 10YR7/8 黄褐色土 綿り密、粘性強 φ1-10mmの炭化炭15%含む やや砂質だが粘性は強い

0 1:40 1m

図14 73SX1平面・断面図

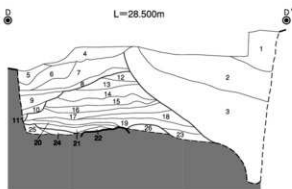
北ベルト



北ベルト (G-G')

- 1 基本層序目録
- 2 25Y8/4 浅黄色土ブロックで形成される 10YR6/1 黄灰色ブロックを含む。かわらけを少量含む。粘り強、粘性弱、砂質土。人為堆積
- 3 10YR6/1 黄灰色土。25Y8/4 浅黄色ブロックを織状に含む。中心部に ϕ 5-10cmの礫を含む。中-下層で近位の遺物を確認
- 4 25Y5/3 黄褐色土。粘りやや有、粘性有。25Y8/4 浅黄色ブロックを織状に含む。 ϕ 5cm程の礫を含む
- 5 25Y6/2 灰黄色土。粘り強、粘性弱。炭化物を含む。
- 6 B3区東トレンチ26層に対応。炭化物を多く含む。10YR6/1 黄灰色土・5Y8/2 灰白色土ブロックを含む。粘りやや強、粘性弱
- 7 25Y6/1 黄灰色土。粘り強、粘性有。炭化物を少量含む。 ϕ 5-10cmの扁平な礫を含む。5Y8/2 灰白色ブロックを含む

B3区東トレンチ



B3区東トレンチ (D-D')

- 1 基本層序目録
- 2 北ベルト2層と同じ
- 3 北ベルト3層と同じ
- 4 10YR6/1 黄灰色土。粘り強。炭化物。かわらけ含む
- 5 10YR7/3 に近い黄褐色土。粘り・粘性共に弱。72SD2 南トレンチ2層に対応。自然堆積
- 6 10YR7/2 に近い黄褐色土。粘り強、粘性弱。炭化物多く含む。人為堆積
- 7 10YR4/6 明黄褐色シルト。粘り強、粘性弱。25Y8/6 黄色の地山ブロック多量に含む。炭化物粒を多く含む。人為堆積
- 8 10YR6/1 黄灰色シルト。かわらけ・炭化物粒を含む。72SD2 南トレンチ11層に対応。炭化物粒。かわらけを含む
- 9 10YR7/2 に近い黄褐色土と10YR8/6 黄褐色土ブロックの混合。炭化物粒。かわらけを含む
- 10 10YR8/3 浅黄褐色の地山ブロックと10YR6/3 に近い黄褐色土の混合。ブロックは織状に層内側に向かって下る
- 11 25Y6/1 黄灰色土。10YR8/4 浅黄褐色の地山ブロックを多く含む
- 12 10YR8/6 黄褐色土のブロックで形成される層。粘り強、粘性弱
- 13 10YR8/4 浅黄褐色のブロックで形成され、25Y6/1 黄灰色土が混じる。粘り強。炭化物粒を含む
- 14 10YR8/3 浅黄褐色土のブロックで形成され、25Y6/1 黄灰色土が水平方向に厚く混じる。粘り強
- 15 10YR8/3 浅黄褐色土と25Y8/4 浅黄色土のブロックで形成され、25Y6/1 黄灰色土が水平方向に入る。粘り強
- 16 10YR8/6 黄褐色土のブロックで形成され、25Y6/1 黄灰色土が混じる
- 17 10YR8/3 浅黄褐色のブロックで形成される。10YR6/1 黄灰色土が水平方向に混じる。炭化物を含む
- 18 10YR8/6 黄褐色土のブロックで形成される。粘り強
- 19 10YR8/6 黄褐色土のブロック。25Y6/1 黄灰色土が混じる
- 20 25Y6/1 黄灰色土が水平方向に堆積する。粘り強
- 21 25Y8/6 黄灰色土が水平方向に堆積する。層の厚さをまたいで堆積する。23層と同一層
- 22 25Y8/6 黄灰色土が薄く水平方向に堆積する。粘り強
- 23 25Y8/6 黄灰色土が水平方向に堆積する。層の厚さをまたいで堆積する。21層と同一層
- 24 75Y7/1 灰色土に75Y9/1 灰白色土のブロックが混じる。グライ化した自然堆積。粘性強
- 25 75Y5/1 灰色土。粘性弱。自然堆積
- 26 土壌理土。炭化物を多く含む
- ※6・7層：72SD2 南トレンチ人為堆積土層と対応か
- ※8-11層：72SD2 堆積時の人為堆積
- ※12-23層：横方向の人為堆積土。粘り強い
- ※24・25層：72SD2の堆積土下層の自然堆積

0 1:40 1m

図15 73SX1断面図

【道路状遺構】

73SD4・7（＝73SC1道路状遺構）（図16・17）

調査区西側では東西方向に走る溝跡を複数検出しているが、このうち平行する73SD4と73SD7については位置関係等から道路側溝と考え、これらの溝跡で区画された範囲を道路状遺構として捉えた。以下では両溝跡と区画内の状況について記述する。

73SD4は、北側を区画する側溝と考えられる。調査区西側48-43～50-43グリッドに位置しており、73SD3・5、73SK5、73SX1と重複関係にあり、本遺構が最も古い。東西方向に直線的に走る溝で、主軸方位はN-76°-Wである。調査区内では8.8m検出した。上面の幅は0.4m前後であるが、削平を考慮すると本来はこれよりも幅広かったと考えられる。断面形と深さは調査区西端に設定したトレンチで確認した。断面形は箱形で、検出面からの深さは0.22mである。堆積土は褐灰色土と黄褐色土の混合土の単層で、重複する73SD3・5の堆積土とは明らかに異なる。遺物は堆積土からかわらけが18.8g出土しているが、細片のため図示していない。

73SD7は、南側を区画する側溝と考えられる。調査区西側48-45グリッドに位置する。上面は近世以降の堆積土に覆われているが、平面的には他遺構との重複関係は無い。東西方向に走る溝で、調査区内では1.7m検出した。なお、主軸方位はN-70°-Wであるが、検出範囲が狭いため若干いづれかに振れる可能性もある。断面形と深さは西端のトレンチで確認した。その結果、本遺構の堆積土とその下位に地山土と異なる堆積を確認しているが、堆積状況から2層のみが本遺構の堆積土であり、それより下位は本遺構以前に存在した別遺構に伴う堆積と考えられる。したがって、本遺構の上面幅は0.82m、断面形は浅い皿形で深さは0.2mである。なお、トレンチ内のみでの検出であり平面形は不明であるが、下位のプランの断面形は底面の広い逆台形であり、検出面からの深さは0.3mである。遺物は2層からかわらけが10.0g、国産陶器が11.7g出土しており、このうち国産陶器1点を図示した（297）。

検出範囲が狭いため検討を要する部分もあるが、今回はこの範囲を道路状遺構（73SC1）と考えておきたい。両溝跡を含めた幅は南北約10mである。この範囲は水平ではなく、地形に沿うように73SD4から73SD7に向かって緩やかに傾斜しており、両溝の底面の比高差は約0.5mある。これらの溝に囲まれた範囲では、削平の影響もあって硬化面・波板状圧痕といった路面を示す状況は確認できなかった。なお、本調査区西側に位置する堀外部地区（30次調査区）でも道路側溝と考えられる溝跡が検出されており、今回検出した溝跡もこれらに連続する可能性がある。しかし、堀外部地区では溝間の距離が7～8mと、今回検出したものより間隔が狭いことから、両者の繋がりにについては検討が必要である。

【溝】

道路側溝と考えられるもの以外で精査したものについて記載する。

73SD1（図16・17）

調査区西側48-44～50-45グリッドに位置する。東端が72SD2と重複関係にあり、これを壊す形で掘削されていること、II層掘り下げ中にプランを把握していることから近世以降に掘削された溝と考えられる。

北西-南東方向に直線的に走る溝で、主軸方位はN-66°-Wである。東側は72SD2付近で削平を受けて消失していることと西側は調査区外へと延びていることから全長は不明であるが、調査区内では約12m検出した。上面幅は1.0～1.3mで、南東方向に傾斜する地形に沿って掘削されているため東側ほど規模が小さくなる。3本のトレンチを設定し、断面形と深さを確認した。断面形は箱形あるいは

は逆台形である。深さは西端の断面Dラインでは0.59m、東端の断面Dラインでは0.4mである。堆積土は褐灰色土が主体であり、地山ブロックをほとんど含まないことから自然堆積と考えられる。遺物はかわらけが507.0g、国産陶器が370.8g出土しており、このうちかわらけ1点と国産陶器2点を図示した(298~300)。

73SD3 (図16・17)

調査区西側48-43~51-46グリッドに位置する。73SD4・5、73SX1、72SD2、73SK2と重複関係にあり、73SD5以外の遺構の一部を壊している。73SX1を壊しており、検出面から近世陶磁器も出土していることから近世以降に掘削された溝と考えられる。

北西-南東方向に走る溝で、50-44グリッド内で緩やかに角度を変えており、主軸方位が西側ではN-63°-W、50-44グリッド付近から東側はN-37°-Wとなる。調査区内では約21m検出している。東端は51-46グリッドで終結し、西側は調査区外へ延びる。上面幅は0.7~0.8mで、東端まではほぼ同一規模である。断面形は箱形で、深さは0.25mである。堆積土は5層に細分した(73SD3・4・5断面4~6・9層)。主体となるのは暗褐色土で、壁面付近には地山崩落土が堆積している。遺物はかわらけが325.3g、近世陶磁器が1点出土しているが、細片のため図示していない。

73SD5 (図16・17)

調査区西側48-43~51-43グリッドに位置する。73SD3・4、73SK5と重複関係にあり、73SD3・4を壊すが、73SK5に上面を壊されている。近世以降と考えられる73SD3を壊していることから、それより新しい溝と考えられる。

調査区内では12.6m検出した。西端で検出された部分についてはN-76°-Wの方位で直線的に走るが、49-43グリッドの東端付近で北東方向に向きを変え51-43グリッド方向へ延びる。ただし、51-43グリッド内ではプランが不明瞭になり、これより東では確認できない。断面形は浅い皿形で、深さは0.1m前後である。堆積土にはぶい黄褐色土の単層で、礫とかかわらけ片を少量含んでいる。遺物は73SD3堆積土との境界付近でかわらけが16.6g出土したが、細片のため図示していない。

(付III)

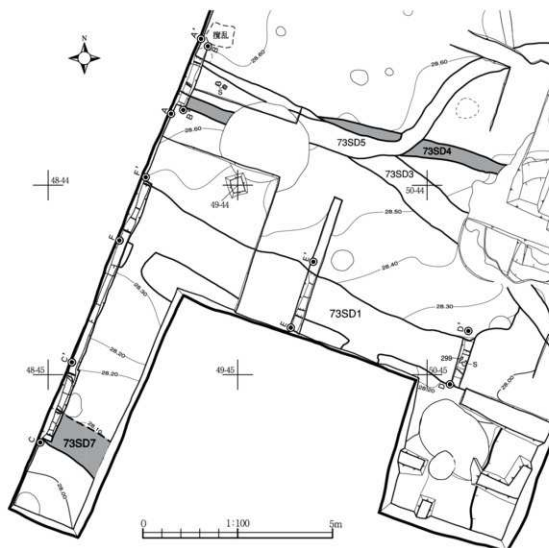


図16 73SD1・3~5・7平面図

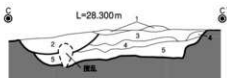
73SD3・4・5



73SD3・4・5

- 1 1層=表土
 - 2 2層=10YR5/3にふい黄褐色土 かわらけ片・地山アロック・近世遺物を含む 近世暗褐色土
 - 3 10YR4/3 にふい黄褐色土 締り密、粘性強 礫・かわらけ片少量含む
 - 4 7.5YR5/1 褐色土 締り密、粘性強 φ2～5mmの炭土・炭化物各3%含む
 - 5 10YR8/3 浅黄褐色粘土 締り密、粘性強 褐色土少量含む 埋没腐落土
 - 6 7.5YR5/1 褐色土 締り中、粘性やや強 φ5～20mmの炭土・炭化物各10%含む
 - 7 7.5YR5/1 褐色土と10YR7/8黄褐色土の混合土 締り中、粘性強 やや砂質
 - 8 7.5YR5/1 褐色土 締り中、粘性やや強 φ2～20mmの炭土・炭化物各25%含む 地山が焼熟により変化した部分か
 - 9 6層と土質は同じだが、5層より後に堆積しているため分層
- ※4～6・9層=73SD3堆積土、7層=73SD4堆積土、3層=73SD5堆積土

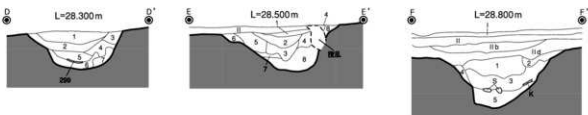
73SD7



73SD7

- 1 10YR7/6明黄褐色・2.5YR/6黄色・10YR4/1褐色の混合土 締り密、粘性中 かわらけ片含む
 - 2 10YR3/2黒褐色と10YR6/1褐色の混合土 黒褐色土は砂質、褐色土は粘土質 農具に似る 自然降層か
 - 3 2.5YR/6黄色と10YR5/1褐色の混合粘土 締り密、粘性非常に強 人為の整地土か
 - 4 2.5YR/6黄色と10YR5/1褐色の混合土 締り密、粘性強 やや砂質 3層よりやや暗い 人為降層か
 - 5 10YR5/1 褐色色砂質土 締り密、粘性強 酸化鉄多く含む
- ※2層が73SD7堆積土、3～5層は別途掘の堆積土か

73SD1



73SD1①(D-D')

- 1 10YR7/1 灰白色土 締り密、粘性中 φ5mmのかわらけ片・炭化物各2%、酸化鉄含む
- 2 10YR5/1 褐色土 締り密、粘性やや強 φ2～5mmの炭化物10%、かわらけ片2%含む
- 3 2.5Y6/2 灰黄色土 締り密、粘性やや強 酸化鉄多く含む
- 4 10YR6/2 灰黄褐色土 締り密、粘性中 やや砂質 φ1～3mmの炭化物10%、酸化鉄多く含む
- 5 2.5Y6/2 灰黄色土 締り密、粘性やや強 粘土と砂の混合土 φ1～2mmの炭化物2%、かわらけ片含む
- 6 10YR6/2 灰黄褐色粘土 締り密、粘性非常に強 上位にφ2mmの炭化物2%含む 5層との境界から遺物出土
- 7 2.5Y6/2 灰黄色粘土 締り密、粘性非常に強 酸化鉄含む

73SD1②(E-E')

- 1 7.5YR5/1 褐色土 締り密、粘性強 φ5mm炭化物2%含む
- 2 10YR7/4 にふい黄褐色土 締り密、粘性強 上位に褐色土含む
- 3 7.5YR4/1 褐色色粘土 締り密、粘性非常に強 下位にφ5mmの炭化物5%含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色土 締り密、粘性やや強 にふい黄褐色土を含む
- 5 10YR5/1 褐色土 締り密、粘性やや強 やや砂質 にふい黄褐色土ブロック30%、φ2mmの炭化物3%含む
- 6 10YR5/1 褐色土 締り密、粘性やや強 5層に似るが、泥和物無し
- 7 7.5YR4/2 灰褐色砂 締り密、粘性表に無 粗砂 φ2mmの炭化物2%含む
- 8 7.5YR5/1 褐色土 締り密、粘性強 やや砂質 にふい黄褐色土ブロック5%含む

73SD1③(F-F')

- 1 10YR6/1 褐色土 締り密、粘性中 やや砂質で北側に黄色粘土含む
- 2 10YR6/1 褐色色粘土 締り密、粘性強 3断面1層に対応
- 3 10YR5/1 褐色色砂質土 締りやや密、粘性中 φ1～2mmの炭化物5%含む 5断面8層に対応
- 4 10YR5/1 褐色土 締りやや密、粘性中
- 5 10YR6/3 にふい黄褐色土 締り密、粘性強 泥和物はとんと無し

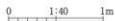


図17 73SD1・3～5・7断面図

表4 73次調査出土遺物数量表

出土遺構	精査	かわらけ(g)	国産陶器(g)	輸入陶磁器(g)	計(g)
72SD1	○	5,692.6	2,461.7	69.3	8,223.6
72SD2	○	13,441.7	2,889.6	1.3	46,332.6
73SD1	○	507.0	370.8	0	877.8
73SD2	×	61.0	0	0	61.0
73SD3	○	325.3	0	0	325.3
73SD4	○	18.8	0	0	18.8
73SD3 or 5	○	16.6	0	0	16.6
73SD6	×	0	0	0	0
73SD7	○	10.0	11.4	0	21.4
73SK1	○	11.7	0	0	11.7
73SK2	○	50.0	0	0	50.0
73SK3	×	0	0	0	0
73SK4	×	0	0	0	0
73SK5	×	0	0	0	0
73SK6・P4	○	3.9	0	0	3.9
73SX1	○	757.6	238.5	0	996.1
73P1	○	0	0	0	0
73P2	○	0	0	0	0
73P3	×	0	0	0	0
遺構外		22,674.8	9,455.5	49.1	32,179.4
本調査区計		73,571.0	15,427.5	119.7	89,118.2
試掘T1~3		528.7	49.4	0	578.1
総計(g)		74,099.7	15,476.9	119.7	89,696.3

(3) 出土遺物

出土遺物は総重量で90,194.3gである。73次調査では遺構の平面的な位置関係を確認することを主な目的としたため、遺構の精査は基本的に行っていない。また、堀跡については72SD2にトレンチを設定して精査を行ったが、部分的なものであり遺物量は多くない。72SD1からの出土遺物の多くは近世以降の盛土とみられる層から出土したものである。この他の遺構からの出土遺物も含め、遺物の多くは原位置をとどめたものではない。

遺物は総重量のうち、かわらけが73,571.0gと最も多く、約80%を占める。次いで陶磁器類が15,547.2gと多い。壁土も517.5g出土している。陶磁器類は国産陶器が15,427.5gで、このうち渥美窯産が157点で10,931.5g、常滑窯産が90点で4,090.9gを占める。輸入陶磁器は18点で119.7g出土している。

なお、かわらけはおおむね1/4以上残存し器形が復元可能なものを図示し、国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録し表に掲載、図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」（太宰府市教育委員会2000）を参考にしている。

【土器・陶磁器類】

72SD1出土遺物

72SD1は精査を行っておらず、出土遺物も盛土等からの出土である。かわらけが5,692.6g、国産陶器類が2,461.7g、輸入陶磁器が69.3g、瓦が1点、羽門が1点、礫土が17.8g出土し、かわらけ5点、国産陶器46点、輸入陶磁器7点、瓦1点を図示した（1～59）。かわらけはいずれもロクロかわらけで1は小皿、2～5は大皿である。大皿は椀形の器形、皿形の器形の両者がある。いずれも72SD1の時期にあたる資料ではないが、12世紀第3回半期以降の特徴をもつ。国産陶器類は6～31は渥美窯産、35～48は常滑窯産、49～51は須恵器である。輸入陶磁器類は52～57は白磁で椀及び壺類である。58は中国陶器類である。瓦は59の1点が出土し、図示した。軒丸瓦の瓦当面の破片で、欠損のため全体は不明だが凹文の端部が確認でき、凹文とみられる。丸瓦部分は欠損しているが、印籠つぎで端部へのキザミ等の加工はみられない。

72SD2出土遺物

72SD2から出土した遺物はかわらけ43,441.7g、国産陶器2,889.6g、輸入陶磁器1.3gで、このうちかわらけ191点、国産陶器36点、輸入陶磁器1点を図示した（60～288）。

精査を行ったトレンチでは、南トレンチからの遺物はかわらけ60・61はロクロかわらけ小皿、62～68はロクロかわらけ大皿、69は手づくねかわらけ小皿、70は手づくねかわらけ大皿である。ロクロかわらけの大皿は器高が4cm以上と高い器形のもの目立ち椀形のものが多く、皿形の器形も含まれる。これらの特徴は、下層からも皿形の資料が出土しており、層位ごとに大きく異なるものではない。手づくねかわらけの大皿である70はやや出土層位が異なり、上層での出土だが、口径13.4cmと小形の器形である。国産陶器は71・72で渥美窯産の甕である。

北トレンチからの遺物では2～5層として取り上げた遺物が多く、これらはこの層の境界部分からまとまって出土したものである。かわらけは73～80はロクロかわらけ小皿、81～98はロクロかわらけ大皿、99～105は手づくねかわらけ小皿、106～111は手づくねかわらけ大皿である。ロクロかわらけの大皿は器高の高い椀形の器形が多いが、口径が大きく器高の低い皿形の器形も含まれる。手づくねかわらけ小皿は法量の平均値で口径が9.4cm、器高が2.0cmと口径が大きい器形が多い。手づくねかわ

72SD1

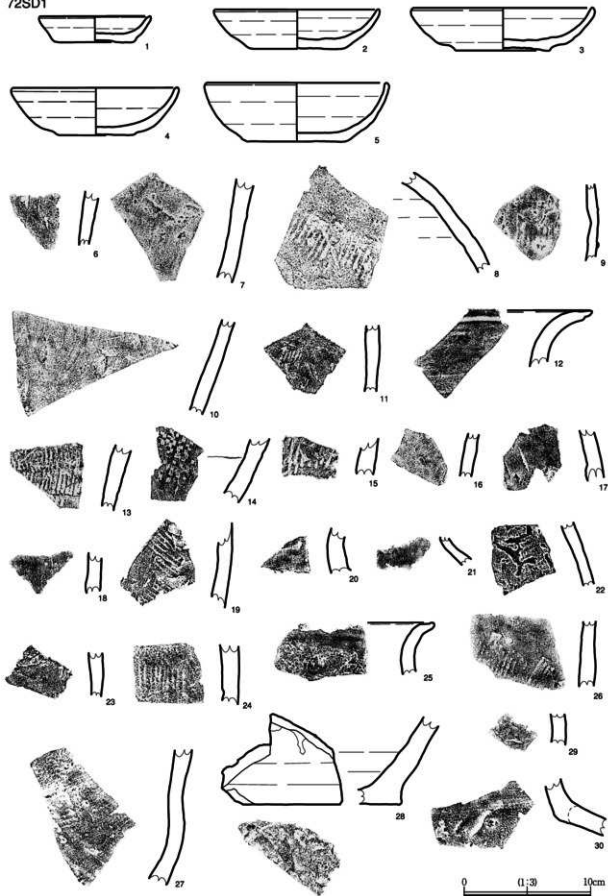


图18 72SD1出土土器类实测图1

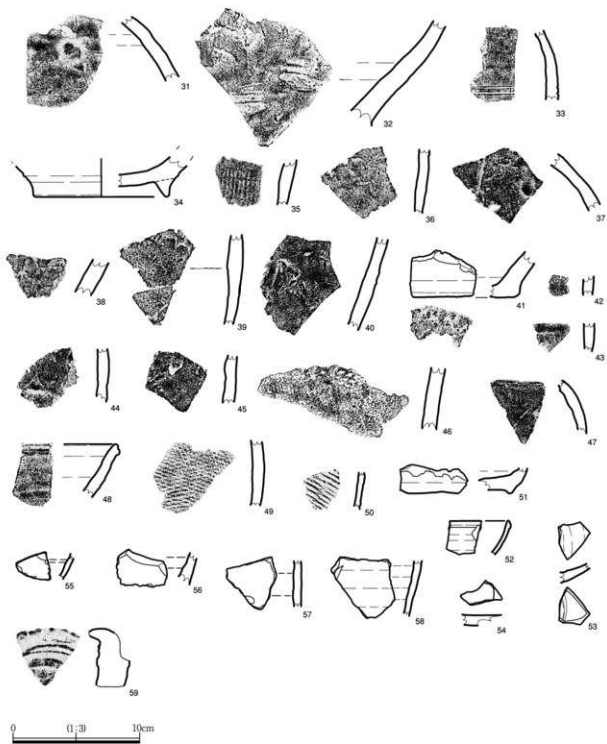


图19 72SD1出土土器类实测图 2

らけ大皿は口径が14.3～15.0cm、器高が3.0～3.5cmとやや幅がある。この中で、口径が15.0cmと大型の器形が含まれる点は注目できる(106、110)。調整は一段ナデのものが多いが、二段ナデのものも含まれる。国産陶器は常滑窯産の甕類の体部片である(112)。

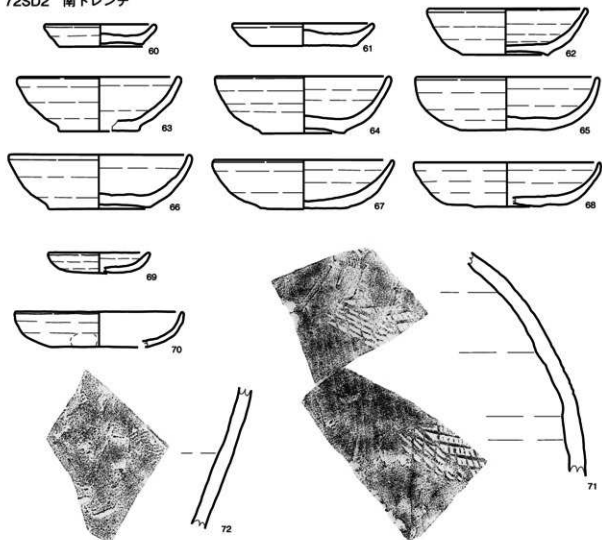
これらの精査した2つのトレンチでは類似した特徴の資料が多い。これらを見ると72SD2では国産陶器が少ないことがわかる。かわらけではロクロ成形の資料が多く、手づくね成形のものは点数が少なく破片等が多い。ロクロかわらけ大皿は器高が高い椀形と皿形とがそれぞれ含まれること、手づくねかわらけ大皿では口径が15cm前後と比較的大型のものとして14cm弱と小型のものとも含まれることが特徴的である。

その他に、検出面から多くの遺物が出土し、ここでは遺構検出後の遺物取り上げと、遺構検出時の遺物とに分けて掲載した。これらの多くは、取り上げの2～3区に限定的に分布する暗褐色土層及び砂層からかわらけが出土したもので、同一の層位から出土したものが便宜的に分けている。113～119はロクロかわらけ小皿、120～146はロクロかわらけ大皿である。大皿では口径が12.8～15.2cmと幅があるが、14cm以下と小型の器形が多い。器高は多くが4cm以下で皿形の器形が多い。胎土は赤褐色が強いものが多く特徴的である。

暗褐色土層から出土したこれらの資料は検出面に近く、一括性には疑問も残るが、分布が限定的な土層から出土している点は注目できる。ある程度の一括性がある資料として捉えることが妥当ならば、資料の特徴からはトレンチ内の資料より後出の特徴をもつ土器群として捉えることができる。72SD2については上層の削平もあり、埋め戻しが全体に及ぶものか部分的なものか判断できない部分が残されているが、遺構の堆積自体の時期的な変化とともに注目できる。147～169は手づくねかわらけ小皿、170～217は手づくねかわらけ大皿である。大皿は口径が11.7～14.6cm、器高が1.6～3.3cmと幅をもつが、口径は14cm以下の小型の器形が多く、14cmを超えるものは少ない。218・219は内折れかわらけである。国産陶器類は少ないが、220～230は瀬美窯産、231～236は常滑窯産である。237は白磁碗の口縁部である。これらは近世段階のⅡ層に対応する層から出土した資料で、手づくねかわらけは12世紀後半の資料が多い。

遺構検出時の遺物では、238～246はロクロ小皿、247～258はロクロ大皿である。252、253のような器高が4cmを超えるものもあるが、多くは器高の低い皿形の器形である。259～261は手づくね小皿、262～272は手づくね大皿である。大皿も口径が14cm以下の器形が多く、12cm前後以下の小型の器形が多い。国産陶器類は少ないが、273～277は瀬美窯産、278～287は常滑窯産である。288は宮城県水沼窯とみている。

72SD2 南トレンチ



72SD2 北トレンチ

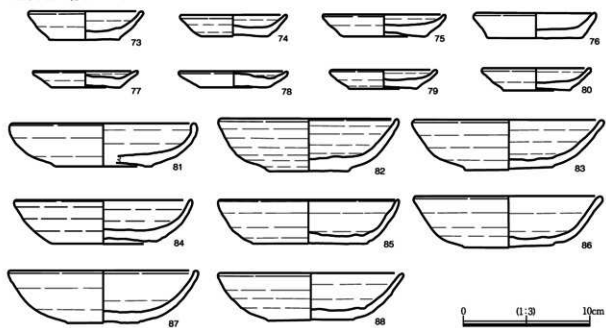
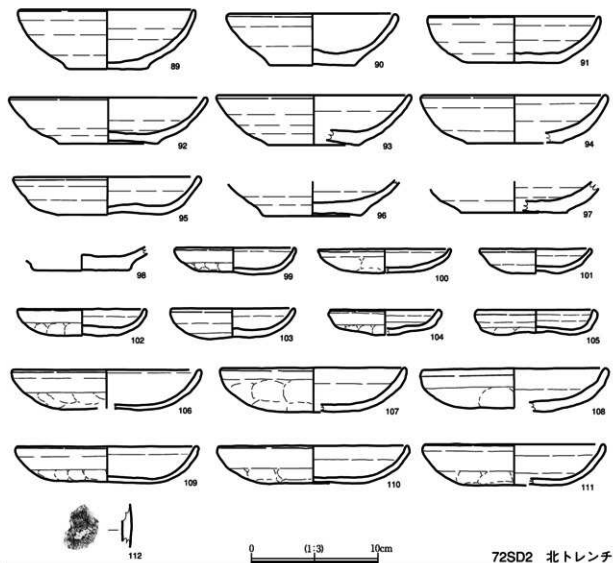


図20 72SD2出土土器類実測図1



72SD2 北トレンチ

72SD2 1~4区

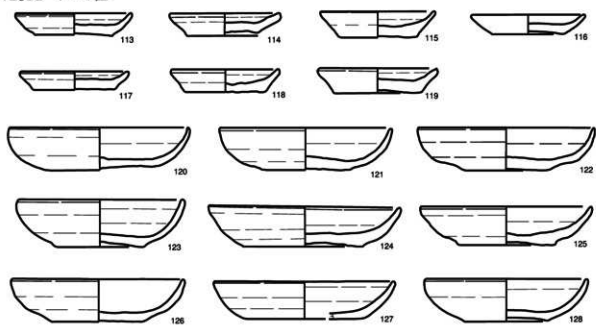


図21 72SD2出土土器類実測図2

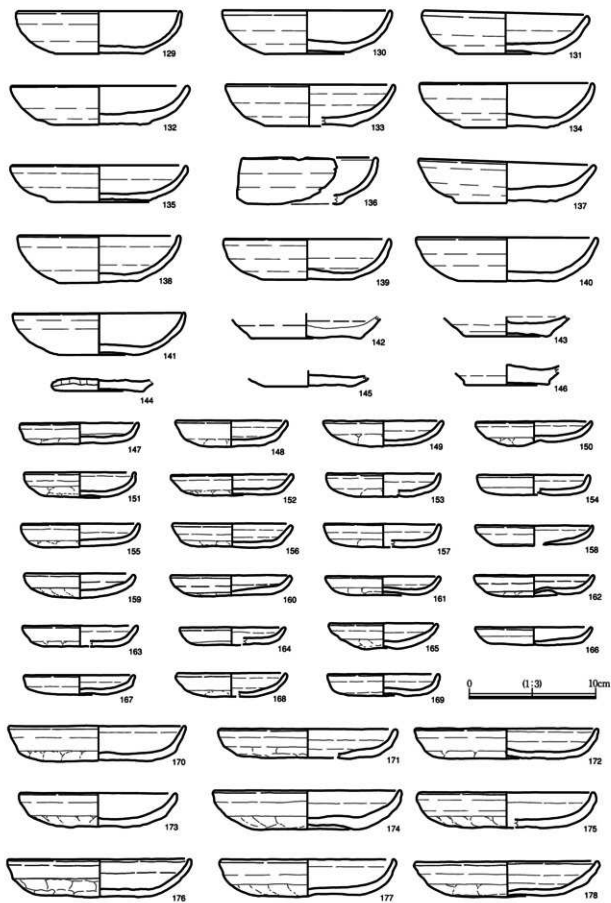


图22 72SD2出土土器种类实测图 3

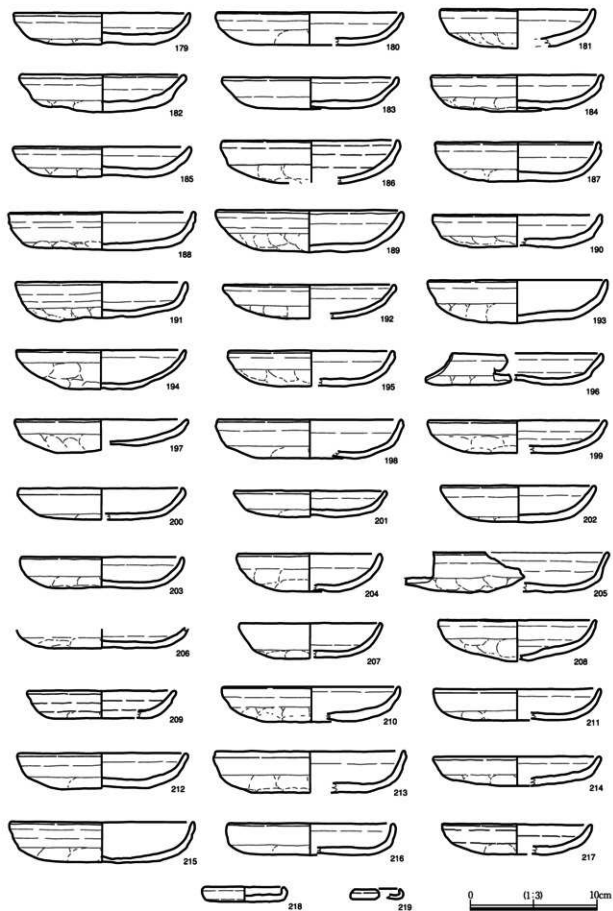


図23 72SD2出土土器類実測図 4

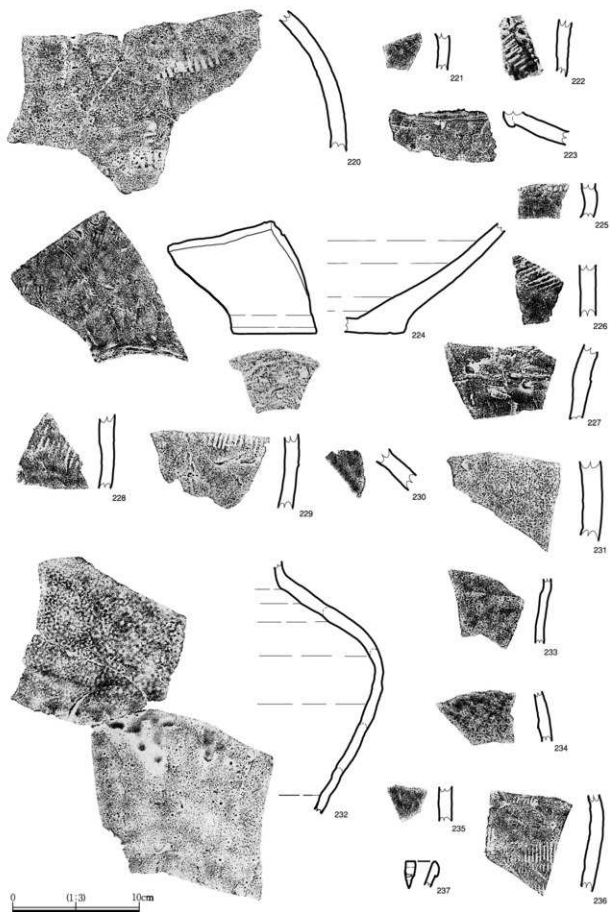


图24 72SD2出土土器类实测图 5

72SD2 その他

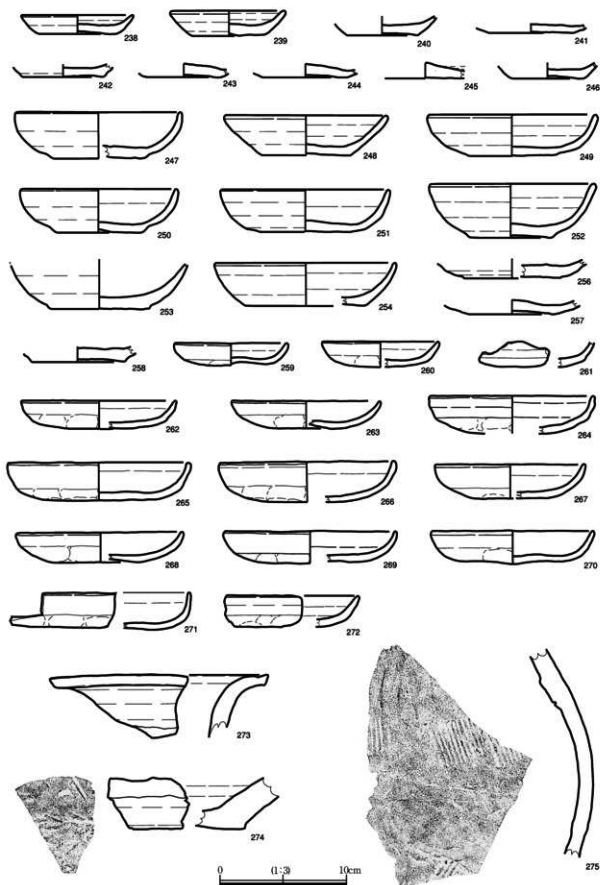
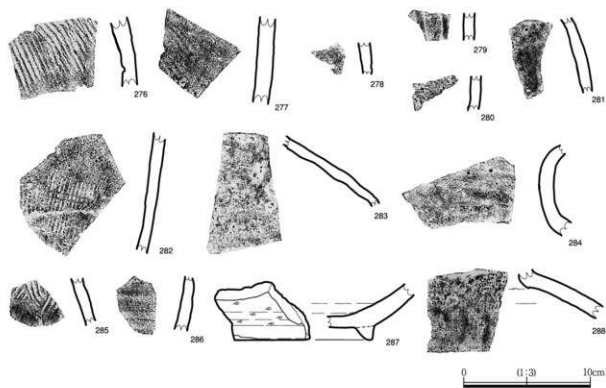


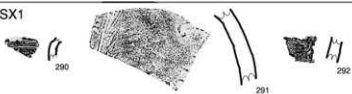
図25 72SD2出土土器類実測図 6



73SK2



73SX1



73SD1



73SD7

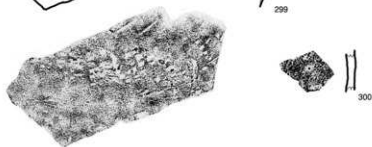


図26 72SD2・その他遺構出土土器類実測図

その他の遺構出土遺物

この他の遺構からの出土遺物では、289は73SK2から出土した手づくね大皿である。290～296は73SX1から出土した国産陶器類で、290・291は渥美窯産、292～296は常滑窯産である。291は刻画文がみられる。これらの遺物は近世段階の掘り込みから出土したもので、遺構の時期とは異なる遺物である。297は73SD7から出土した国産陶器で渥美窯産の甕体部片である。73SD1から出土した遺物では298はロクロ大皿、299は渥美窯産の甕、300は常滑窯産の甕である。

遺構外出土遺物

遺構外の遺物はかわらけ4点、国産陶器171点、輸入陶磁器10点を図示した(図27～30)。かわらけは303は内折れかわらけ、304は柱状高台の台部である。国産陶器は器種は壺、甕、片口鉢があり、305～336、363～377、385～442、482～484は渥美窯産である。335は刻画文がみられる。402・403は築紫櫻文甕とみられる。337～360、378～383、443～466は常滑窯産である。446は複線文が確認でき、三筋文甕とみられる。467は水沼産とみられる。

【土製品】

羽目・壁土が出土しているが、いずれも小破片であるため今回は表での掲載のみとした。壁土は総量で517.3g出土している。多くは72SD2の検出面で出土し、摩滅が著しい筒体が多いため使用された位置等は不明だが、比較的数量が多く注目される。

(櫻井)

2 試掘調査区(図32)

本調査区の東側、57-46～58-48グリッド内に遺構の有無を確認する為に幅2mの試掘トレンチを3本設定した(第1～3トレンチ)。各トレンチとも表土直下が地山面となり、水道管設置の際の攪乱が検出されたのみで、遺構は確認されなかった。この調査区の北側は72次調査で標高28.7mほどの範囲で、東側の70次調査区では標高28.2mほどの範囲で、南側の56次調査区の北部では標高28mほどの範囲で、それぞれ遺構を確認している。それに対してこの調査区は27.5mで検出面となっており、0.5～1m程と大きく削平を受けていることがわかる。遺物はかわらけの細片528.7g、国産陶器49.4gが出土しており、同産陶器6点を掲載した(482～486)。

(村田)

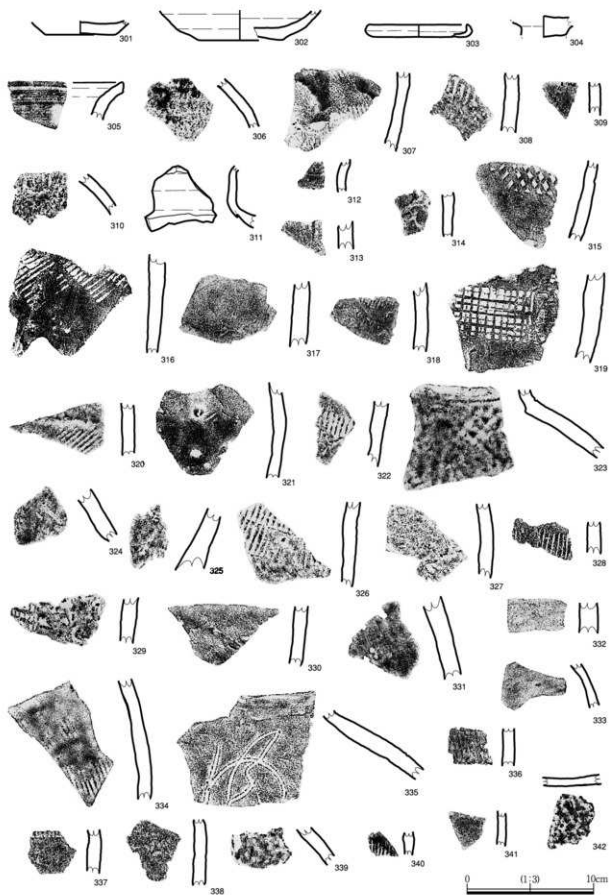


图27 遺構外出土器類実測図1

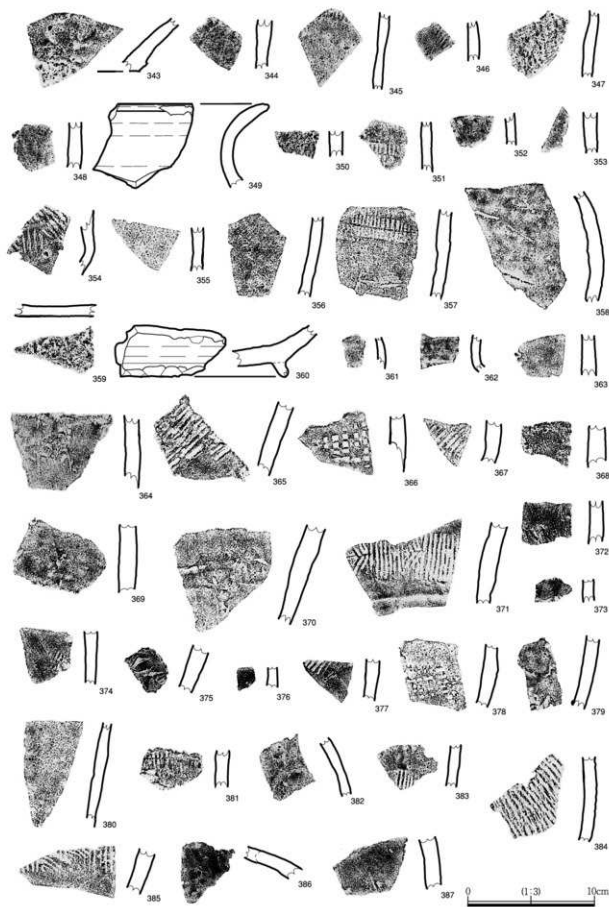


圖28 遺構外出土土器類實測圖2

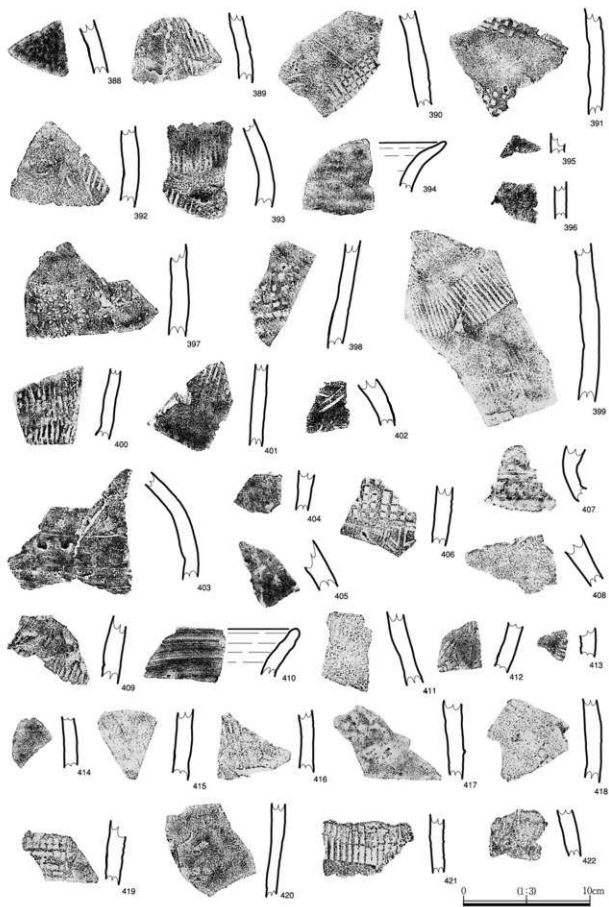


図29 遺構外出土土器類実測図 3

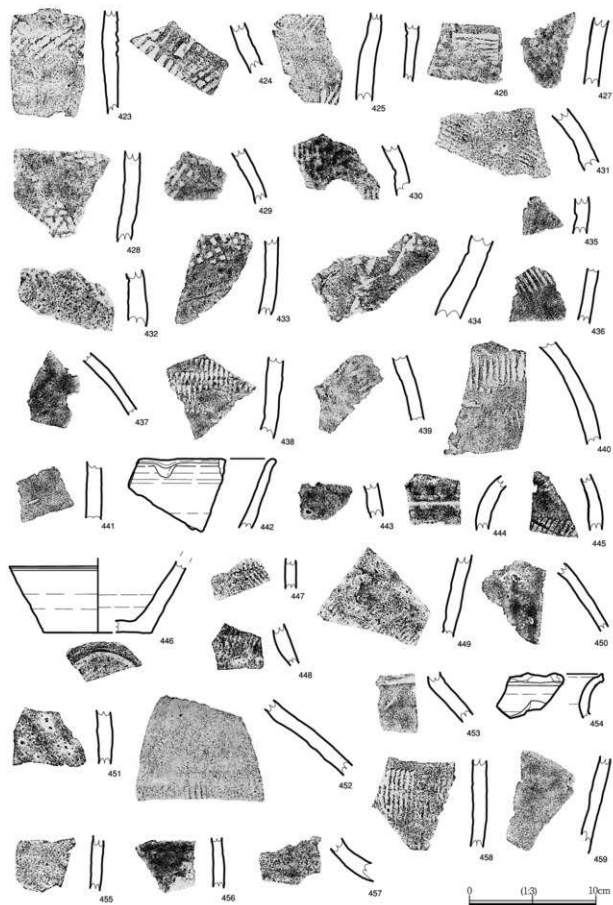


圖30 遺構外出土土器類實測圖 4

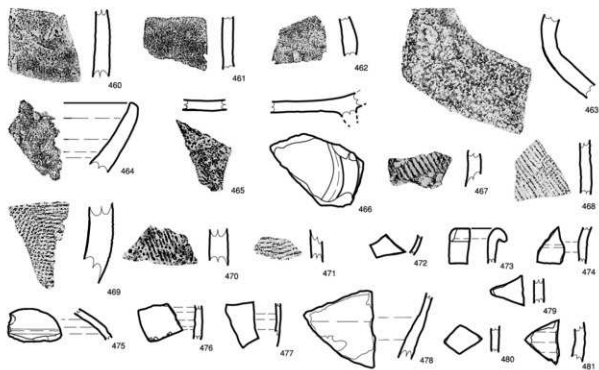


図31 遺構外出土土器類実測図 5

第1～3トレンチ

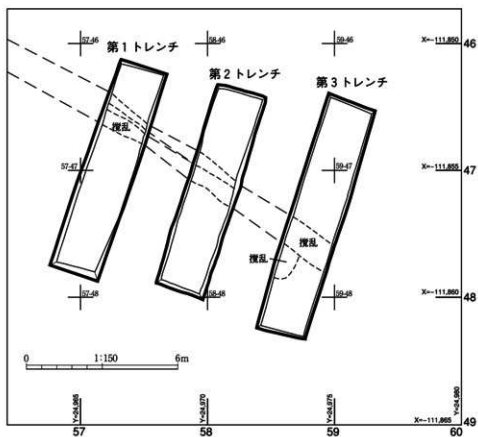


図32 試掘調査区平面図・出土土器実測図

Ⅲ 自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

柳之御所遺跡は、奥州藤原氏の政庁である「平泉館」に相当すると考えられており、これまでの発掘調査により、12世紀後半を中心とする遺構・遺物が確認されている。

本報告では、遺構の年代を確認するために、土坑(73SX1)内から出土した炭化材について放射性炭素年代測定を実施する。また、溝跡(72SD2)から出土した漆器2点について、木材利用を検討するための樹種同定と資料活用のための保存処理を実施する。

I. 放射性炭素年代測定

1. 試料

試料は、土坑(73SX1)内から出土した炭化材1点である。炭化材は、半径45mm、最大幅約30mmのミカン割状を呈する。残存する最外年輪を含む5年分を測定試料として採取した。

2. 分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(IIOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.00 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。試料が炭化材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

表5 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

遺構・部位	母材 (樹種)	処理 方法	測定 年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正) BP	暦年較正結果			Code No.	
						測定	cal BC/AD	cal BP		相対比
SX1 B3区東トレンチ 黒色炭まじり 層(26層)	炭化材 (コナラ属 コナラ節)	AAA	900 \pm 20	-23.48 \pm 0.47	920 \pm 20 (924 \pm 23)	σ	cal AD 1,015 - cal AD 1,096	cal BP 905 - 851	0.622	IAAA- 112357
						2σ	cal AD 1,119 - cal AD 1,141	cal BP 831 - 809	0.272	
							cal AD 1,117 - cal AD 1,155	cal BP 803 - 795	0.107	
							cal AD 1,032 - cal AD 1,163	cal BP 918 - 787	1.000	

1) 処理方法は、酸処理-アルカリ処理-酸処理(AAA処理)である。

2) 年代値の算出には、Libbyの半減期568年を使用した。

3) BP年代値は、1950年を基準として何年前であるかを示す。

4) 付記した測定誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB RIV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。

6) 暦年の計算には、補正年代()で記した1桁目をえめる前の値を使用している。

7) 年代値は、1桁目をえめるのが慣例だが、暦年較正直線や樹年較正プログラムが改訂された場合の内容益や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は1桁目をえめていない。

8) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。

9) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

3. 結果・考察

同位体効果による補正を行った測定結果および暦年較正結果を表5に示す。炭化材の補正年代は、920 \pm 20BPであり、測定誤差を σ として計算させた暦年較正結果は、calAD1,045-1,155である。この結果から、11世紀中頃～12世紀中頃の年代が推定される。

なお、測定試料とした炭化材について、測定試料の由来を明らかにするために樹種同定を実施した結果、コナラ属コナラ節に同定された。コナラ節には、コナラ、ミズナラ、カシワ、ナラガシワがある。コナラ節は、山地～平地まで生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。

II. 樹 種 同 定

1. 試 料

試料は、溝跡(72SD2)から出土した塗板2点(297,335)である。

2. 分析方法

剃刀を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クローラル(抱水クローラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を視察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、高地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結 果

樹種同定結果を表6に示す。漆碗2点は、いずれも広葉樹のケヤキに同定された。以下に解剖学的特徴等を記す。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔間部は1-2列、孔間外で急激に管径を減じたのち、現状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

表6 樹種同定結果

掲載番号	登録番号	袋番号	遺構	位 置	層 位	器種	木取り	樹種	備考	
295	72RW8	605	72SD2	Aトレンチ	16層	漆碗	横木地	ケヤキ	両面黒漆	
335	72RW52	611	72SD2	Bトレンチ	埋土上位	暗掲	漆碗	横木地	ケヤキ	両面黒漆

4. 考 察

漆碗は、いずれも横木地であり、両面に黒漆が塗られている。漆碗の本地は、いずれもケヤキに同定された。ケヤキは山地から平地の水分の多い肥沃な土地に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度・靱性・耐朽性に優れる。この結果から、堅牢なケヤキを漆器本地として利用したことが推定される。

柳之御所遺跡では、これまでも第21・23・41・52・55・56次調査等で出土した漆碗や皿の樹種同定が行われている。その結果ではほとんどがケヤキであり、他の種類はブナ属が1点認められているだけである(能城,1995;高橋,1995a,2003a,2003b;パリオ・サーヴェイ株式会社,2001)。今回の結果は既往事例の用材傾向と調和的と言え、柳之御所遺跡では漆碗の本地にはケヤキを主体としていたことが推定される。

なお本地域では、志羅山遺跡や泉屋遺跡でも漆碗・皿について樹種同定が行われている(高橋,1995b,2000,2001;パリオ・サーヴェイ株式会社,2003)。その結果をみると、12世紀代の資料ではケヤキを主体とした木材利用が確認され、木遺跡と同様の木材利用状況が確認されている。一方、志羅山遺跡の12世紀以降の資料や13世紀前半~14世紀前半とされる資料ではブナ属の利用が目立ち、本地の利用状況が変化し得る可能性がある。

引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所。
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ,木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181。
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ,木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176。
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ,木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201。
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ,木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166。
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ,木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216。
- 能城修一,1995,柳之御所遺跡から出土した木製品の種類,『柳之御所跡 一岡遊水池出土・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告書』,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228号,(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,433-456。
- パリオ・サーヴェイ株式会社,2001,柳之御所遺跡から出土した木製品の樹種,『柳之御所跡 一第32次発掘調査概報一』,岩手県文化財調査報告書第111号,岩手県教育委員会,133-160。

パリオ・サーブレイ株式会社,2003. 泉屋遺跡第21次調査出土材の樹種。「泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書—関東水地事業関連遺跡発掘調査(第2分冊)」、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第309集。(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,278-291.

Richter H.G.,Grosser D.,Hlutz I. and Gasson P.E.(編),2006.針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・森井智之・佐野孝三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海音社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Hlutz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

島地 謙・伊東隆夫,1982.国産木材組織,地球社,176p.

高橋利彦,1995a.柳之御所遺跡第23次・31次調査出土材の樹種。「柳之御所跡—関東水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集。(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,423-432.

高橋利彦,1995b.平泉町志羅山遺跡25次調査出土材の樹種。「志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第216集,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,115-118.

高橋利彦,2000.志羅山遺跡第66次・第74次調査出土材の樹種。「志羅山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第312集。(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,433-444.

高橋利彦,2001.平泉町志羅山遺跡第80次調査出土材の樹種。「志羅山遺跡発掘調査報告書(第47・56・67・73・80次調査)」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第352集。(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,649-662.

高橋利彦,2003a.柳之御所遺跡第55次調査出土材の樹種。「柳之御所遺跡 第56次発掘調査概報」,岩手県文化財調査報告書第117集,平泉遺跡群発掘調査報告書,岩手県教育委員会,100-108.

高橋利彦,2003b.柳之御所遺跡第56次調査出土材の樹種。「柳之御所遺跡—第56次発掘調査概報—」,岩手県文化財調査報告書第117集,岩手県教育委員会,84-99.

Wheeler E.A.,Boss P. and Gasson P.E.(編),1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・森井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海音社,122p. [Wheeler E.A.,Boss P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



1.ケヤキ(72RW8)

a:木口, b:年目, c:板目

200 μ m
100 μ m, b, c

図33 木材断面図

IV 総 括

今年度の調査成果についてまとめ、今後の調査の課題を述べる。

1 堀跡の調査成果

72SD1、72SD2は、昨年度確認した2条の堀跡と連続すると考えられる遺構である。これまで柳之御所遺跡の各地点で平行する2条の堀跡が確認されている。それらの堀跡と連続すると考えられ、柳之御所遺跡全体を堀が区画していることがわかる。

今回確認した堀跡についてそれぞれの特徴をまとめると、72SD1は精査していないが、幅が12~13mで上層には近世以降の盛土が厚く堆積し、整地されている。

72SD2は、旧宅地の範囲にあたり攪乱を受けているが、旧地形を大きく改変するような削平は行われていない。高館方面から伸びる丘陵の端部にあたり、遺跡が機能した当時から周囲よりやや高い範囲が伸びていたとみられる。72SD2は幅が4~5m、底面では幅3m程、深さが深い部分で約1.5mの逆台形状である。北側の72次調査の範囲では幅が3~4m、深さがもっとも深い部分でも0.8mで、旧水田であり削平が著しい範囲であることが推定されていた。今回の調査成果と合わせると、本来の地形は今回の範囲の標高から20~30cm程高い地形が高館方面から伸びる傾斜地であったことが想定される。ただし、堀内部にかけての範囲では標高が高くなることから、やや下がる沢状の部分に堀が構築されたことも想定されるが、この範囲では旧地形の残存が堀跡内外のいずれでも良好ではないため判別できない。堆積層はほぼ全体が人為堆積による理上で、堀埋没時に埋められたと考えられる。断面形状や堆積の様相からは、明確な作り替えの痕跡は確認できない。72SD2堀跡周辺には土坑が複数みつまっているが、堀に伴うものかは不明である。

72SD2の時期については精査したトレンチからの出土遺物を見ると、国産陶器が少ないことが指摘できる。かわらけでは、ロクロかわらけの数量が手づくねかわらけに比して多いことやロクロかわらけでは器高の高い椀形の器形が含まれること、手づくねかわらけ大皿では口径が15cmとやや大きいものが含まれることが指摘できる。ただし、手づくねかわらけ大皿は口径14.5cm前後のものが多くことや手づくね小皿でも口径が8.5~10.0cmと幅をもち、小型の資料も含まれる。これらは12世紀中葉の後半以降から12世紀後半の特徴として指摘されており、その中でも12世紀第3四半期ごろの資料と類似する特徴である。今回の調査ではかわらけ等の資料が限られることもあり、ここでは厳密な時期は確定できない。72SD2については72次調査範囲でも人為堆積により埋められており、12世紀中葉から後半代のかわらけが出土している。この内容は今回の成果とも整合するが、72SD2は長大な遺構でもあり、時期や埋め戻しの様相は地点による差が想定される。より南側の範囲を74次調査で調査しており、それらと合わせて堀外部と接する遺跡西側の堀跡の様相や時期を検討したい。

2 調査区周辺の様相

今回の調査範囲は道路跡の延長部分にあたるということが指摘されてきた(図34)。既述のように今回の調査範囲は宅地による攪乱を受けていたものの、旧水田耕作地にみられるような地形改変を伴う削平は受けていないことがわかる。遺跡が機能した当時から高館方面から伸びる丘陵の端部周囲よりやや高い範囲が伸びていたとみられる。ただし、今回の調査範囲のなかでは橋跡や関連する建物跡は確認できていない。また堀内部に入る部分に設定した試掘調査区の結果から堀内部の導入部は大きく削平

を受けており、遺構の有無が確認できない。そのため、今回の調査範囲からは、この範囲の様相には不確定な要素が多い。

このうち、今回の調査範囲で確認された遺構では平行して走る73SD4と73SD7が注目される。遺構の詳細で既述したように道路状遺構として確定するには不確定な部分があるが、周囲との関連などからは道路状遺構の可能性が想定できる(73SC1)。この2条の溝跡の成果をまとめると、73SD4はN-76°-Wの走向で幅が約0.4m程、深さが約0.2m程である。73SD7はN-70°-Wの走向で幅が約0.8m程、深さが約0.2m程である。両者の関係は走向は東西方向を向き、幅は10m弱となり、底面の標高の差が0.5m程である。いずれの範囲でも遺構上面の堆積土が薄く削平を受けたとみられ、路面等の痕跡は残っていない。

ここで柳之御所遺跡の堀内部及び外部で確認されている道路状遺構をまとめると表7のとおりである(註1)。遺跡内では6本の道路跡が確認され、いずれも遺跡外の他の地区との関連が想定され、柳之御所遺跡が他の遺跡と関連をもちながら機能していたことを示している。建物跡との切り合いが存在する道路もあることから、遺跡が機能した段階で遺構変遷があったことが理解できる。また、いずれも遺構面は削平を受けており、顕著な硬化面や平泉町内の他の遺跡で確認されている波板状凹凸の痕跡などの地業痕跡は確認されていない。

このうち、今回の調査で確認された道路状遺構は、方向から堀外部の道路遺構とつながる可能性があるが、幅には差異もみられる。ただし、一連の道路遺構でも一定の幅に収まるものではないことからすれば、この点からは反証とはならない。堀内部の道路で時期による変遷が想定されることや堀外部の端部で確認されている整地層などの存在から(平泉町教委1993)、遺跡内の時間的な遺構変遷と関連した道路跡の変化も想定される。今後はそれらと合わせた未調査範囲の検討が必要となり、特に堀外部については今回の遺構とさらに外部で既に確認されている道路遺構とつながる部分が未調査範囲となっている。そして、堀内外で確認されている道路状遺構の連続を含め、調査範囲の南側など周囲の様相には不明な点が残されており、今回の調査範囲を含めた周囲にはこれらの関連する遺構が存在する可能性が高い。これらは堀外部地区を含めた隣接地帯の調査によって、今後検討を加える必要がある。それによって堀内部と外部とを結ぶ範囲の様相が示すことが可能となる。今回の調査では堀外部の道路遺構とつながる可能性を指摘するととめておきたい。

表7 柳之御所遺跡道路遺構一覧

	遺構名	方向	幅	備 考	
堀内部	21SC1	21SD4・23SD10	南北 N-4°-E	7.6-10.2	志願山遺跡・泉屋遺跡等へ延びる道路跡
		21SD7・23SD13			
	55SC1	50SA1	東西 N-79°-W	13.0	堀内部から中尊寺方向へ延びる
		37SD4・55SA5			
	52SC1	52SD30→52SD32	東西 N-60°-W	8.0	堀内部から中尊寺方向へ延びる
52SD29・10・14・22					
65SC1	65SA1 65SA3	東西 N-70°-W	4.0	集雲光院跡方向へ延びる道路跡か	
堀外部	道路遺構	25SD3→25SD7・29SD2	東西 M-72°-W	8.0	中尊寺方向へと延びる道路跡
		29SD1			
	73SC1	73SD4 73SD7	東西 N-76°-W	10.0	中尊寺方向へと延びる道路跡か



図34 道路連携分布図

3 ま と め

- 1) 柳之御所遺跡の西側の堀跡周辺部を調査し、堀跡2条、土坑、溝跡を確認した。溝跡はうち2条が平行に走り、道路跡の可能性がある。72SD2を精査し、年代検討の材料を得ることができたが、下層からの遺物は点数、総重量ともに少なく今回の範囲では12世紀後半に埋められたと考えるにとどまる。74次調査で南側を調査することから、それらと合わせて検討する必要がある。
- 2) 今回の調査範囲では道路状遺構を確認したが、橋跡等は確認されなかった。今回の調査範囲は宅地として利用されていたこともあり、周囲の旧水田耕作地と比べて旧地形は比較的残されていた範囲であるが遺構検出面は削平が著しい。これまでの調査成果をふまえると、堀の内外をつなぐ部分がこの周囲に想定され、未調査範囲も含めて未確認の遺構が存在する可能性がある。

(櫻井)

註

- 1) このほかに21次調査区で確認されている溝跡が黒豊光院跡方向へ向かう道路跡の可能性はあるほか、21SC1の延長部分で確認されている部分で道路跡の可能性がある。

表8 遺物観察表(かわらけ)

決数 番号	品名	出土遺構	材質	口径	底径	高さ	重量 (g)	残存率 (%)	区画	備考	登録番号
1	ロコロ 小	72501	磁土	8.8	2.1	6.2	68.7	90	2.538/256白	裏面を赤く、器底の青みがかみこみ程度	73008/195
2	ロコロ 大	72501	磁土	13.0	3.2	7.8	137.8	80	10498/156白	白粉を食む	73008/198
3	ロコロ 大	725D1	磁土	14.3	3.4	7.5	142.0	80	7.33768/46黄緑	白粉を食む	73008/199
4	ロコロ 大	725D1	磁土	13.0	3.7	6.7	108.8	70	7.33768/46黄緑	外は黄緑が美しい	73008/199
5	ロコロ 大	72501	磁土	11.4	1.7	7.8	182.3	80	2.538/136白		73008/197
60	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	23・27層	9.8	1.7	6.7	81.8	100	7.33768/46黄緑	粉土に白粉を食む	73008/166
61	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	18・17層	11.0	1.8	8.5	66.9	70	7.33768/256白	全体に黄緑が美しい、器底を赤く食む	73008/147
62	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	1層	12.1	3.6	7.0	81.2	43	1.33767/46黄緑	裏面・器底を赤く食む、内面に赤色粉を食む	73008/148
63	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	23・27層	12.6	1.5	6.1	74.6	70	2.538/256白	裏面を赤く食む、器底(器底)に赤い粉を食む	73008/149
64	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	28層底土No.1	11.0	1.6	6.5	132.7	43	2.538/256白	内面に赤い粉を食む、赤い粉(器土)の内面を食む	73008/150
65	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	14・18層	14.6	4.2	7.0	220.0	80	2.538/256黄	裏面を赤く食む、赤粉が美しい	73008/151
66	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	23・27層	11.4	1.5	8.0	219.3	93	10498/256白	裏面を赤く食む	73008/152
67	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	28層底土No.1	11.3	3.9	6.8	273.6	90	2.538/256白		73008/153
68	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	23・27層	11.8	3.5	6.0	82.8	80	7.33768/256白		73008/154
69	平づくね 小	725D2 東トレンチ	23層	8.0	1.6	7.3	70	70	2.538/256黄	赤粉が美しい	73008/155
70	平づくね 小	725D2 東トレンチ	28層	13.1	2.8	36.0	31.0	13	10498/46黄緑		73008/157
73	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	2-3層土層(Na.3)	8.0	2.1	3.2	33.1	60	2.538/256黄	粉土に器底(器底)を赤く食む、赤粉を食む	73008/168
74	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	2-3層土層(Na.6)	8.6	1.9	3.5	45.5	80	2.538/256白	赤粉が美しい、白粉を食む	73008/169
75	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.10)	8.6	1.8	6.0	67.8	80	2.538/256黄	全体に黄緑が美しい、白粉・赤粉を赤く食む	73008/170
76	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.20)	9.1	2.0	7.5	105.6	98	2.538/256黄	粉土に赤粉を赤く食む、器底が美しい	73008/171
77	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.22)	8.4	1.3	3.5	39.3	93	51468/256黄	全体に黄緑が美しい、粉土に赤粉を食む	73008/172
78	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.39)	8.6	3.1	2.7	62.3	98	2.538/256白	赤粉が美しい	73008/173
79	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	2層	8.4	1.5	3.5	47.7	80	2.538/256白	全体に黄緑が美しい、粉土に赤粉を赤く食む(器底が美しい)	73008/174
80	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	2層	8.5	1.8	3.3	40.0	75	2.538/256黄	裏面・白粉を赤く食む	73008/174
81	ロコロ 小	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.1)	11.7	3.1	7.0	71.1	30	2.538/256黄	石粉を赤く食む、器底が美しい	73008/174
82	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2-3層土層(Na.14)	14.2	4.2	6.8	216.2	98	2.538/256黄	器底(器底)を赤く食む、石粉は少ない、内面に白粉が美しい	73008/175
83	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2-3層土層(Na.15)	15.0	4.0	7.1	156.1	73	7512.538/256黄 西1.33767/156	粉土に赤粉を赤く食む	73008/176
84	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.18)	13.9	5.5	8.5	172.0	60	2.538/256黄	裏面・白粉を赤く食む	73008/177
85	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2-3層土層(Na.16)	11.2	3.1	9.1	163.0	75	2.538/256白	粉土に赤粉を赤く食む、内面に赤い粉を食む	73008/178
86	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2-3層土層(Na.21)	15.0	4.1	7.0	258.9	93	2.538/256白	赤粉が美しい、白粉・赤粉を赤く食む	73008/179
87	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.21)	15.0	4.2	7.0	71.1	10	10498/256黄	裏面を赤く食む、内面に赤い粉を食む	73008/180
88	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.23)	11.6	3.8	6.8	187.8	76	7512.538/156黄 西1.33767/256白	裏面を赤く食む、赤粉を赤く食む	73008/181
89	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	5層	13.8	1.8	6.5	93.3	30	2.538/256黄	石粉を赤く食む、器底を赤く食む	73008/182
90	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2層	13.2	4.1	6.8	190.5	90	2.538/256白		73008/183
91	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	5層	13.6	3.7	7.5	222.8	95	2.538/256白	裏面を赤く食む	73008/184
92	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	5層	15.8	3.8	7.8	112.7	43	10498/256黄	裏面を赤く食む	73008/187
93	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2層	16.2	1.0	7.1	81.0	80	2.538/256白	外は黄緑が美しい、白粉を食む	73008/188
94	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2層	14.5	3.8	7.8	37.0	20	2.538/256黄		73008/184
95	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	5層下段	11.6	3.0	8.0	116.5	43	2.538/256黄		73008/189
96	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	5層	-	-	8.0	44.0	10	2.538/256白	裏面を赤く食む	73008/186
97	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	5層	-	-	8.5	85.3	13	2.538/256黄		73008/187
98	ロコロ 大	725D2 東トレンチ	2-3層土層(Na.5)	7.5	2.0	10.0	17.0	13	2.538/256黄		73008/201
99	平づくね 小	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.1)	8.1	2.1	38.3	38.3	100	10498/156白	器底(器底)を赤く食む、粉土を赤く食む	73008/192
100	平づくね 小	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.1)	9.9	1.9	-	31.8	30	2.538/256白	粉土に赤い粉を赤く食む、裏面・白粉を赤く食む	73008/191
101	平づくね 小	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.3)	8.6	1.9	-	46.3	30	2.538/256白		73008/200
102	平づくね 小	725D2 東トレンチ	2-3層土層(Na.8)	10.0	2.1	79.7	79.7	93	10498/256黄	器底を赤く食む、粉土に赤粉が美しい、器底(器底)が多い	73008/193
103	平づくね 小	725D2 東トレンチ	5層	10.0	2.3	38.7	38.7	70	2.538/256白	外は黄緑が美しい	73008/192
104	平づくね 小	725D2 東トレンチ	2層	8.5	2.0	-	27.7	49	2.538/256白		73008/228
105	平づくね 小	725D2 東トレンチ	2層	9.2	2.0	-	24.1	20	2.538/256黄	器底を赤く食む	73008/224
106	平づくね 大	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.4)	15.0	3.3	44.0	30	3.33767/256黄		73008/185	
107	平づくね 大	725D2 東トレンチ	2-5層土層(Na.9)	11.5	3.5	89.0	49	2.538/156白	裏面に黄粉	73008/197	

表8-2 遺物観察表(かわらけ)

図番 番号	種別名	出土位置	形状	口径	断面 直径	高さ	重量 (g)	色調	備考	登録番号	
108	ちづくね 大	72502 北トロンチ	2-3割1面(Sa,12)	14.5	3.5	-	247.5	75	灰土を多量に混入した土質の破片	全体的に摩滅している	7300A108
109	ちづくね 大	72502 北トロンチ	2-3割1面(Sa,13)	14.4	3.0	-	191.2	95	2.5YR-6灰質		7300A109
110	ちづくね 大	72502 北トロンチ	5割	15.0	3.0	-	46.8	30	2.5YR-6灰白		7300A110
111	ちづくね 大	72502 北トロンチ	2割	14.3	3.3	-	25.1	25	2.5YR-7.5灰	外縁に摩滅	7300A111
113	ワカラ 小	72502 2区	略筒形上(Sa,16a)	9.4	1.7	6.3	73.5	100	2.5YR-6灰質		7300A113
114	ワカラ 小	72502 2区	碗型	8.7	1.9	5.7	75.9	90	10YR8-6灰質	全体的に磨滅している	7300A114
115	ワカラ 小	72502 2区	碗型	9.0	2.1	6.3	64.4	65	2YR7-7灰	摩滅している	7300A115
116	ワカラ 小	72502 2区	碗型	1.6	5.7	6.6	69	10YR8-6灰質	磨滅が激しい 骨子を含む	7300A116	
117	ワカラ 小	72502 1区	着し草蓋筒形上	8.6	1.4	6.6	65.9	95	2.5YR-6.5灰質	骨子・砂を多く含む 土粒第一面は粗い	7300A117
118	ワカラ 小	72502 3区	碗型下の細筒形上	8.6	1.8	6.5	43.5	65	2YR7-7灰	骨子を多く含む 磨滅が激しい破片が多数あり	7300A118
119	ワカラ 小	72502 4区	碗型	9.4	2.0	6.8	65.7	69	2.5YR-6灰質		7300A119
120	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,1)	13.0	3.5	7.6	189.0	95	2.5YR-6.5灰		7300A120
121	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,1+11割 取)	13.3	3.3	7.0	187.3	80	2.5YR-7.5灰		7300A121
122	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,2)	14.0	3.4	7.0	185.3	80	2.5YR-7.5(4.5)灰		7300A122
123	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,6)	13.7	3.8	7.0	190.7	50	2YR7-7灰	破片に骨子を多く含む 磨滅が激しい	7300A123
124	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,7)	15.2	3.3	6.6	202.8	80	2YR7-7灰		7300A124
125	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,12)	13.3	3.1	7.6	156.6	70	2.5YR-6.5灰質		7300A125
126	ワカラ 大	72502 2区	碗形上(Sa,8-10割)	13.7	3.4	7.3	147.7	75	2YR7-7灰		7300A126
127	ワカラ 大	72502 2区	碗形上(Sa,8-10割)	14.4	3.0	6.8	58.6	30	2YR7-7灰		7300A127
128	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,10)	13.2	3.4	6.5	192.2	80	2.5YR-7.5灰	磨滅が激しい	7300A128
129	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,22)	13.0	3.4	7.0	49.6	40	2.5YR-7.5灰		7300A129
130	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,1+25)	13.4	3.5	7.0	130.7	80	2.5YR-6.5灰質		7300A130
131	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,34)	13.1	3.8	7.9	164.2	80	2YR7-7灰	骨子を含む 平んでいる	7300A131
132	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,25)	14.0	3.1	8.2	205.9	90	2.5YR-7.5灰		7300A132
133	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,26)	13.4	3.2	7.2	42.9	35	5YR6-6灰	骨子を多く含む	7300A133
134	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,28)	13.2	3.6	7.4	179.6	55	10YR5-1.5灰 2YR7-7灰	骨子を多く含む 摩滅が激しい 破片が多少あり、破片が粗い	7300A134
135	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,30)	14.0	3.9	8.1	158.5	50	2YR7-7灰	磨滅が激しい 骨子・砂を含む	7300A135
136	ワカラ 大	72502 2区	略筒形上(Sa,43)	-	3.7	7.1	39.6	15	2.5YR-6.5灰質		7300A136
137	ワカラ 大	72502 2区	碗形、5-13割 破片	14.0	3.5	8.0	251.0	90	2YR7-7灰	平んでいる	7300A137
138	ワカラ 大	72502 2区	碗形	12.8	3.8	8.8	142.7	80	2YR7-7灰	外縁が磨滅	7300A138
139	ワカラ 大	72502 2区	碗型、中央部彩色土	13.1	3.3	7.5	179.7	70	2YR7-7灰	骨子を多く含む	7300A139
140	ワカラ 大	72502 2区	碗型	14.2	3.5	7.5	118.2	50	5YR7-7.5	全体的に摩滅している	7300A140
141	ワカラ 大	72502 2区	碗形上	13.6	3.8	7.1	91.3	70	7.5YR-6.5灰質	摩滅が激しい 平んでいる	7300A141
142	ワカラ 大	72502 2区	碗形	-	-	9.9	79.2	35	10YR8-6.5灰質		7300A142
143	ワカラ 大	72502 2区	碗型	-	-	7.2	50.5	15	2YR7-7.5灰	外縁下面に赤い染層 骨子を多く含む	7300A143
144	ワカラ 大	72502 2区	碗型	-	-	7.2	38.6	10	10YR7-6.5(4.5)灰	土質が粗い 骨子を多く含む	7300A144
145	ちづくね 小	72502 2区	碗型	-	-	7.0	52.5	10	2.5YR-7.5灰		7300A145
146	ちづくね 大	72502 2区	碗形	-	-	6.6	90.8	35	2.5YR-6.5灰質	骨子を含む	7300A146
147	ちづくね 小	72502 2区	碗形、略筒形上(Sa,1 取、No.11)	9.4	1.1	67.8	95	10YR8-3.5灰質	25割とみぞ縁のため深い	7300A147	
148	ちづくね 小	72502 2区	略筒形上(Sa,11)	8.8	2.1	-	60.9	95	2.5YR-7.5灰	骨子を含む	7300A148
149	ちづくね 小	72502 2区	略筒形上(Sa,1取下、 No.3+4+11)	9.4	2.1	-	80.0	90	2.5YR-6.5灰	骨子を多量に含む スリノコ状 破片による凹凸あり	7300A149
150	ちづくね 小	72502 2区	碎片、略筒形上(Sa,11)	9.4	1.8	61.2	90	2.5YR-7.5灰	骨子・砂を含む 下面が平ら	7300A150	
151	ちづくね 小	72502 2区	略筒形上(Sa,1取下、 No.11)	8.0	2.0	51.1	80	2.5YR-7.5灰	内面に赤褐色の染層が一部見られる	7300A151	
152	ちづくね 小	72502 2区	略筒形上(Sa,4)	8.5	1.7	-	81.1	60	2.5YR-6.5灰	骨子を含む	7300A152
153	ちづくね 小	72502 2区	略筒形上(Sa,1取下、 No.11)	9.0	1.8	-	29.9	20	2.5YR-6.5灰	骨子を含む	7300A153
154	ちづくね 小	72502 2区	略筒形上(Sa,11)	8.8	1.6	73.9	90	2.5YR-6.5灰		7300A154	
155	ちづくね 小	72502 2区	略筒形上(Sa,1取下)	9.2	1.9	79.8	90	2.5YR-6.5灰	破片に心筒を多少含むと思われる	7300A155	
156	ちづくね 小	72502 2区	略筒形上(Sa,15)	9.3	1.9	-	80.0	65	2.5YR-6.5灰		7300A156
157	ちづくね 小	72502 2区	略筒形上(Sa,15)	9.0	1.9	-	28.3	20	2.5YR-6.5灰		7300A157
158	ちづくね 小	72502 2区	碗形	9.5	1.5	49.0	95	2.5YR-6.5灰	骨子・砂を多く含む 土質が粗い	7300A158	
159	ちづくね 小	72502 2区	破片、略筒形上	8.7	2.0	58.0	85	灰土を多量に混入した土質の破片	内面にスリノコ状の染層が一部見られる スリノコ状の染層	7300A159	

表 8-3 遺物観察表 (かわらけ)

試料番号	品名	出土遺集	材質	口径	径高	底径	重量 (g)	残存率 (%)	色調	備考	登録番号
160	チづくね 小	7202 2E	砂質土質褐色土	9.5	1.7	-	287.7	100	2.5YR7/6黄		7300672
181	チづくね 小	7202 2E	砂質土質褐色土	9.0	1.5	-	26.1	100	7.5YR7/4黄褐色		7300673
302	チづくね 小	7202 2E	砂質	9.5	1.7	-	64.5	98	10YR7/4黄褐色	石針を少量含む。土中の磁石が強い。一部中央部の白土が滑しい。	7300674
163	チづくね 小	7202 2E	砂質	9.5	1.7	-	55.2	100	2.5YR7/6黄	一部に黄なる部分がある。残存率が高い。磁石が強い。	7300675
164	チづくね 小	7202 2E	砂質	8.4	1.4	-	24.2	100	2.5YR7/6黄		7300676
195	チづくね 小	7202 2E	砂質	9.0	2.2	-	61.8	98	2.5YR7/6黄		7300677
168	チづくね 小	7202 2E	砂質	9.2	1.4	-	25.6	100	2.5YR7/6黄		7300678
167	チづくね 小	7202 2E	黄土質褐色土	8.7	1.6	-	48.7	90	2.5Y7/6黄	内面が茶色。内面中央部に付着。磁石を少量含む。	7300679
168	チづくね 小	7202 2E	黄土質褐色土	8.6	1.5	-	35.0	65	10YR7/4黄褐色		7300680
169	チづくね 小	7202 2E	褐色土	8.8	1.7	-	60.1	90	5YR7/2灰白	磁石を含む。内面に褐色付着物。	7300681
170	チづくね 大	7202 2E	砂質、褐色土質(Na, Li)	13.9	2.8	-	108.9	25	2.5YR7/6黄		7300682
171	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 10, No. 9 + 11)	11.0	2.5	-	77.7	100	2.5YR7/6黄		7300683
172	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 10, No. 11)	11.4	2.4	-	74.6	100	2.5YR7/6黄	磁石を含む。内面に褐色付着物。一部に黄なる部分がある。	7300684
173	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9)	12.4	2.8	-	76.8	100	2.5YR7/6黄		7300685
174	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9 + 11)	14.7	3.5	-	120.0	45	2.5YR7/6黄		7300686
175	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9, 11)	13.7	2.8	-	84.3	100	2.5YR7/6黄		7300687
176	チづくね 大	7202 2E	砂質、褐色土 (No. 9 + 11)	11.4	3.0	-	165.7	85	2.5YR7/6黄	スノコ磁石を少量含む。土中の磁石が強い。磁石が強い。一部に黄なる部分がある。	7300688
177	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 10, No. 11)	13.8	3.0	-	112.1	15	2.5YR7/6黄	スノコ磁石	7300689
178	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9)	14.6	2.8	-	180.7	95	2.5YR7/6黄	内面に磁石が強い。磁石が強い。一部に黄なる部分がある。	7300690
179	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9, 11)	11.0	2.5	-	87.7	50	2.5YR7/6黄		7300691
180	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9, 11)	11.6	2.6	-	36.5	100	10YR7/4黄褐色	茶色が多い。	7300692
181	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9, 11)	12.2	3.1	-	79.3	100	2.5YR7/6黄	茶色が多。かわらけ。	7300693
182	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9, 11)	13.2	3.0	-	104.5	95	2.5YR7/6黄	石針を少量含む。内面に褐色付着物。一部に黄なる部分がある。	7300694
183	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9, 11)	11.0	2.5	-	50.8	100	2.5YR7/6灰白	茶色が多い。	7300695
184	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 9, 11)	15.6	2.9	-	170.5	85	2.5YR7/6黄	茶色の土質の砂を少量含む。磁石が強い。一部に黄なる部分がある。	7300696
185	チづくね 大	7202 2E	砂質、褐色土 (No. 11)	14.0	2.4	-	140.7	60	2.5YR7/6黄		7300697
186	チづくね 大	7202 2E	砂質、褐色土 (No. 11)	14.0	3.4	-	130.0	60	2.5YR7/6黄		7300698
187	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 11)	12.6	3.1	-	147.0	80	2.5YR7/6黄	磁石を少量含む。	7300699
188	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 10)	11.6	3.0	-	137.2	100	2.5YR7/6黄	磁石を含む。内面に褐色付着物。	7300700
189	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 11)	14.7	2.3	-	253.3	98	2.5YR7/6灰白	磁石を少量含む。一部に黄なる部分がある。	7300701
190	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 11)	13.3	2.6	-	79.0	100	2.5YR7/6黄		7300702
191	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 11, No. 10)	13.4	3.1	-	176.8	98	2.5YR7/6黄		7300703
192	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 10)	13.6	2.7	-	25.9	25	2.5YR7/6黄		7300704
193	チづくね 大	7202 2E	砂質、褐色土 (No. 10, 11)	14.1	3.4	-	177.3	80	2.5YR7/6黄	スノコ磁石を含む。	7300705
194	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 10)	13.4	3.1	-	133.0	100	2.5YR7/6黄		7300706
195	チづくね 大	7202 2E	磁褐色土 (No. 10, 11)	13.1	2.8	-	71.2	100	2.5YR7/6黄		7300707
196	チづくね 大	7202 2E	褐色土 (No. 9, 11)	-	2.5	-	27.6	20	10YR7/4黄褐色		7300708
197	チづくね 大	7202 2E	砂質、褐色土	13.8	2.7	-	122.6	75	2.5YR7/6黄	赤褐色。かみみ。割壊。滑しい。	7300709
198	チづくね 大	7202 2E	砂質	11.6	3.1	-	80.6	100	2.5YR7/6黄		7300710
199	チづくね 大	7202 2E	黄土質褐色土	11.0	2.0	-	43.8	100	2.5Y7/6黄	スノコ磁石	7300711
200	チづくね 大	7202 2E	黄土質褐色土	13.0	2.5	-	36.3	100	7.5YR7/2灰白		7300712
201	チづくね 大	7202 2E	黄土質褐色土	12.0	2.1	-	33.9	100	2.5YR7/6灰白		7300713
202	チづくね 大	7202 2E	黄土質褐色土	12.2	2.0	-	68.7	25	2.5YR7/6黄	茶色が多い。	7300714
203	チづくね 大	7202 2E	砂質	12.6	2.5	-	29.0	100	2.5YR7/6黄		7300715
204	チづくね 大	7202 2E	黄土質褐色土、中央部褐色土	11.2	3.0	-	51.0	100	2.5YR7/2灰白		7300716
205	チづくね 大	7202 2E	砂質、磁褐色土	11.4	2.0	-	30.0	25	2.5YR7/6黄		7300717
206	チづくね 大	7202 2E	砂質	-	-	-	45.0	15	2.5YR7/6黄		7300718
207	チづくね 大	7202 2E	黄土質褐色土	11.4	2.0	-	31.5	100	10YR7/2灰白		7300719
208	チづくね 大	7202 2E	黄土質褐色土	12.4	3.4	-	51.0	85	5YR7/4黄		7300720
209	チづくね 大	7202 2E	黄土質褐色土	11.7	2.0	-	30.5	70	2.5YR7/6黄	茶色が多い。	7300721
210	チづくね 大	7202 2E	褐色土	11.0	2.8	-	56.9	85	2.5YR7/6黄	磁石を少量含む。	7300722

表8-4 遺物観察表(かわらけ)

図番 番号	種別名	出土位置	形状	口径	断面 直径	高さ	重量 (g)	割合 (%)	色調	備考	図番 番号
211	手づくりぬい	72502 3区	砂焼土の楕円色土	13.4	2.5	-	58.0	35	2.5YR2.5/白		7260A127
212	手づくりぬい	72502 3区	「灰」産物色土、砂焼土の楕円色土	13.4	2.8	-	89.3	50	2.5YR3.0/黄	全体部に厚膜が美しい。内面を看む遊離は少ない	7260A138
213	手づくりぬい	72502 3区	焼土色土	15.0	3.3	-	97.12	45	2.5YR3.0/黄	骨片・砂粒を含む	7260A142
214	手づくりぬい	72502 3区	焼土色土	13.4	3.3	-	73.7	40	10YR20/13/白	砂粒厚膜が美しい。骨片も少々含む	7260A149
215	手づくりぬい	72502 3区	砂焼土の楕円色土	11.5	3.2	-	113.5	60	7.5YR3.0/黄	内面厚膜が美しい。下の部分が不明	7260A158
216	手づくりぬい	72502 3区	焼土色土	13.4	2.5	-	87.6	35	2.5YR3.0/黄	全体に厚膜が美しい	7260A163
217	手づくりぬい	72502 4区	焼土色土	11.8	2.4	-	25.4	30	2.5YR3.0/黄	骨片を含む	7260A165
218	内面	72502 1区	灰土色黄褐色土	6.3	1.2	-	11.5	20	2.5YR3.0/黄		7260A168
219	内面	72502 1区	灰土色黄褐色土	-	6.9	-	1.6	5	7.5YR3.0/黄		7260A168
220	口外	72502	焼土色土	8.8	1.3	6.3	51.2	80	7.5YR7.0/黄	骨片・砂粒を多く含む。厚膜が美しい	7260A162
229	口外	72502 (50-45)	焼土色土	9.2	2.0	6.0	82.2	70	10YR20/13/白	内面厚膜	7260A222
230	口外	72502	焼土色土	-	-	5.7	80.3	10	9YR3.0/黄	骨片を含む	7260A161
241	口外	72502	焼土色土	-	-	6.7	47.7	10	7.5YR3.0/黄	厚膜が美しい	7260A172
242	口外	72502	焼土色土	-	-	6.5	50.5	10	7.5YR2.0/13/白		7260A173
243	口外	72502	焼土色土	-	-	6.0	30.8	10	7.5YR7.0/黄	厚膜が美しい	7260A175
244	口外	72502	焼土色土	-	-	6.6	51.7	10	10YR20/13/白	厚膜が美しい	7260A177
245	口外	72502	焼土色土	-	-	-	31.0	5	10YR20/13/白		7260A178
246	口外	72502	焼土色土	-	-	5.8	31.2	10	2.5YR3.0/黄	厚膜が美しい	7260A179
247	口外	72502	焼土色土	12.1	2.7	7.0	118.3	50	2YR7.0/黄	厚膜が美しい。下部部に厚膜が剥がれている(厚膜剥が)	7260A163
248	口外	72502	焼土色土	12.6	3.5	7.0	140.9	80	10YR20/13/白	骨片を多く含む	7260A161
249	口外	72502	焼土色土	13.4	3.3	7.0	167.2	60	7.5YR7.0/黄	骨片を多く含む。内面部分(内面)が剥がれている	7260A165
250	口外	72502	焼土色土	12.4	3.5	7.0	89.3	40	2YR7.0/黄	厚膜が美しい	7260A166
251	口外	72502	焼土色土	13.7	3.3	7.1	177.8	80	2YR7.0/黄	骨片を含む	7260A167
252	口外	72502	砂焼土	13.0	4.3	6.5	138.9	50	7.5YR7.0/13/白	砂粒厚膜が美しい。骨片・砂粒を多く含む	7260A168
253	口外	72502	砂焼土、焼土色土	-	-	5.0	116.7	45	2YR7.0/黄		7260A169
254	口外	72502	砂焼土、焼土色土、焼土	14.6	3.4	9.6	85.6	30	2YR6.0/黄	骨片を多く含む	7260A170
256	口外	72502	焼土色土	-	-	7.8	85.9	10	7.5YR3.0/黄	骨片を多く含む	7260A171
257	口外	72502	焼土色土	-	-	6.7	49.0	10	7.5YR3.0/黄	骨片を含む	7260A172
258	口外	72502	焼土色土	-	-	7.6	85.7	10	2YR6.0/黄		7260A171
259	手づくりぬい	72502	焼土色土	6.8	1.8	-	61.3	100	10YR20/13/白		7260A180
260	手づくりぬい	72502	焼土色土	9.4	2.0	93.7	80	3.5Y7.0/黄	外周の一部に厚膜	7260A181	
261	手づくりぬい	72502	焼土色土	-	-	-	13.3	10	2.5YR3.0/黄	1個もほとんど焼っていない	7260A182
262	手づくりぬい	72502	焼土色土	12.2	1.9	-	30.0	30	2.5YR3.0/黄		7260A181
263	手づくりぬい	72502	焼土色土	11.7	2.2	-	29.4	25	10YR20/13/白	内径部厚膜が美しい	7260A185
264	手づくりぬい	72502	焼土色土	13.0	3.0	-	42.3	40	2.5YR3.0/黄		7260A186
265	手づくりぬい	72502	灰土、焼土色土	11.3	3.1	-	160.0	60	7.5YR3.0/黄		7260A188
266	手づくりぬい	72502	焼土色土	14.0	3.2	-	83.2	40	10YR20/13/白		7260A189
267	手づくりぬい	72502	焼土色土	11.8	2.7	-	42.3	35	2.5YR3.0/黄		7260A189
268	手づくりぬい	72502	焼土色土	13.2	2.4	-	61.1	30	10YR20/13/白	スノコ状	7260A191
269	手づくりぬい	72502	焼土色土	13.6	2.5	-	20.5	40	2.5YR3.0/黄		7260A192
270	手づくりぬい	72502	焼土色土	12.9	2.6	-	51.2	30	2.5YR3.0/黄		7260A193
271	手づくりぬい	72502	焼土色土	-	-	2.7	27.2	25	7.5YR7.0/13/白		7260A187
272	手づくりぬい	72502	焼土色土	-	-	2.5	22.2	10	10YR20/13/白		7260A182
276	手づくりぬい	72502	灰土、砂焼土色土	-	8.2	-	20.2	10	2.5YR3.0/黄	厚膜が美しい	7260A201
284	口外	72501 跡地	焼土色土	14.0	3.3	6.1	239.6	70	2.5YR3.0/黄	厚膜が美しい	7260A200
301	口外	小中 72503D	焼土	-	-	5.9	49.2	10	7.5YR3.0/黄	骨片を含む。厚膜が美しい	7260A194
302	口外	C36 目録(かわらけNo.1)	焼土	-	-	13.0	15.0	20	2YR7.0/黄	骨片を含む。厚膜(付)3cm	7260A204
303	内面	中央(72502)	灰土	7.8	1.0	-	3.9	5	10YR20/13/白		7260A191
304	内面	39-43	灰土	-	-	3.8	32.3	10	2YR6.0/黄	全面の高残	7260A205
305	手づくりぬい	72502 焼土と砂土	焼土色土、焼土	-	-	28.1	30	7.5YR3.0/黄	表面	7260A195	
311	口外	72502 3区	灰土色黄褐色土	-	-	1.0	5	7.5YR3.0/黄	砂粒高、厚膜が剥が	7260A179	

表9 遺物観察表(国産陶器)

発掘 番号	出土 地	器種	器名	形状	重量 (g)	色調	備考	登録 番号
6	同発	蓋	7SD1 14	筒十	77.7	外: 2.584/136白 底: 2.557/136白		730A1
7	同発	蓋	7SD1 15	筒十	89.7	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A1
8	同発	蓋	7SD1 14	筒十	125.0	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A3
9	同発	蓋	7SD1 14	筒十	89.6	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏?)	730A6
10	同発	蓋	7SD1 14	筒十	118.4	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A7
11	同発	蓋	7SD1 14	筒十	84.2	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A9
12	同発	蓋	7SD1 14	筒十	61.3	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A10
13	同発	蓋	7SD1 14	筒十	32.9	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A11
14	同発	蓋	7SD1 14	筒十	65.1	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A11
15	同発	蓋	7SD1 44	筒十	39.4	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A22
16	同発	蓋	7SD1 44	筒十	25.0	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A21
17	同発	蓋	7SD1 44	筒十	47.8	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A25
18	同発	蓋	7SD1 44	筒十	23.1	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A25
19	同発	蓋	7SD1 34	筒十	31.4	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A27
20	同発	蓋	7SD1 44	筒十	29.8	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A29
21	同発	蓋	7SD1 44	筒十	16.3	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A28
22	同発	蓋	7SD1 44	筒十	39.3	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A30
23	同発	蓋	7SD1 44	筒十	36.5	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A33
24	同発	蓋	7SD1 44	筒十	65.2	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A35
25	同発	蓋	7SD1 44	筒十	69.2	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A38
26	同発	蓋	7SD1 33-43	筒十	86.1	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A42
27	同発	蓋	7SD1 44	筒十	122.6	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A26
28	同発	蓋	7SD1 44	筒十	221.0	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A21
29	同発	蓋	7SD1 33-43	筒十	15.8	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A41
30	同発	蓋	7SD1 44	筒十	97.8	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A30
31	同発	蓋	7SD1 44	筒十	43.8	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A35
32	同発	蓋	7SD1 44	筒十	115.5	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A46
33	同発	蓋	7SD1 33-43	筒十	28.6	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A41
34	同発	蓋	7SD1 34	筒十	69.2	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A19
35	同発	蓋	7SD1 44	筒十	23.1	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A25
36	同発	蓋	7SD1 44	筒十	31.8	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A13
37	同発	蓋	7SD1 24	筒十	46.4	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A15
38	同発	蓋	7SD1 44	筒十	28.5	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A16
39	同発	蓋	7SD1 24	筒十	46.4	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A17
40	同発	蓋	7SD1 44	筒十	46.2	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A16
41	同発	蓋	7SD1 44	筒十	27.1	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A20
42	同発	蓋	7SD1 33-43	筒十	4.1	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A20
43	同発	蓋	7SD1 44	筒十	7.5	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A24
44	同発	蓋	7SD1 44	筒十	24.8	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A22
45	同発	蓋	7SD1 44	筒十	22.6	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A32
46	同発	蓋	7SD1 44	筒十	38.8	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A37
47	同発	蓋	7SD1 44	筒十	18.8	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A48
48	同発	蓋	7SD1 44	筒十	19.7	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A21
49	同発	蓋	7SD1 44	筒十	41.6	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A22
50	同発	蓋	7SD1 24	筒十	7.0	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A22
51	同発	蓋	7SD1 33-43	筒十	31.2	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A33
71	同発	蓋	7SD1 44	筒十	405.6	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A38
72	同発	蓋	7SD1 44	筒十	115.0	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	内面に十字	730A38
112	同発	蓋	7SD1 44	筒十	9.9	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白		730A55
220	同発	蓋	7SD1 24	筒十	361.9	外: 2.548/136白 底: 2.557/136白	外底(字行表裏)	730A51

表9-2 遺物観察表(国産陶器)

国産番号	産地	器種	形状	器名	材質	重量(g)	色調	備考	記録番号
221	伊勢	樽	体部	72SD 35L	面上紅褐色土	11.5	外: 2.3Y7.1/赤土色 内: 10Y8.5/褐色		72R030
222	徳島	張	体部	72SD 25F	面上赤褐色土	25.1	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 10Y8.5/褐色	押印(字痕文)	72R054
223	京都	瓶	腹部	72SD 75L	片磨	102.5	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	灰濁	72R061
224	徳島	瓶	体部	72SD 24L	面上赤褐色土	311.2	外: 10Y8.5/褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	押印(字痕文) 外面に十字	72R058
225	奈良	壺	体部	72SD 25L	面上紅褐色土	20.0	外: 2.3Y7.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	押印(指文字)	72R062
226	徳島	壺	体部	72SD 23L	面上赤褐色土	30.1	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	押印(字痕文)	72R060
227	奈良	壺	体部	72SD 35L	片磨赤土	106.1	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	押印(木印) 外面に十字	72R064
228	奈良	壺	体部	72SD 34L	付下との灰褐色土	49.2	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	押印(字痕文)	72R063
229	奈良	壺	体部	72SD 35L	付下との陶褐色土	81.4	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	押印(字痕文) 外面に十字	72R066
230	奈良	壺	体部	72SD 41L	片磨	109.9	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y7.1/赤褐色		72R069
231	奈良	壺	体部	72SD 1区	面上赤褐色土	127.3	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R063
232	奈良	壺	体部	72SD 35L	面上紅褐色土	476.9	外: 2.3Y7.1/赤褐色 内: 10Y8.5/褐色	3点接合 外面に付灰濁 十字	72R060
233	奈良	壺	体部	72SD 25F	面上赤褐色土	92.6	外: 10Y8.5/褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色		72R067
234	奈良	壺	体部	72SD 75L	面上紅褐色土	33.7	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R056
235	奈良	壺	体部	72SD 34L	灰褐色土	12.9	外: 5Y3.5/黄褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色		72R067
236	奈良	壺	体部	72SD 35L	灰褐色土	77.8	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 10Y8.5/褐色	押印(字痕文)	72R068
237	奈良	壺	口縁	72SD(51-55)	検出中	102.2	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	口縁部破れている 灰濁はつきり	72R060
238	奈良	壺	腹部	72SD(51-55)	検出中	61.6	外: 2Y6.1/赤褐色 内: 10Y8.5/褐色	外面に下灰濁	72R051
239	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土、黄土	112.3	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	2点接合	72R056
240	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	74.8	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 10Y8.5/褐色	押印(字痕文)	72R064
241	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	67.9	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R056
242	奈良	壺	体部	中央(72SD)	灰褐色土	7.3	外: 10Y8.5/褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	外面に十字	72R067
243	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	92.3	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	押印(縦書き文字) 外面に十字	72R049
244	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	35.3	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色		72R067
245	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	66.8	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y7.1/赤褐色		72R058
246	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	90.0	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R051
247	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	21.0	外: 10Y8.5/褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	押印(横書き文字)	72R057
248	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	29.2	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色		72R050
249	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	89.9	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	内面黒染 外面に十字	72R043
250	奈良	壺	体部	中央(72SD)	紅褐色土	88.7	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R042
251	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	1.3	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	外面に灰濁の付	72R065
252	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	69.2	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y7.1/赤褐色		72R029
253	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	9.1	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	外面に十字	72R075
254	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	41.6	外: 10Y8.5/褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	外面に十字	72R056
255	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	19.8	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	押印(縦書き文字) 外面に十字	72R077
256	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	31.5	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色		72R060
257	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	30.5	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色		72R061
258	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	11.4	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	外面に十字	72R068
259	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	11.4	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色	押印(字痕文)	72R061
260	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	357.5	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	押印(指文字)	72R060
261	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	13.3	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色		72R063
262	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	23.5	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色	外面に灰濁は付	72R067
263	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	21.5	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R058
264	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	68.1	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色		72R069
265	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	11.3	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R065
266	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	11.4	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R056
267	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	25.5	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R060
268	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	21.5	外: 10Y8.5/褐色 内: 10Y8.5/褐色		72R070
269	奈良	壺	体部	72SD 1区	片磨	6.8	外: 2.3Y6.1/赤褐色 内: 2.3Y6.1/赤褐色		72R050

表9-3 造物観察表(国産陶器)

図録番号	窯法	器科	器名	造器時代	出所	重量(g)	色調	備考	登録番号
313	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	19.6	外: 2.536/2灰黄色 内: 10Y7.5/1.5黄褐色		7380111
314	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	11.7	外: 2.546/1黄褐色 内: 2.536/2黄褐色		7380116
315	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	42.1	外: 2.527/1.5黄褐色 内: 5Y2-10.5	赤土(宇佐美窯?)	7380115
316	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	146.4	外: 5Y5-10.5 内: 5Y5-10.5	赤土(宇佐美窯?)	7380118
317	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	41.8	外: 2.527/1.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380119
318	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	79.1	外: 2.527/1.5黄褐色 内: 2.536/2黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380120
319	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	147.3	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.537/2.5白	赤土(宇佐美窯?)	7380113
320	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	38.0	外: 2.527/1.5黄褐色 内: 2.537/2.5白	赤土(宇佐美窯?)	7380115
321	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	77.2	外: 10Y2.1/1.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色	赤土?	7380116
322	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	25.3	外: 2.527/1.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380117
323	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	148.8	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380118
324	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	40.8	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380119
325	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	59.7	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	内面に黒染	7380120
326	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	65.5	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380121
327	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	33.8	外: 2.527/1.5黄褐色 内: 2.527/1.5黄褐色	2点組合	7380122
328	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	23.5	外: 10Y2.1/1.5黄褐色 内: 2.548/1.5黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380123
329	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	39.0	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380125
330	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	45.0	外: 10Y2.1/1.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色	2点組合 外面に黒染(黒染土?)	7380125
331	同焼	蓋	鉢形	50-31-3	川原	73.6	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	?	7380129
332	同焼	蓋	鉢形	50-11 萩原区	横店下の灰褐色土	38.9	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380131
333	同焼	蓋	鉢形	55-47	藤十	18.3	外: 2.536/2.5黄褐色 内: 2.536/2.5黄褐色		7380144
334	同焼	蓋	鉢形	51-43	横店(1-7号)	43.3	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380136
335	同焼	蓋	鉢形	51-43	横店(1-7号)	207.8	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	2点組合	7380138
336	同焼	蓋	鉢形	51-43	横店(1-7号)	16.7	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380172
337	同焼	蓋	鉢形	48-44 萩原区	萩原	71.5	外: 10Y2.1/1.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色		7380185
338	同焼	蓋	鉢形	49-11 萩原区	1号	26.9	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.527/2.5黄褐色		7380187
339	同焼	蓋	鉢形	48-44 萩原区	萩原	31.1	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色	内面に黒染	7380191
340	同焼	蓋	鉢形	49-11 萩原区	萩原	4.3	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380192
341	同焼	蓋	鉢形	49-11 萩原区	萩原	8.0	外: 10Y2.1/1.5黄褐色 内: 2.527/2.5黄褐色		7380191
342	同焼	蓋	鉢形	49-11 萩原区	萩原	28.2	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色	内面に黒染	7380189
343	同焼	蓋	鉢形	49-11 萩原区	萩原	62.1	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	内面に黒染	7380191
344	同焼	蓋	鉢形	48-44 萩原区	萩原	24.7	外: 10Y2.1/1.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色		7380196
345	同焼	蓋	鉢形	49-11 萩原区	萩原	27.5	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380190
346	同焼	蓋	鉢形	48-44 萩原区	萩原	19.8	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色		7380199
347	同焼	蓋	鉢形	49-11 萩原区	萩原	28.0	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	内面に黒染	7380196
348	同焼	蓋	鉢形	48-44 萩原区	萩原	22.9	外: 10Y2.1/1.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色		7380194
349	同焼	蓋	鉢形	49-11 萩原区	萩原	48.8	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	2点組合	7380111
350	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	17.9	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380194
351	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	17.2	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380125
352	同焼	蓋	鉢形	49-47	横店	11.9	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380126
353	同焼	蓋	鉢形	50-31-3	川原	8.9	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380130
354	同焼	蓋	鉢形	50-11 萩原区	1号	25.5	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380133
355	同焼	蓋	鉢形	50-47	藤十	29.2	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380139
356	同焼	蓋	鉢形	50-17	藤十	42.1	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380142
357	同焼	蓋	鉢形	50-47	藤十	46.1	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	赤土(宇佐美窯?)	7380142
358	同焼	蓋	鉢形	50-17	藤十	106.6	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380140
359	同焼	片山鉢	鉢形	49-47	横店	75.9	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	内面黒染	7380113
360	同焼	片山鉢	鉢形	50-11 萩原区	萩原	139.0	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色	内面黒染	7380152
361	同焼	蓋	鉢形	49-44	横店	4.0	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 10Y2.1/1.5黄褐色		7380139
362	同焼	蓋	鉢形	50-11 萩原区	横店下の灰褐色土	10.8	外: 2.548/2.5黄褐色 内: 2.548/2.5黄褐色		7380135

表9-4 遺物観察表(国産陶器)

国産番号	産地	器種	形状	産地	器種名	材質	重量(g)	色調	備考	記録番号
362	伊美	甕	鉢形	A7 3区	陶器	23.7	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a143
361	伊美	甕	鉢形	A1区	陶器	26.9	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	押印(不明) 外周に5文字		ZR0a144
362	伊美	甕	鉢形	A7 3区	陶器	23.6	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a146
366	伊美	甕	鉢形	A2-H24区(ボルト)	日曜	33.6	外: 7. 3YR5.5/2.5黄褐色 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(捺文字)		ZR0a147
361	伊美	甕	鉢形	A2区	陶器	17.9	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	押印(半行捺線文)		ZR0a148
368	伊美	甕	鉢形	A2C 1区(ボルト)	濁赤	38.9	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色			ZR0a130
369	伊美	甕	鉢形	A2区	陶器	29.1	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a129
370	伊美	甕	鉢形	B2区	濁赤色土	126.7	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a133
371	伊美	甕	鉢形	B2区	濁赤色土	116.3	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(捺線文)		ZR0a134
372	伊美	甕	鉢形	B2区	濁赤色土	128.9	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色			ZR0a135
373	伊美	甕	鉢形	C1区	日曜	7.9	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a136
374	伊美	甕	鉢形	C1区	日曜	30.3	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印?		ZR0a139
375	伊美	甕	鉢形	C1区	日曜	20.2	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(不明)		ZR0a140
376	伊美	甕	鉢形	C1区	濁赤	3.9	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(半行捺線文)		ZR0a166
377	伊美	甕	鉢形	C1区	日曜	17.5	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	押印(半行捺線文)		ZR0a162
378	伊美	甕	鉢形	A2 2区(ボルト)	日曜	48.1	外: 7. 3YR5.5/2.5黄褐色 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(捺文字)		ZR0a144
379	伊美	甕	鉢形	A2C 1区(ボルト)	濁赤	30.1	外: 7. 3YR5.5/2.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色			ZR0a138
380	伊美	甕	鉢形	B2区	日曜	43.8	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a137
381	伊美	甕	鉢形	B2区	日曜	23.6	外: 7. 3YR5.5/2.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	押印(捺線文)		ZR0a135
382	伊美	甕	鉢形	C1区	日曜	22.6	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色			ZR0a132
383	伊美	甕	鉢形	C1区	日曜	19.9	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(半行捺線文)		ZR0a163
384	伊美	甕	鉢形	D5区	日曜	17.1	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	外周に7文字		ZR0a165
385	伊美	甕	鉢形	50-51-42	1区	54.2	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	押印(捺線文)		ZR0a167
386	伊美	甕	鉢形	50-51-42	1区	30.9	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a168
387	伊美	甕	鉢形	50-51-47	1区	48.8	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a169
388	伊美	甕	鉢形	50-51-42	1区	31.0	外: 3. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a171
389	伊美	甕	鉢形	50-51-47	1区	63.7	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	押印(半行捺線文)		ZR0a173
390	伊美	甕	鉢形	50-51-42	1区	130.6	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(捺文字)		ZR0a174
391	伊美	甕	鉢形	50-51-47	1区	102.2	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(捺文字)		ZR0a176
392	伊美	甕	鉢形	50-51-42	1区	76.8	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	押印(半行捺線文)		ZR0a177
393	伊美	甕	鉢形	49-42	濁赤	68.5	外: 3. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(半行捺線文)		ZR0a179
394	伊美	甕	鉢形	49-42	濁赤	46.8	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a180
395	伊美	甕	鉢形	49-42	濁赤	9.0	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a182
396	伊美	甕	鉢形	49-42	濁赤	38.3	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a183
397	伊美	甕	鉢形	49-42	濁赤	136.3	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(捺文字)		ZR0a184
398	伊美	甕	鉢形	72SD1区上	1区	50.0	外: 10YR7.5/1.5黄褐色 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(捺文字)		ZR0a189
399	伊美	甕	鉢形	1区	1区	201.7	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	1周に6 押印(半行捺線文) 外周に6文字		ZR0a186
400	伊美	甕	鉢形	72SD1区上	1区	50.9	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(半行捺線文)		ZR0a190
401	伊美	甕	鉢形	72SD1区上	1区	60.8	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(半行捺線文)		ZR0a193
402	伊美	甕	鉢形	72SD1区上	赤土	25.1	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 10YR5.5/1.5黄褐色			ZR0a196
403	伊美	甕	鉢形	72SD1区上	赤土	136.0	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	2周に6		ZR0a197
404	伊美	甕	鉢形	50-51-44	1区、濁赤	21.3	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色			ZR0a198
405	伊美	甕	鉢形	50-51-44濁赤	赤土	25.0	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 10YR5.5/1.5黄褐色			ZR0a201
406	伊美	甕	鉢形	50-51-44	赤土	50.5	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	押印(捺文字)		ZR0a199
407	伊美	甕	鉢形	50-51-44濁赤	1区	37.0	外: 7. 3YR5.5/2.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色	外周に捺線文		ZR0a202
408	伊美	甕	鉢形	50-51-44	1区	61.8	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土			ZR0a204
409	伊美	甕	鉢形	50-51-44	1区	62.3	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(半行捺線文)		ZR0a207
410	伊美	甕	鉢形	50-51-44	1区	48.1	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色			ZR0a212
411	伊美	甕	鉢形	50-51-44	1区	57.4	外: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土 内: 2. 3YR2.5/2.5黄赤土	押印(半行捺線文)		ZR0a213
412	伊美	甕	鉢形	50-51-44	1区	38.2	外: 10YR5.5/1.5黄褐色 内: 10YR5.5/1.5黄褐色			ZR0a211

表9-5 造物観察表(国産陶器)

図録番号	産地	器種	年代	造器式	形状	重量(g)	色調	備考	登録番号
+12	河内?	蓋	弥生	50-43-44	I層	8.5	黄: 5V4-44(ア)・ア 赤: 2.5V7/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(平行線文)	7380215
111	瀬戸	山	弥生	50-43-44	I層	16.2	黄: 2.5V7/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	外縁に十字	7380216
+15	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	36.0	黄: 10YR7/26(黄)色 赤: 1.5V6/18(赤)色		7380217
116	瀬戸?	蓋	弥生	50-43-44	I層	32.8	黄: 2.5V7/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(平行線文)	7380218
117	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	15.0	黄: 5Y4-34(ア)・ア 赤: 2.5V7/26(黄)色		7380219
118	瀬戸	蓋	弥生	50-43-44	I層	65.7	黄: 5Y4-28(ア)・ア 赤: 10YR6/41(赤)・黄褐色	赤漆(格子文)	7380220
119	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	32.1	黄: 2Y/79(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(格子文)	7380221
480	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	74.7	黄: 2.5V4/26(黄)・黄褐色 赤: 10YR4/18(赤)色		7380222
421	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	64.5	黄: 2.5V7/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(縦横格子文)	7380223
422	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	42.1	黄: 5Y4-44(ア)・ア 赤: 2.5V7/26(黄)色		7380224
123	瀬戸	蓋	弥生	50-43-44	I層	109.2	黄: 2.5V4/26(黄)色 赤: 2.5V3/19(赤)色	赤漆(格子文)	7380225
424	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	36.0	黄: 2.5V6/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(格子文)	7380227
125	瀬戸	蓋	弥生	50-43-44	I層	38.1	黄: 2.5V4/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(縦横文)	7380228
426	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	40.0	黄: 2.5V7/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	内縁に十字(赤)	7380229
127	瀬戸	蓋	弥生	50-43-44	I層	89.8	黄: 2.5V4/26(黄)・黄褐色 赤: 2.5V6/26(黄)・赤		7380231
128	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	95.3	黄: 5Y4/79(黄)色 赤: 2.5V4/26(黄)色	赤漆(縦横文?)	7380232
129	瀬戸	蓋	弥生	50-43-44	I層	31.3	黄: 10YR3/26(黄)色 赤: 10YR4/18(赤)色	赤漆(格子文)	7380233
50	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	56.3	黄: 2Y/79(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(平行線文?)	7380234
131	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	166.8	黄: 5Y4-44(ア)・ア 赤: 10YR4/18(赤)色	赤漆(平行線文)	7380235
132	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	33.8	黄: 2.5V3/19(黄)色 赤: 2.5V3/19(赤)色		7380237
433	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	36.8	黄: 2.5V7/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(格子文)	7380238
133	河内	蓋	弥生	50-43-44	I層	137.3	黄: 5Y4-79(黄)色 赤: 2.5V8/26(黄)色	赤漆(格子文)	7380241
435	河内	蓋	弥生	中米室	内縁に十字上	15.0	黄: 10YR3/26(黄)色 赤: 10YR4/18(赤)色		7380251
136	瀬戸	蓋	弥生	51-32-35	造1	29.3	黄: 10YR3/26(黄)色 赤: 10YR4/18(赤)色	赤漆(平行線文)	7380252
+37	河内	蓋	弥生	51-32-35	造1	77.4	黄: 2.5V4/26(ア)・ア 赤: 2.5V7/26(黄)色		7380258
137	瀬戸	蓋	弥生	51-32-35	造1	45.0	黄: 10YR3/26(黄)色 赤: 10YR3/26(黄)色	赤漆(平行線文)	7380261
138	河内	蓋	弥生	51-32-35	造1	39.6	黄: 5Y4-34(ア)・ア 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(平行線文)	7380263
139	瀬戸	蓋	弥生	85A	I層	102.3	黄: 10YR4/26(黄)色 赤: 10YR2/18(赤)色	赤漆(平行線文)	7380265
11	河内	蓋	弥生	51-32-35	造1	31.8	黄: 2.5V7/26(黄)色 赤: 10YR7/18(赤)色		7380267
44	河内	片門扉	弥生	中米室	縦横	65.3	黄: 2.5V6/19(黄)色 赤: 2.5V6/19(赤)色	輪花に十字文	7380240
45	出雲	蓋	弥生	50-31-2	I層	34.3	黄: 10YR3/26(黄)色 赤: 10YR3/26(黄)色		7380273
444	富山?	蓋	弥生	50-31-2	I層	38.5	黄: 2.5V6/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色		7380275
445	出雲	山	弥生	49-42-3	I層	23.1	黄: 2.5V3/27(ア)・ア 赤: 2.5V6/26(黄)色	赤漆(縦横格子文)	7380428
446	富山?	器蓋	弥生	50-31-2	I層	106.1	黄: 5Y4-44(ア)・ア 赤: 2.5V4/26(ア)・ア 赤: 2.5V4/26(ア)・ア 赤: 5YR1/31(赤)・黄褐色	造1・造2 龍元高6.6cm 羽付高さ2.5cm	7380470
447	富山?	蓋	弥生	50-31-2	I層	14.5	黄: 2.5V4/26(ア)・ア 赤: 5Y4-28(ア)・ア 赤: 10YR3/26(黄)色	赤漆(平行線文?)	7380484
448	富山?	蓋	弥生	72SD16上	造1	22.9	黄: 2.5V7/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色		7380495
449	富山?	蓋	弥生	72SD16上	I層	74.9	黄: 2.5V2/19(黄)色 赤: 2.5V4/26(ア)・ア 赤: 2.5V7/26(黄)色	赤漆(平行線文)	7380491
450	富山?	蓋	弥生	72SD16上	I層	37.1	黄: 2.5V4/26(ア)・ア 赤: 2.5V7/26(黄)色		7380493
451	富山?	蓋	弥生	72SD16上	I層	42.8	黄: 5Y4-34(ア)・ア 赤: 10YR4/18(赤)色		7380494
452	富山?	蓋	弥生	50-43-44	造上, 造1	115.0	黄: 5Y4-24(ア)・ア 赤: 10YR5/18(赤)色	赤漆(平行線文)	7380280
453	富山?	蓋	弥生	51-4344上	I層	30.0	黄: 5Y7/19(黄)色 赤: 10YR4/18(赤)色		7380205
454	富山?	山	弥生	51-4344上	I層	17.4	黄: 1.5V1/18(黄)色 赤: 2.5V4/26(ア)・ア 赤: 2.5V6/19(赤)色	内外縁にも丸線	7380206
455	富山?	蓋	弥生	51-4644上	I層	26.7	黄: 10YR6/41(赤)・黄褐色 赤: 10YR6/41(赤)・黄褐色	内縁に十字	7380208
456	出雲	蓋	弥生	50-43-44	I層	39.2	黄: 5Y4-24(ア)・ア 赤: 2.5V3/19(赤)色		7380209
457	富山?	蓋	弥生	51-4344上	造上	40.7	黄: 1.5V3/19(ア)・ア 赤: 2.5V7/26(黄)色		7380211
458	富山?	蓋	弥生	51-4344上	造上	71.9	黄: 2.5V3/19(黄)色 赤: 10YR5/18(赤)色	赤漆(縦横格子文)	7380273
459	富山?	蓋	弥生	51-4644上	I層	48.0	黄: 10YR4/22(赤)・黄褐色 赤: 10YR7/18(赤)・黄褐色	内縁に十字	7380209
460	富山?	蓋	弥生	51-32-35	造1	66.9	黄: 2.5V4/26(黄)色 赤: 2.5V7/26(黄)色		7380272
461	富山?	蓋	弥生	51-32-35	造上	31.7	黄: 10YR4/26(黄)色 赤: 10YR3/26(黄)色		7380269
462	富山?	蓋	弥生	51-32-35	造上	32.2	黄: 5Y7/26(黄)色 赤: 10YR3/26(黄)色		7380264

表9-6 遺物観察表(国産陶器)

図録番号	産地	器種	形状	器名	材質	重量(g)	色調	胎土	備考	図録番号
460	京産	甕	甕部	31・52・45	埴土	181.0	外:2.5YR7/2灰白色 内:2.5YR7/2灰白色			73R0c29
461	京産	片口鉢	口縁部	30・37・44	1層	82.7	外:2.5YR6/3灰白色 内:2.5Y7/2灰白色		焼成不良	73R0c211
462	京産	片口鉢	底部	17SD1直上	1層	8.3	外:10YR7/2灰白色 内:2.5YR6/3灰白色		内面に鉄屑	73R0c186
466	京産	片口鉢	甕部	30・31・44	1層	53.9	外:2.5YR6/3灰白色 内:2.5YR6/3灰白色		内面に鉄屑・炭灰付	73R0c210
469	本産	甕	甕部	17SD1直上	1層	22.8	外:2.5YR6/3灰白色 内:2.5YR6/3灰白色		押付?	73R0c185
468	京産	甕	体部	53・55・51直	1層	22.0	外:10YR7/2灰白色 内:2.5YR6/3灰白色		外面に鉄屑	73R0c202
469	京産	甕	体部	50・43・44	1層	66.7	外:10YR7/2灰白色 内:2.5YR6/3灰白色		外面に鉄屑	73R0c213
470	京産	甕	体部	50・43・44	1層	35.1	外:10YR6/3灰白色 内:10YR6/3灰白色		外面に鉄屑	73R0c206
471	京産	甕	体部	53・55・51直	1層	9.7	外:10YR7/2灰白色 内:2.5YR6/3灰白色		外面に鉄屑	73R0c210
482	京産	甕	甕トレンテ		1層	11.9	外:10YR7/2灰白色 内:10YR7/2灰白色		焼成不良	73R0c186
483	京産	甕	体部	甕トレンテ	1層	7.4	外:10YR6/3灰白色 内:10YR6/3灰白色			73R0c282
484	京産	片口鉢	体部	甕トレンテ	1層	10.4	外:2.5YR7/2灰白色 内:2.5YR7/2灰白色			73R0c209
485	京産	甕	体部	甕トレンテ	1層	10.7	外:2.5YR7/2灰白色 内:4.0YR7/2灰白色		外面に鉄屑	73R0c220
486	京産	甕	甕トレンテ		1層	6.9	外:2.5YR7/2灰白色 内:2.5YR7/2灰白色			73R0c171
-	京産	甕	体部	72SD1 4F	陶磁土上	1.8	外:5YR7/2灰白色 内:2.5YR7/2灰白色		写真複製	73R0c30
-	京産	甕	体部	49・4	埴土	3.3	外:2.5YR6/3灰白色 内:2.5YR6/3灰白色		写真複製	73R0c172
-	京産	甕	体部	31・31 斜線部	埴土	4.1	外:2.5YR6/3灰白色 内:2.5YR7/2灰白色		写真複製	73R0c187
-	京産	甕	体部	中央部72SD13	陶磁土上	3.0	外:2.5YR6/3灰白色 内:10YR7/2灰白色		写真複製	73R0c254
-	京産	甕	体部	甕トレンテ	1層	2.2	外:2.5YR7/2灰白色 内:2.5YR7/2灰白色		写真複製	73R0c308

表10 遺物観察表(輸入陶磁器)

図録番号	産地	器種	形状	器名	材質	重量(g)	色調	胎土	備考	図録番号
52	白磁	甕	口縁部	72SD1 1H	磁土	3.5	7.5Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點	73R0c61
53	白磁	甕	体部	72SD1 4F	磁土	6.7	10Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	内面に鉄屑	73R0c62
54	白磁	甕	底部分	72SD1 51・11	磁土	4.5	外:10Y7/2灰白色 内:10Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點? 内面に鉄屑	73R0c63
55	白磁	甕	体部	72SD1 3H直筒	磁土	4.6	外:2.5Y7/2灰白色 内:2.5Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點	73R0c65
56	白磁	甕	体部	72SD1 52・44	埴土	12.9	10Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點	73R0c64
57	白磁	甕	体部	72SD1 53・41	磁土	13.7	外:2.5Y7/2灰白色 内:10Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點	73R0c65
58	白磁	甕	体部	72SD1 55・47	磁土	16.7	外:10Y7/2灰白色 内:2.5Y7/2灰白色	砂粒含む	焼成不良 外面に鉄	73R0c105
59	白磁	甕	口縁部	72SD1 1直	磁土(黄鉄鉱混入)	1.3	10Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點	73R0c66
472	白磁	甕	体部	A3C 甕(4・6)	磁器	2.1	7.5Y7/2灰白色	灰白色・楕圓		73R0c611
473	白磁	甕	口縁部	49・4 長筒型	磁器	7.5	10Y6/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點	73R0c69
474	白磁	甕	口縁部	C1C	磁器	3.5	7.5Y7/2灰白色	灰白色・楕圓		73R0c114
475	白磁	片口鉢	体部	16直	磁器	14.8	7.5Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點 外面に鉄屑	73R0c103
476	白磁	甕	体部	48・4 長筒型	磁器	9.4	5Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點	73R0c68
477	白磁	甕	体部	50・4 長筒型	磁土・硝子	4.7	10Y7/2灰白色	灰白色・楕圓	黒點	73R0c20
478	白磁	甕	体部	30・31	磁器	22.2	外:2.5YR6/3灰白色 内:2.5YR6/3灰白色	砂粒含む	外面に鉄屑 73R0c121から複製	73R0c106
479	白磁	甕	体部	16直	陶磁土上	3.1	外:2.5YR6/3灰白色 内:2.5YR6/3灰白色	砂粒含む	外面に鉄屑	73R0c102
480	白磁	甕	体部	C1直	磁器	4.7	外:2.5YR6/3灰白色 内:2.5YR6/3灰白色	砂粒含む	73R0c161から複製	73R0c107
481	白磁	甕	体部	C2直 北島産	陶磁土(硝子混入)	7.0	外:2.5YR6/3灰白色 内:2.5YR6/3灰白色	砂粒含む	73R0c164から複製	73R0c108

表11 遺物観察表(瓦)

図録番号	産地	器名	形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	色調	その他	図録番号
59	新瓦	17SD1 51・45	直山直上	107	55.3	12.6	53.9	N7.5/6 色 藍上:2.5YR/2灰白色		73R1

表12 遺物観察表（土製品）

品目番号	種類	品名	細目	重量(g)	点数	備考
73RP1	土門	72501 1区西境ペルト盆	茶色土	26.6	1	
73RP2	土牛	72502 南トレンテ	土層	32.0	5	
73RP3	土上	72502 南トレンテ	1層	113.8	16	
73RP4	土上	72502 南トレンテ	1層	2.7	1	
73RP5	土牛	72502 南トレンテ	磁気色土	22.8	1	
73RP6	土上	72502 南トレンテ	磁気色土	5	1	
73RP7	土上	72501 3区西境	土上	17.8	1	
73RP8	土牛	72501(53-66・47)	磁気	24.7	1	
73RP9	土上	35-47	土上	10.4	1	
73RP10	土牛	72502 1区	土上位置褐色土	6.8	1	
73RP11	土上	72502 1区	土上伊勢褐色土	13.1	1	
73RP12	土上	72502 1区	土上伊勢褐色土	10.2	3	
73RP13	土牛	72502 1区	土上位置褐色土	17.6	1	
73RP14	土上	72502 1区	土上伊勢褐色土	4.4	1	
73RP15	土上	72502 3区	磁気色土	3.2	1	
73RP16	土牛	72502 3区	土上伊勢褐色土	21.9	4	
73RP17	土上	72502 3区	土上伊勢褐色土	6.0	1	
73RP18	土上	72502 3区	中央磁気	3.5	1	
73RP19	土上	72502 北トレンテ	土層	5.4	1	
73RP20	土上	72502(51+45)	磁気	15	7	
73RP21	土牛	72502(51+46)	磁気	7.7	3	
73RP22	土上	73030a5 トレンテ西	埋土	3	1	
73RP23	土上	73281 4区西境	土層	4	1	
73RP24	土牛	73031 B3a北トレンテ	土層	14.7	4	
73RP25	土上	35-44磁気層	磁気色土	3.4	1	
73RP26	土上	35-51 43	土層	11.5	1	
73RP27	土牛	B3a	土層	6.3	1	
73RP28	土上	K3aE	土層	3.9	1	
73RP29	土牛	平突(72502)	磁気色土	6.5	1	
73RP30	土上	平突(72502)	磁気色土	2.1	1	
73RP31	土上	平突北(72502)	磁気色土	3.2	1	
73RP32	土牛	平突南	磁気	20.2	2	
73RP33	土牛	磁気トレンテ	1層	11.5	1	

V 付章 柳之御所遺跡出土資料の再整理（中間報告1）

文字資料出土遺構の様相

1. 出土文字資料の概要

柳之御所遺跡出土の膨大な資料のなかで広く知られている資料のひとつである「人々給絹日記」に代表されるように、柳之御所遺跡からは多くの文字資料の出土が知られている。これまでに70次を超える調査が行われ、堀内部地区からは89点の文字資料が出土している。この他に刷書があるもの文字ではなく、線が描かれているのみの資料も出土している。文字資料は、その記載内容が遺跡の性格をめぐる議論などに益する点も多いと考えられ、これまでも検討が行われてきた。また、柳之御所遺跡については出土文字資料は基本的に報告されており、これまで確認したものは本報告資料は確認できなかった。しかし、柳之御所遺跡出土資料は、釈読が難しい資料が多いこともあり、必ずしも内容が明らかにされているとは言えない面もある。岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査研究を進める中で平泉文化研究を実施し、その一環として柳之御所遺跡出土資料の整理を行うとともに共同研究として文字資料の再検討を行っている（岡 ほか2012）。これまでの文字資料の記載内容についての検討成果は「平泉文化研究年報」で経過を公表しているほか、釈読の検討がまとまった段階で示していく予定である。本来であれば遺構の概要と、文字資料の内容とを合わせて提示すべきものだが、全体を示すまでに至っていない。そこで、ここでは検討の前提として、柳之御所遺跡堀内部を対象に文字資料が出土した遺構の概要をまとめて提示しておきたい。前述のとおり、これらの資料は基本的に既報告の資料であり、各概報中に資料写真等は掲載されており、詳細についてはそれを参照願いたい。

柳之御所遺跡堀内部からは89点の文字資料が出土している。墨書土器が12点、折敷の再加工品を含む木簡類が49点、折敷が8点、削屑が6点である。記載の内容は片仮名、平仮名が多く、内容が不明なものが多い。東北地方で文字資料の出土が多い古代の城柵官衙遺跡と比較して、記載内容では漢字内容が少ないこと、文字資料では定型化した木簡類や削屑が少ないことが特徴として挙げられる。出土遺構をまとめると表のとおりである（表13）。

2. 遺構の概要

1) 堀跡

21SD1・41SD2

柳之御所遺跡を区画する2条の堀跡のうち、内側の堀跡である。遺跡南端部の範囲では外側の堀跡である21SD2より新期の遺構と考えられる。もともと規模の大きいところで幅は14m、深さは4m以上ある大規模な堀跡で、遺跡北側は北上川による削平のため不明だが、柳之御所遺跡を囲んでいたと考えられている。断面形状は遺跡南端部では逆台形状、遺跡北端部ではV字状に確認しており、両者の関係など未調査範囲での様相が今後の検討課題である。堆積土はいずれも自然堆積によるもので、埋没には地点ごとに時間差があったと考えられているが、近温段階までくぼみとして残っていたとみられる。堀跡では現在まで3地点で橋跡が確認されており、伽羅御所方面へと向かう位置（21SX35）、北上川方面へと至る位置（23SX12）、中尊寺方向へと向かう位置（41SX1）と堀の内外を結ぶ位置が判明しているほか、未調査範囲で存在が推測される位置もある。

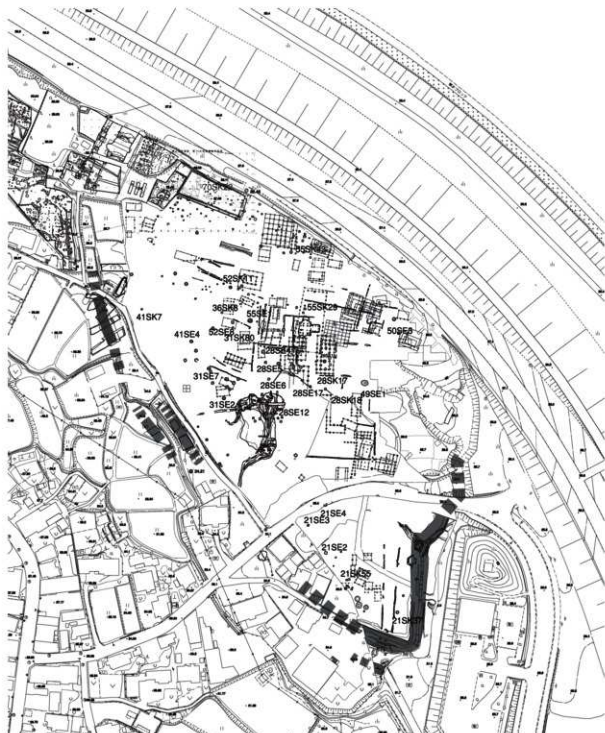


図35 文字資料出土遺構分布図

かわらけや四産、輸入の陶磁器類を含めて遺跡内でも、もっとも多くの遺物が出土した遺構で、水成堆積の土層もあり木製品も多く出土している。文字資料は墨書かわらけ、板片などがある。遺物は12世紀後半以降の遺物を主体に、柳之御所遺跡廃絶に至る各時代の遺物が含まれ、自然堆積による土層からの出土のため詳細の時期には不明な点もあるが、文字資料も12世紀後半以降のものが多いと考えられる。

21SD2 (69SX3)・56SD39

櫛之御所遺跡を区画する2条の堀跡のうち、外側の堀跡である。遺跡南端部の範囲では溝の切り合いから21SD1より旧期の遺構と考えられる。規模は幅が4～5m、深さが2m程で、逆台形状の断面形である。掘り返しの痕跡がある範囲もあり、部分的に改修が行われたことがわかる。いずれの調査地点でも、自然堆積層が入るもの、人為堆積の土層で埋められている範囲が多い。南端部などで整地層が覆われた範囲があるなど、内側の堀跡と比して複雑な遺構変遷が捉えられることも特徴的である。遺物は人為堆積層でもあり、多くのかわらけ等が出土している。

69SX3とした遺構は遺跡南端部の21SD2の堆積土を切って確認できる土坑で、人為堆積土で埋められており、橋部材などの多くの木材が出土していることから、それらを短期間の中で廃棄した土坑と考えられる。時期は堀跡が埋め戻された際のものであり、廃絶時に埋め戻したものとみている。12世紀後半の遺物とともに出土しており、12世紀第3四半期ごろと考えられる。多くの木製品が含まれており、墨書資料もこれに含まれている。文字資料も同時期の遺物と考えられる。墨書資料のうち、「タラウエニ」文と記された資料は記載内容と合わせて注日できる。

2) 井戸跡

21SE2

遺跡の南端部に近い範囲で確認された井戸跡で、平面形は径約2mの円形で、深さが約5.5mである。井戸枠が残っている。垣土は一部に礫を含む人為堆積土があるが、多くは自然堆積土である。遺物はかわらけや国産陶器のほか、瓦も出土しており、12世紀第3四半期ごろとみられる。その他、扇骨や下駄、折敷片、漆器類などの木製品も出土している。文字資料は木簡類が出土している。文字資料もこれらとともに出土し、同様に12世紀第3四半期ごろの年代とみられる。

21SE3

遺跡の中央南寄りから南端部にかけての範囲で確認している。上面は大きく削平を受けているが、平面形は径1.5m程の円形で、深さが約3.8mである。土層は下層は自然堆積によるが、中層以上は人為堆積でこの層からかわらけが多く出土している。遺物はかわらけが40kg以上と多量に出土しているほか、折敷の再加工品などの木製品が出土している。かわらけの特徴から、12世紀第3四半期後半から第4四半期初頭ごろと考えられる。文字資料は墨書かわらけが出土しているほか、文字が識別できないが墨書が記されたかわらけが出土している。文字資料も人為堆積層から出土しており、他の出土遺物と同時期と考えられる。

21SE4

遺跡の中央から南端部にかけての範囲で確認している。半分が調査区外となっており、平面形は約2m四方の方形で、深さは不明である。人為堆積の土層で埋められており、遺物はここから出土している。遺物はかわらけが多量に出土しているが、多くを手づくね成形の資料が占める。その他、国産、輸入の陶磁器類、瓦が出土している。遺物の特徴から、12世紀第4四半期とみられる。文字資料は花押が記されている白磁四耳壺が人為堆積層から出土している。

28SE2

遺跡の中心部とみられる範囲で確認しており、28SB2、28SB6と空間的に重なる範囲である。28SB2の柱穴を切ると記載されているが、断面の観察からは抜き取りとみられる土層も存在し、新口が前後する可能性もある(岩手県教委2008)。遺物はかわらけ、折敷が出土しており、かわらけの特徴から12世紀中葉ごろと考えられるほか、1130年と1141年の年輪年代をもつ折敷が出土している。なお、折敷の再加工品のほか、ほぼ完形のまま廃棄された折敷も含まれる。文字資料は墨書かわらけのほか、「寝

「殿造」の建物が描かれた折敷、ひらがなが記された折敷が出土している。

28SE4

遺跡の中心部とみられる範囲で確認された井戸跡で、28SB5と重なり、28SB5より新しい遺構である。土層は下層から中層は人為堆積による層で遺物が多く出土している。上層は自然堆積層で近世段階の陶器が出土しており、新しい時期の土層と考えられる。遺物は下層の人為堆積層から多く出土しており、かわらけのほか、折敷や箸、糸巻き、漆器類などの木製品が含まれる。出土遺物の特徴から12世紀中葉ごろと考えられるほか、1124年の年輪年代をもつ折敷が出土している。文字資料は墨書かわらけのほか、削眉が出土している。人面が描かれた墨書かわらけも出土している。

28SE5

遺跡の中心部とみられる28SB2等の周辺で確認された井戸跡で、一辺が約1.5m程の方形で深さが約3.6mである。上層は上層の人為堆積と下層の自然堆積とにわかれる。遺物は自然堆積層からの出土が多く、かわらけのほか、糸巻きや箸などの木製品が出土している。また、自然堆積土である4層から白磁や青白磁がまぎれまぎれ出土しており、二次被熱の痕跡が多いのも特徴である。かわらけの特徴から12世紀中葉と考えられる。文字資料は墨書かわらけが自然堆積層から出土しており、同様の年代と考えられる。

28SE11

遺跡の中心部に28SB4、28SB8と空間的に重なり、それらの中心部に位置する。径が約1.8mほどの円形で、深さが約4.4mである。下層は人為堆積による埋め戻しが行われ、遺物はこの層から出土している。遺物はかわらけ、折敷、馬具が出土している。遺物の年代から12世紀後半とみられ、柳之御所遺跡内でも新期の遺構のひとつである。木製品の年輪年代では、1180年、1181年の年代が得られている。文字資料は削眉が出土しており、同様の年代と考えられる。

28SE12

遺跡の中心的な範囲である23SG1園池跡に近接する範囲で確認された井戸跡で、上面は削平を受けているが、一辺が約1.3m程の方形で深さが約2m程である。堆積層は下層が自然堆積層で、上層が人為堆積で埋められている。遺物は、下層の自然堆積層から出土し、かわらけ、糸巻きがある。文字資料は木簡が含まれている。かわらけの点数も少なく、遺構の切り合いもないため詳細な年代は不明だが、12世紀後半とみられる。

28SE16

遺跡の中心的な範囲である23SG1園池跡や28SB2に近接する範囲で確認された井戸跡で、一辺約1.5m程の方形で、深さは約3.2mである。堆積層は人為堆積で埋められている。遺物はかわらけが多量に出土し、糸巻きや折敷、箸、柄などの木製品、国産、輸入陶磁器類が出土している。遺物の特徴から12世紀第3四半期ごろと考えられる。木製品の年輪年代では1138年、1158年の年代が得られている。文字資料は呪付や折敷があり、著名な「人々給頼日記」が出土している。このほかに「タタラタタ・・・(以下略)」とカタカナが記された資料がある。これらの資料はかわらけ等とともに人為堆積層から埋め戻された状況で出土しており、同様の年代が考えられるとされる。

28SE17

遺跡の中心的な範囲で確認された井戸跡で、径約1.5m程の円形で深さが約2.3m程である。人為堆積で埋め戻されており、遺物の多くはこれらから出土している。遺物はかわらけのほか、刀子や鬚骨などの木製品のほか、瓦が出土している。12世紀第3四半期後半から第4四半期ごろと考えられる。木製品は木簡が出土しており、同様の年代が考えられる。

31SE2

遺跡中心部に近い23SG1池跡の西側で確認された井戸跡である。一辺が約2m程の方形で、深さが約3.6mである。堆積層は人為堆積で、底面には松鶴鏡が置かれていたほか、上層からは部材がまとまって出土している。かわらけの特徴からは12世紀中葉と考えられる。木製品の年輪年代は1136年の年代が得られている。木製品は木簡が出土しており、同様の年代が考えられる。

31SE7

遺跡中心部の西側で確認された井戸跡である。長径約2.3m、短径1.7m程の不整の楕円形で深さが約5.8m程である。堆積は下層が自然堆積で、人為堆積の中層をはさみ、上層が自然堆積によるものである。焼けた土灰片の出土が特徴的で、中層の人為堆積層にも含まれる。かわらけの出土が多い木製品は折敷加工片とみられる板片や、格子など多く出土している。かわらけの特徴から12世紀第4四半期と考えられる。文字資料は付札状の木簡が出土している。また、墨痕はないが削屑が出土している。文字資料もかわらけ等と同様の年代が考えられる。

41SE4

遺跡の西側で確認された非戸跡で、径約2m程の円形で深さが約3.1m程である。人為堆積により埋め戻されている。かわらけが出土しているほか、下駄や部材、箸などの木製品が出土している。文字資料は呪符が出土している。かわらけの出土が少なく、年代は不明だが、12世紀後半とみられる。

49SE1

遺跡の北東側で確認された非戸跡で、径1.5m程の不整の円形で深さが約1.1mである。人為堆積で埋め戻されており、かわらけが多量に出土している。12世紀第3四半期ごろと考えられる。文字資料は荷札状の木簡が出土している。かわらけ等と同じ人為堆積層から出土しており、同様の年代が考えられる。

50SE3

遺跡の北側で確認された非戸跡で、径約2m程の不整円形で深さが約3m程である。堆積は下層は人為堆積だが、中層以上は人為堆積と自然堆積とがある。かわらけが多量に出土しているほか、完形の白磁四耳壺が出土している。文字資料は折敷再加工品を含む木簡類、銅印「藤前村印」が出土している。文字資料では折敷の再加工品に漢字と平仮名混じりの文字が記された資料など木製品が多く出土している。かわらけの特徴から、12世紀第3四半期後半ごろと考えられる。

52SE8

遺跡の北側で確認された非戸跡で、径約2m程の不整円形で、深さが約4m程である。堆積層は人為堆積層で構成され、遺物は最下層の9・10層から多量のかわらけや国産輸入の陶磁器類、瓦が出土しているほか、7・8層から板材や部材が出土している。その上の6層では焼けた土壁片が多く含まれる。かわらけは手づくねかわらけが大半を占め、特徴から12世紀第4四半期と考えられる。遺跡内でも新しい時期の特徴をもつ土器群である。木製品の年輪年代では9層から出土した折敷で、1186年の年代が得られている。文字資料は最下層の9・10層から7層にかけて出土し、墨書かわらけや折敷片などの木簡類、刻書木簡があり、同様の年代が考えられる。

55SE1

遺跡の中央部で確認された井戸跡で、長径が約3.2m程、短径が約2.8m程の楕円形で、深さが約8.5m程と遺跡内でもっとも深い井戸跡である。井戸枠が確認されている。遺物は上層の堆積土から多量に出土している。出土遺物はかわらけのほか、国産陶器を少量含み、漆器碗や箸、扇骨などの木製品も下層から出土している。かわらけはロクロかわらけのみで構成され、12世紀第2四半期ごろと考えられる。文字資料は木簡が出土しており、同様の年代が考えられる。

55SK43

遺跡の北側で確認された井戸跡で、長径約1.6m程で短径約1.2m程、深さが約2.6m程である。人為堆積で埋め戻されており、かわらけ等が含まれている。遺物はかわらけや青磁、折敷等が出土している。文字資料は木簡が出土しており、12世紀第3四半期後半ごろと考えられる。

3) 園池跡(23SG1)

23SG1は柳之御所遺跡の中心的な範囲と考えられている大型の孤立柱建物跡(28SB2、28SB4ほか)が確認されている範囲と隣接した堀内部地区の中央やや南西寄りの場所で確認されている。当初の調査では2時期での変遷として捉えているが、その後の調査によりI～III期の3時期に区分して理解している。

I期はトレンチ調査で確認したもののため全体形は不明だが、南北に細長く全長が42m、幅が23mと推定している。I期の園池は基本的には地山を掘りこんで造られているが、汀線付近では盛土地業が行われている場所もある。池底は地山面を平坦に成形しており、部分的にI期園池存続時の堆積土とみられる薄い堆積層が残存している。この時期の園池には景石や礫敷きの痕跡は確認されていない。西側に排水溝31SD58が連結し、現状では西側に30m程延びる。幅は1m、深さは最大0.7mの掘りかたに、側板を幅0.5mに据えて暗渠としている。導水施設の可能性もあるが、底面の標高差や堀との高さの違いなどから、排水溝と捉えている。64SX1橋跡が確認されている。なお、導水施設は見つかっていない。

II期は中島を有する園池で、園池南西部は後世の削平によって破壊されており現状では残存していないが、部分的な痕跡が確認できることから全周すると考えている。平面形は南北に細長く、全長42m、最大幅35mである。I期園池の堆積土に盛土を行って、基盤が形成されていることを確認している。したがって、地山が露出する部分が一部にあるが、基本的には池底から岸にかけて盛土になる。調査時では直径10～20cm前後の円礫が部分的に残されており、基本的に全面に円礫が敷かれていたと推定している。この礫群は盛土の中に設置されている。また、原位置を保つものは少ないが、景石が中島の北側を中心に配されている。池底にはまたいくつかの石組みが確認できる。中島は南北25m、東西12mと広い面積をもつが、中島上には園池の存続時期の遺構は確認していない。排水溝は園池南側に連結する31SD59を想定している。

III期は、単にII期園池が廃絶した後の状態をさしてあり、複数の溝跡として確認されている。不確定な状態だが、III期の時期決定が難しく、12世紀に存続している可能性を否定しきれないことや、南端部が人為的に塞がれていることから遺構として便宜的に設定しているからである。

遺物はかわらけ、国産陶器、輸入陶磁器が出土しているほか、瓦がまとまった量出土している。木製品は少ないが、文字資料として将棋駒が出土している。将棋駒はIII期となる溝跡から出土しており、12世紀後半を含むそれ以降の年代と捉えられる。

4) 土坑・柱穴

21SK37

遺跡の南端部で確認された土坑で、径約1.2m程の不整の円形で深さは約0.7m程である。遺物はかわらけや炭化材が出土し、文字資料は刻書土器が出土している。年代は詳細は不明で12世紀代としておく。

21SK55

遺跡南端部で確認された土坑で、径約1.3m程で深さが約1.5m程である。人為堆積で埋め戻されて

おり、かわらけのほか、折敷や曲げ物などの木製品が多量に出土している。かわらけの特徴から12世紀第3四半期ごろと考えられる。木製品は削屑が出土しており、同様の年代が考えられる。

28SK17

遺跡の中心部とみられる範囲で確認された土坑で、一辺が約1.3m程の隅丸方形で、深さが約1.6m程である。下層は自然堆積だが、中層以上は人為堆積による。かわらけが多く出土しているほか、国産、輸入の各陶磁器類が出土している。12世紀第3四半期ごろと考えられる。文字資料は墨書かわらけが出土しており、同様の年代が考えられる。

28SK18

遺跡の中心部と考えられる範囲のやや東側で確認された土坑で、一辺約1m程の方形で深さが約1.6m程である。人為堆積で埋め戻されており、かわらけの他、水晶が出土している。12世紀第3四半期後半から第4四半期と考えられる。文字資料は墨書かわらけが出土しており、同様の年代が考えられる。

31SK80

遺跡の中心部からやや西側で確認された土坑で、径約1m程の円形で深さが約1.6m程である。人為堆積の上層で、下層からはウリ科種子や籐木が出土しており、トイレ状土坑と考えられる。12世紀第3四半期後半から第4四半期と考えられる。文字資料は折敷の再加工品と折敷片が出土しており、同様の年代が考えられる。

36SK8

遺跡の中心部からやや西側の中央部付近で確認された土坑で、径約1.3m程の円形で、深さが約1.6m程である。ウリ科種子や籐木が含まれる人為堆積層で埋め戻されており、トイレ状土坑と考えられる。12世紀第3四半期ごろと考えられる。文字資料は折敷を再加工したとみられる籐木が出土している。戯画の可能性もあるが裁断されており不明である。かわらけ等と同様の年代が考えられる。

41SK7

遺跡の南東端部で確認された土坑で、一辺約1.1m程の隅丸方形で、深さが約1.3m程である。ウリ科種子や籐木が含まれる人為堆積層が確認でき、トイレ状土坑と考えられる。かわらけや木製品のほか、手斧も出土している。かわらけの特徴から12世紀第4四半期と考えられる。木製品は折敷を再加工した籐木の可能性もある木片が出土しており、同様の年代が考えられる。

52SK11

遺跡の北側で確認された土坑で、一辺約1.2m程の方形で深さが約1.8m程である。堆積土に籐木が多量に出土しており、トイレ状土坑とみられる。かわらけや国産陶器、瓦のほか、籐木などの木製品が出土している。かわらけは12世紀第4四半期頃と考えられる。文字資料は墨書かわらけが出土しており、同様の年代が考えられる。

55SK29

遺跡の北側で確認された土坑で、径約1.6m程で深さが約2.2m程である。堆積はローム等を含む人為堆積の土層が含まれる。かわらけや板片が出土しており、12世紀第4四半期ごろと考えられる。文字資料は折敷の再加工品とみられる木簡が出土しており、同様の年代が考えられる。

70SK22

遺跡の北側で確認された土坑で、長径94cm、短径82cm、の円形で深さが290.9cmである。底面標高は21.7mとなる。平面形は円形で、断面形は矩形・台形である。堆積土の状況では4～6層が有機質分の多い上層で、かつ6層では籐木を大量に含んでいることから、トイレ状土坑と判断できる。堆積土最下層の7層は井戸跡などと同様の土質で、井戸を廃絶後にトイレ状土坑として転用した遺構と判

断できる。なお、柳之御所遺跡内では、井戸跡をトイレ状土坑に転用したと考えられるものは55SK51、56SK33があり、いずれも深さが3 m程度である。遺物はかわらけ、陶磁器類のほか、漆木を中心に木製品が多量に出土した。文字資料は折敷片を漆木に転用したものに記載されており、切断状況などから折敷の使用時に記されたものであることがわかる。

55SB11-P1071

遺跡北側で確認された2×5間の2面庇建物跡を構成する柱穴で、線刻のある深美壺が出土している。軸方向などから、建物遺構の年代は12世紀第3四半期ごろと考えられる。

3. 遺構の分布と時期

文字資料が出土した遺構は井戸跡16基、土坑10個、池跡、堀跡などである。堀内部地区内の分布を示した(図35)。遺跡の全体から広く出土しており、分布が集中する様相はみられないが、遺跡の中心部と考えられる28SB2や28SB4などの大型の掘立柱建物跡が位置する範囲に近接して多くの資料が比較的確認されていることがわかる。また遺跡の北側にあたる範囲では文字資料が出土した遺構自体は少ないが、50SE3では文字資料が複数点とまとまって出土している。一方で、中心部の範囲でも点数は各遺構から数点ずつと遺構ごとにもみると含まれる資料が少ない遺構が多い。

これらの出土状況の差は遺構の時間的な特徴を示す可能性もあるが、12世紀中葉の28SE16などでも多くの点数が確認できることから現状では時間的な特徴を強調できない。また、遺構数が少ないことから、これのみで空間的な特徴とは断定できない。点数の差異は遺構の廃絶時の性格や埋め戻しの成因による部分が想定でき、記載内容と合わせて検討を加える必要がある。

また、文字資料の種類にみると、柳之御所遺跡内からは折敷片など板状の木簡類に記載されたものが多く、古代の遺跡で多数報告される木簡などの削屑が少ないことがわかる。この点は遺跡内の木製品の利用形態や時間的な特徴が考えられる。また、削屑が出土した遺構が遺跡中心部と捉えられる範囲に限定されることは、調査時の取り上げの精粗に由来する可能性は残るが、遺跡内の場の使い分けを考える上で注目される。遺跡内から出土した文字資料では折敷の再加工品で確認できる資料が多い。これらの多くは折敷の棧が外されるなどの加工を経たうえで記載され、その後に取り取り等の再加工を受けて他の製品として利用され、廃棄された状況で出土している。

文字資料が出土した遺構は、井戸跡や土坑が多く、その他に池跡や堀跡から出土している。遺跡内では出土遺構の時期をみると、12世紀前半とみられる遺構は1基、12世紀中葉とみられる遺構は6基であるが、12世紀後半とみられる遺構は堀跡や池跡を含めて26基となる。出土遺構の多くが人為堆積であることから廃棄年代を示すものと考えられるが、12世紀後半以降に文字資料が増加することが考えられる。これは12世紀後半に遺跡内の遺構の時期や遺物量が増加することに伴うとみられるが、遺跡の性格など注目される。一方で、12世紀中葉以前の文字資料が含まれることも遺跡の機能を考える上で注目できる。

4. ま と め

柳之御所遺跡において文字資料が出土した遺構をまとめた。文字資料が出土した遺構は井戸跡などが多く、分布は遺跡全体に広がるが、その中でも遺跡の中心的な機能を果たしたと考えられる大規模な掘立柱建物跡などが所在する範囲に多いことがわかる。出土遺構の性格をみると、井戸跡からの出土が多く、その他トイレ状土坑などからも出土している。自然堆積の土層から出土した資料もみられ

るが、多くの文字資料は埋め戻しなどに伴う人為堆積の土層からかわかけ等の他の遺物とともに出土している。

遺構の年代は、遺跡内における遺構の年代ごとの多寡にも影響されるが、12世紀後半の資料が多く、12世紀前半から中葉の遺構からの出土は少ない。

文字資料は記載内容、出土状況、遺物の様相など多面的な特徴をもっており、今回まとめたものはその属性のうちの一つである。今後、記載内容の検討や資料自体にみられる加工の痕跡など、文字資料自体の属性と合わせて検討することで、その性格や意義付けを示すことができるものと考えている。文字資料の記載内容の検討を進めており、それと合わせて提示していきたい。

(櫻井)

引用文献

- 愛知史観さん委員会 2012 『愛知史観 別冊 宮業3 中世・近世 常滑系』
- 岩手県教育委員会 2003 『柳之御所遺跡—第56次発掘調査概報—』岩手県文化財調査報告書第117集
- 岩手県教育委員会 2004 『柳之御所遺跡』岩手県文化財調査報告書第118集
- 岩手県教育委員会 2008 『柳之御所遺跡 第65次発掘調査概報』岩手県文化財調査報告書第125集
- 岩手県教育委員会 2010a 『柳之御所遺跡—第69次発掘調査概報—』岩手県文化財調査報告書第130集
- 岩手県教育委員会 2010b 『柳之御所遺跡—第70次発掘調査概報—』岩手県文化財調査報告書第131集
- 岩手県教育委員会 2011 『柳之御所遺跡 第70次発掘調査概報』岩手県文化財調査報告書第133集
- 岩手県教育委員会 2012 『柳之御所遺跡—第72次発掘調査概報—』岩手県文化財調査報告書第135集
- 岩手県文化財調査事業団埋蔵文化財センター 1995 『柳之御所跡』岩手県文化財調査事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
- 岡藤 一郎・阿部勝則・小岩弘明・時田星志・七海雅人・平田光彦 2012 『平泉出土文字資料の再検討 その1』『平泉文化研究年報』第12号 pp.17-24
- 太平府市教育委員会 2000 『大守府桑坊跡X V—陶磁器分類編—』太平府市の文化財第49集
- 平泉町教育委員会 1993 『柳之御所跡発掘調査報告書—第35次調査概報—』岩手県平泉町文化財調査報告書第32集
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書—柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査—』岩手県平泉町文化財調査報告書第33集
- 光谷由実 2006 『柳之御所遺跡出土木製品の種類年代測定結果』『柳之御所遺跡—第59次発掘調査概報—』岩手県文化財調査報告書第121集
- MHO MUSEUMほか 2010 『古岡の蹟 中世のやきもの』
- 宮城県多賀城跡調査研究所1979 『多賀城漆器文書』宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅰ
- 宮城県多賀城跡調査研究所2011 『多賀城跡木簡Ⅰ』宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅱ
- 八重樫忠郎 2001 『中世前期の時間軸としての遺物』『平泉文化研究年報』第1号 pp.37-46
- 八重樫忠郎 2010 『消費地からの採集編年』『海美T島の考古学』小野田勝一先生追悼論文集 pp.289-299
- 柳之御所遺跡調査事務所 2008 『柳之御所遺跡断内部地区の遺構変遷(中間報告 その4)』『平泉文化研究年報』第8号 pp.63-75

表13 文字資料出土遺構一覧

番号	次数	遺 構			文字資料の種類												
		名称	性情	時期	墨書土器		墨書木製品					刻書資料			その他		
					かわらけ	その他	折敷	板 (2部)	笹俵	呪符	符模刷	刷瓦	土器	木製品			
1		21SD1・41SD2	内側の堀跡	12世紀後半	4	1		2	2								
2		21SD2・56SD39	外側の堀跡	12世紀後半				2									
	69	69SX3						1									
3	23	23SG1	池跡	12世紀後半								2					
4	21	21SE2	井戸跡	12世紀後半				4									
5	21	21SE3	井戸跡	12世紀後半	2												
6	21	21SE4	井戸跡	12世紀後半		1											
7	28	28SE2	井戸跡	12世紀中葉			1	4									1
8	28	28SE4	井戸跡	12世紀中葉	1			1					3				
9	28	28SE5	井戸跡	12世紀中葉	1			1									
10	28	28SE11	井戸跡	12世紀後半									1				
11	28	28SE12	井戸跡	12世紀後半					1								
12	28	28SE16	井戸跡	12世紀中葉			3			2		1					
13	28	28SE17	井戸跡	12世紀後半					1								
14	31	31SE2	井戸跡	12世紀					1								
15	31	31SE7	井戸跡	12世紀後半					1								
16	41	41SE4	井戸跡	12世紀後半							1						
17	49	49SE1	井戸跡	12世紀中葉					1								
18	50	50SE3	井戸跡	12世紀後半				1	9								1
19	52	52SK8	井戸跡	12世紀後半	1			1	5								
20	55	55SE1	井戸跡	12世紀前半					1								
21	55	55SK13	井戸跡	12世紀後半					1								
22	21	21SK30	土坑	12世紀後半											1		
23	21	21SK55	土坑	12世紀中葉									1				
24	28	28SK17	土坑	12世紀	1												
25	28	28SK18	土坑	12世紀後半	1												
26	41	41SK7	土坑	12世紀後半					1								
27	52	52SK11	土坑	12世紀後半	1												
28	55	55SK29	土坑	12世紀後半						2							
29	31	31SK30	トイレ状遺構	12世紀後半					1	1							
30	36	36SK8	トイレ状遺構	12世紀						1							
31	70	70SK22	トイレ状遺構	12世紀後半					1	9							
32	55	F1071 (55SB1)	柱穴	12世紀後半											1		

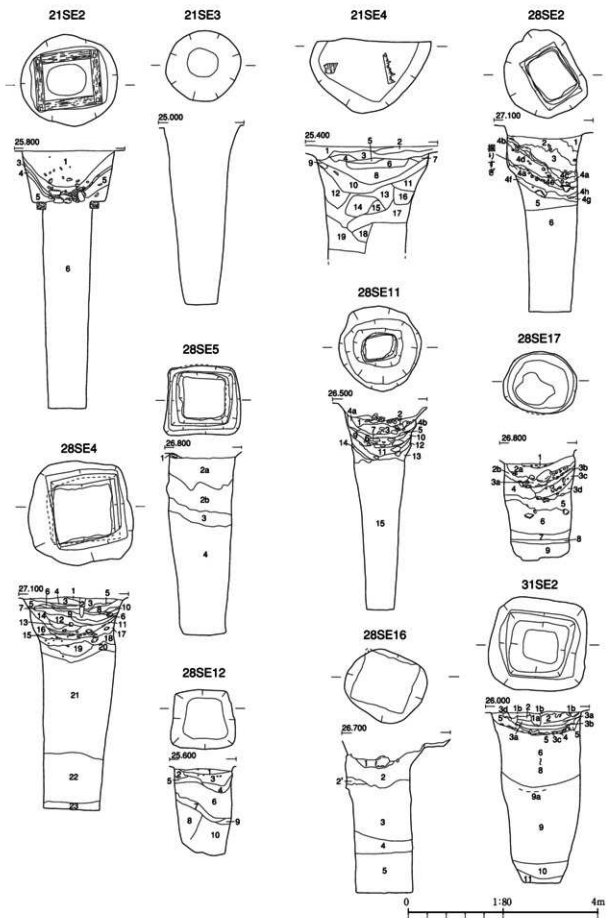


図36 文字資料出土遺構図1

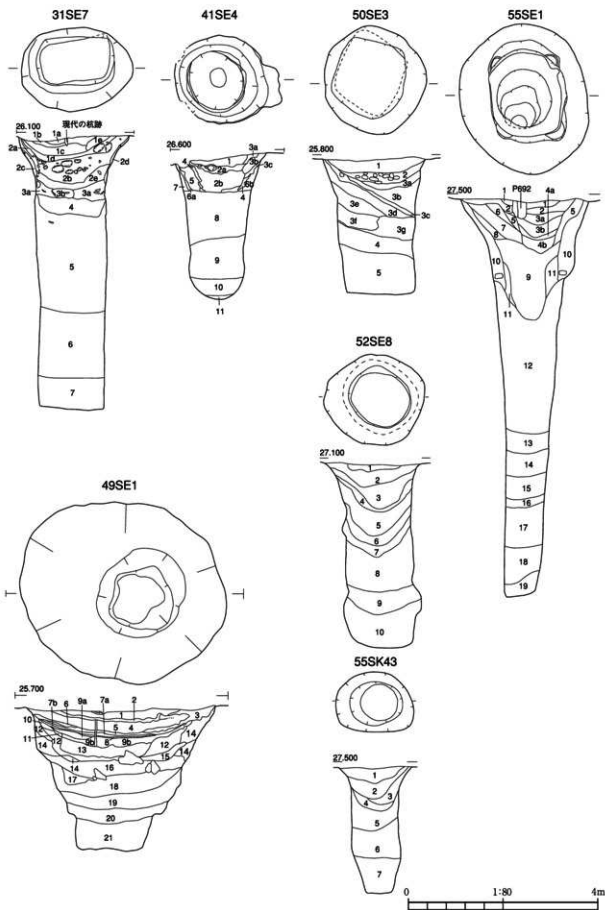


図37 文字資料出土遺構の構相 2

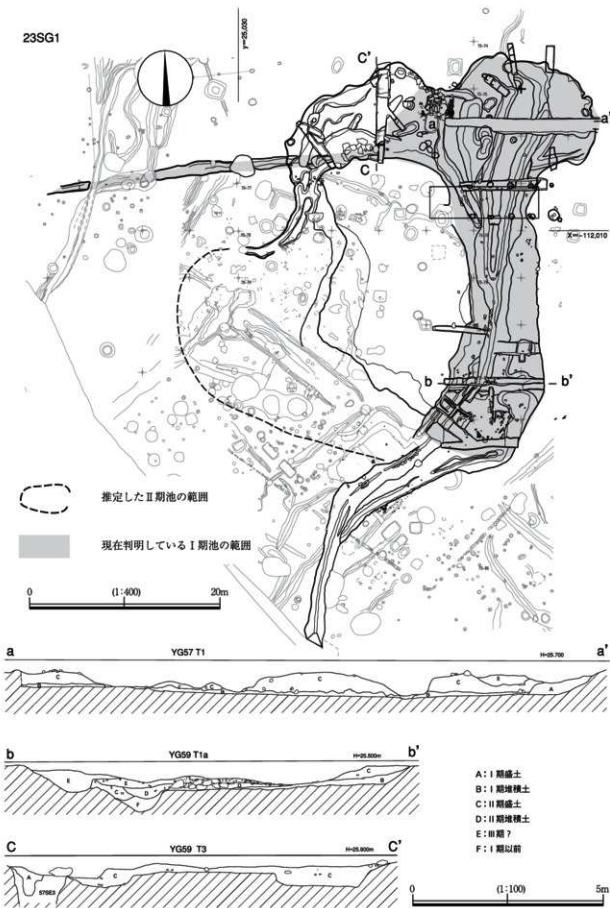


図38 文字資料出土遺構図 3

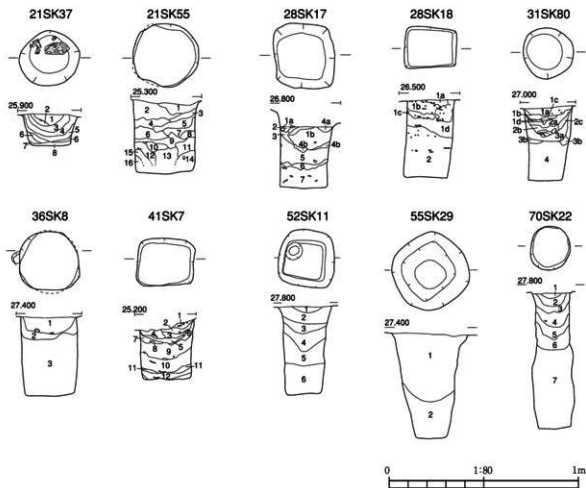


図39 文字資料出土遺構図 4